



奈良教育大学の自然

— 動植物編 —

1990年3月

奈良教育大学

は し が き

私たちの大学は自然に恵まれている。大学の本部構内だけでも350種を越える多くの植物（種子植物）が生えている。研究室の窓を開けていると、トンボやチョウやハチが入ってくる。構内でシカが遊んでいる大学などめったにあるものではない。

大学本部の背景をなす春日山、御蓋山、若草山、高円山もまた、それぞれが代表的な植生を示し、身近な生きた教材である。春日山の林相は照葉樹林の典型を示し、その原生林の一部は特別天然記念物に指定されている。春日大社の境内に位置する御蓋山は裸子植物のナギの純林が発達し、古い神社にふさわしい、黒ぐろとして神さびた森林で被われている。若草山は、冬の山焼きとシカの摂食・踏み付けによって維持される広々とした草地が発達し、大学の借景に明るいアクセントをつけている。高円山のアカマツ林と、コナラ・クヌギの優占する雑木林（二次林）は、西日本の人々にとって最も親しみ深い、懐かしい里山の風情をそなえている。

附属中学校も優れた自然環境の中にある。学校の所有地の「裏山」には自然林が発達している。付近には神社や御陵の森や溜池がある。校内にも樹木が多く、教材園はよく整備されている。

附属農場には、稲をはじめ通常の作物を栽培しているが、同時に見本園や教材園としての機能を果たすことを目指している。そのため、小規模ながら花木、果樹、花卉、観葉植物などを植えている。また「古代作物園」と称して、現在、絶滅に瀕している若干の古い作物の系統保存を図っている。温室やビニールハウスにはいくつかの珍しい植物を栽培している。

附属演習林は約176haの面積を有し、その山頂の標高は1,186mで金剛山や比良山より

も高い。林内の植物相は豊かであり、樹木だけでも200種を越える。山頂部にはブナやミズナラの大木が生い茂っている。春にはヤマザクラやタムシバやシャクナゲが咲き、秋のカエデやブナの紅葉もまた見事である。その広大な自然林にはサルやシカやカモシカが生息している。

大学のこの豊かな自然を多くの人たちに知っていただきたいと願ってこの書を編んだ。当初は地学の分野まで含める計画であったが、今回は生物だけを扱い、「動植物編」とすることになった。動植物関係だけでも、予定していた量をはるかに上回る原稿が集まった。そのため印刷経費の都合で、附属演習林の動植物については止むを得ず別の機会に譲らなければならなかった。

最近、自然を大切にしなければならぬという認識が社会に広く浸透している。誰もが急速に失われゆく自然に対して強い危機感と哀惜の念を抱いている。教育の分野でも、自然に親しみ、自然をよく知ることが、どんなに大切であるかを誰もが改めて気づいてきた。その意味でも本書の編纂は時宜を得た計画であったと自負している。本書が、今後、附属学校園を含め、教育現場で大いに活用され、身近な自然について理解を深めることに役立つことを願っている。

本書の発行は「教育研究特別経費」によるが、配分された経費のほとんど全額を印刷費に当てた。そのため、従来の「教育研究特別経費・研究成果報告書」では異例の、カラー印刷の入ったかなり豪華な本になった。

本書を作成するに当たって、多くの人たちのご協力を得た。非常勤講師の先生方にも、また生物学科の卒業生や在学生の方々にもたいへんお世話になった。謹んで感謝の意を表したい。
(北川尚史)

奈良教育大学の自然 —動植物編—

はしがき..... i

〔ガイド・解説編〕

| | |
|-----------------------------------|----|
| 大学構内の景観（今井靖親・吉川幸男）..... | 1 |
| 大学構内の四季（北川尚史）..... | 3 |
| 大学構内の樹木ガイドマップ（浅見卓）..... | 11 |
| 大学構内の樹木（公文勝・北川尚史）..... | 13 |
| 奈良教育大学の珍しい植物（北川尚史）..... | 15 |
| 奈良教育大学の珍しい動物（井上龍一）..... | 22 |
| 大学の借景（春日山・高円山・若草山の植生）（菅沼孝之）..... | 27 |
| 附属中学校の自然ガイドマップ〔附中の自然環境〕（人見功）..... | 31 |
| 附属中学校の自然ガイド（人見功）..... | 33 |
| 附属農場の栽培植物（田中棟一）..... | 40 |

〔資料編〕

| | |
|-----------------------------|----|
| 大学構内の種子植物（石井登興・北川尚史）..... | 41 |
| 大学構内のシダ植物（山口明夫）..... | 46 |
| 大学構内のコケ植物（出口博則・北川尚史）..... | 47 |
| 大学構内の鳥類（井上龍一）..... | 50 |
| 大学構内の両生類・爬虫類・哺乳類（井上龍一）..... | 51 |
| 附属中学校の樹木（人見功）..... | 52 |
| 附属農場の樹木（東村隆子・田中棟一）..... | 54 |
| 附属農場温室内の植物（東村隆子・田中棟一）..... | 60 |
| 附属農場で栽培される古代米（森源治郎）..... | 63 |
| 附属農場の古代米の形質比較（森源治郎）..... | 64 |
| 大学構内の樹木の測定値（公文勝・北川尚史）..... | 66 |
| あとがき..... | 78 |
| 執筆者..... | 78 |

表紙：吉備塚のクヌギの樹叢（今井靖親）

〔ガイド・解説編〕

大学構内の景観



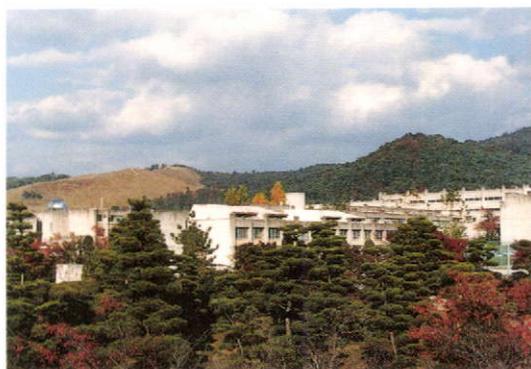
附属図書館前、サクラ（ソメイヨシノ）が満開。
（撮影今井靖親）



テニスコートの横、シロツメクサの上に雄鹿が横たわる。
（撮影今井靖親）



附属図書館の西側、ツツジ（ヒラドツツジ）が満開。
（撮影吉川幸男）



若草山と御蓋山を望む。
（撮影吉川幸男）



講堂の西側、イロハカエデの紅葉。
（撮影今井靖親）



吉備塚のエノキ。（4月）
（撮影今井靖親）

大学構内の四季

北川尚史

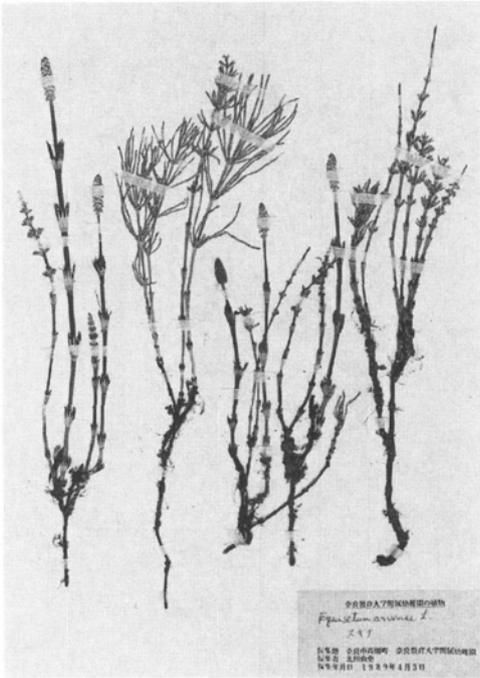
大学構内の動植物に関する以下の記述は、最近の3年間の記録に基づいている。動植物の季節的な移り変わりは年によってかなり異なっており、例えば、生物学教室の北側のサクラ(ソメイヨシノ)は、一昨々年は4月5～6日、一昨年は4月13～14日、昨年は4月3～4日に満開であった。さらに、花の咲く時期や果実の稔る時期にも変異が認められ、同一年でも個体によって、かなり異なっている。以下には3年間の記録を勘案して標準的なデータを記すことにする。

春(3月～5月)

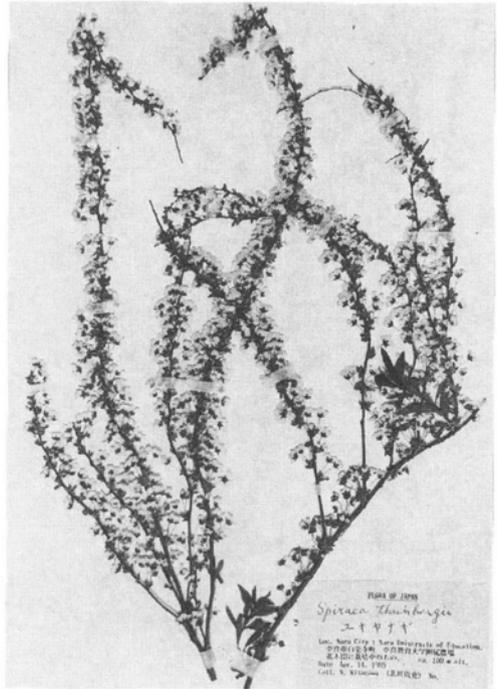
肌寒い早春の3月上旬には構内の大部分の落葉樹はまだ芽が出さず蕭条としているが、

ウメやツバキやアセビが花を咲かせている。附属小学校のグラウンドの東北に植わっている4本のカンザクラ(寒桜)がソメイヨシノに3週間ほど先立って3月の10日ごろから咲き始める。各所の土手にはツクシが出ている。生物学教室南側のアンズが咲き始めるのもこの頃である。また、ヤナギが芽をふいて、かすかに萌黄色に煙る。いわゆる柳煙である。そして、学内のあちこちに植わっているジンチョウゲの花が甘い香りを漂わせる。

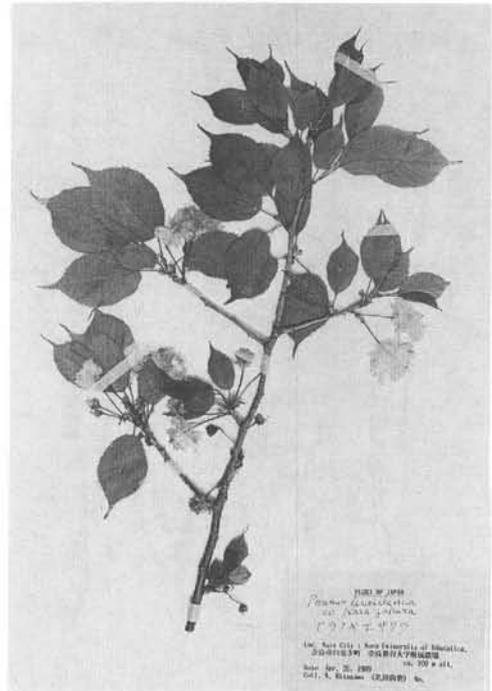
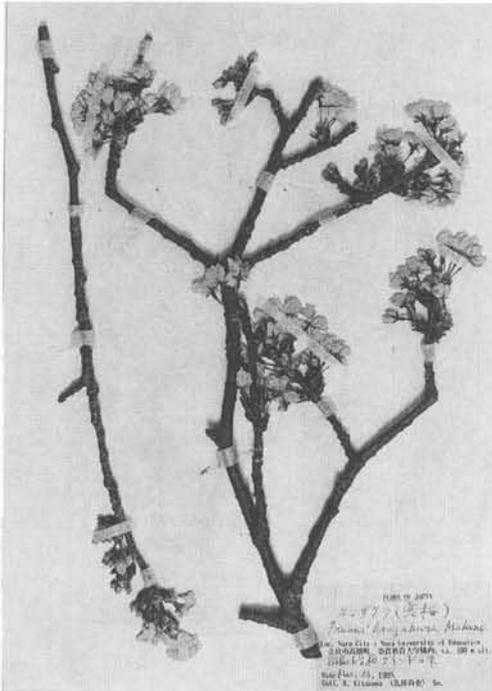
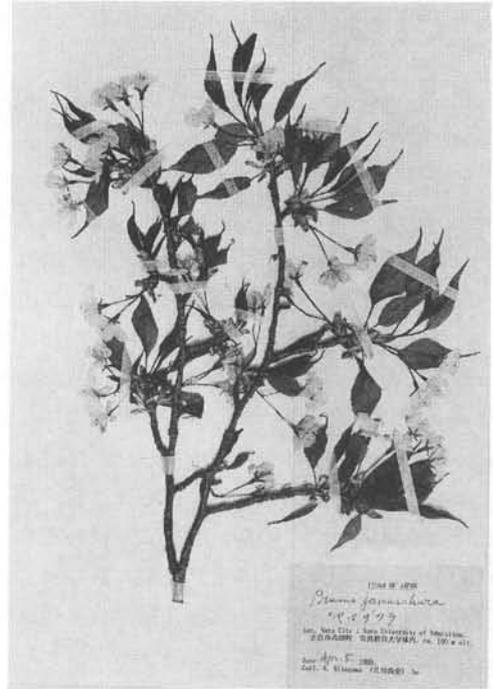
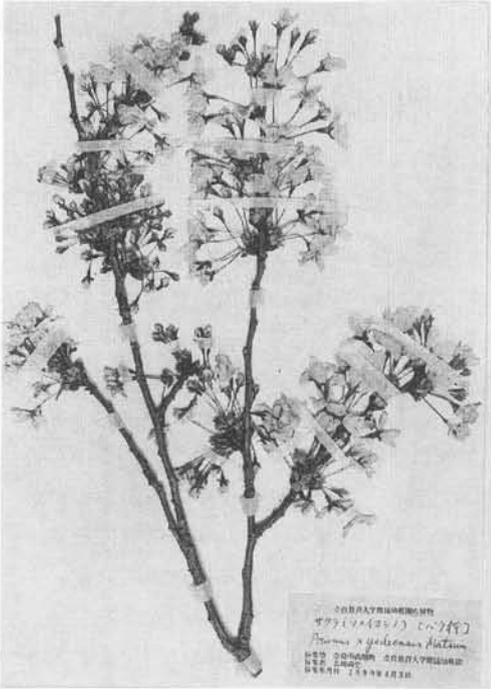
草は樹木に比して季節の訪れが早く、オオイヌフグリ、ナズナ、ハコベ、ホトケノザ、ノゲシ、タンポポ(セイヨウタンポポ、カンサイタンポポ)など、多くの春の雑草は3月上旬にすでに花を咲かせている。



スギナ(ツクシ)の標本



ユキヤナギの標本



大学構内の4種のサクラ標本
 左上・ソメイヨシノ 右上・ヤマザクラ
 左下・カンザクラ 右下・ナラノヤエザクラ

3月の半ばには、クヌギの雄花序（雄花の集り）が伸長して目立ち、葉芽も伸び出して、梢が鉛色を帯びてくる。クヌギのように、風媒性の落葉樹の多くは葉が出る前に花が咲き、まだ葉の繁らない風通しのよい時期に花粉が飛ぶ仕組みになっている。

3月下旬になると、ユキヤナギが煙るように小さな白い花を咲かせる。ハクモクレンの大きな白い花が、ピロードのように柔らかい毛の密生した包葉を脱ぎ捨て、一斉に北の方角に反って咲く。レンギョウ（シナレンギョウ）の黄色い花が群がって、こぼれるように咲く。サクラ（ソメイヨシノ、ヤマザクラ）が咲き始めるのもこの季節である。すこし遅れてモモの花が咲く。

ヒヨドリは年中、構内で見かけるが、とくに冬から春にかけて目立ち、この季節にはツバキやアンズやサクラの蜜を吸う。かなり大きいこの鳥は蜜を吸うというより花を食い荒らすといった感がある。

4月に入り、陽春の季節を迎えると、構内の植物は急速に賑やかになる。サクラが満開になるのは入学式の前後である。その大部分はソメイヨシノであるが、附属小学校の北側などに生えている古木はヤマザクラである。ヤマザクラはソメイヨシノに比して花が疎らで、花の時期に赤みを帯びた葉が出ているので、両者の識別は容易である。ソメイヨシノは附属小学校のグラウンドとその南のテニスコートに沿う緩やかな斜面に生えたものがいちばん優美であり、樹幹にウメノキゴケが生えて古色を帯びた、いかにも貫緑のある老木が多い。天気によければ、この場所の万葉の桜の下で幾組もの花見の宴が開かれるであろう。大講義室の南の、建物に囲まれた狭い空間にも、ソメイヨシノの見事な老木が立っている。

4月の中旬にはクスノキが新芽を出し、古い葉が落ち始める。クスノキは常緑樹であるが、新しい葉が出揃ってから、古い葉が一斉に落ちる性質がある。ナノハナやダイコンの

花が咲く畑にはモンキチョウやモンシロチョウが舞う。朝早く、大学に來れば、ウグイスの鳴き声を聞けるのもこの季節である。図書館の裏のモクレン（シモクレン、紫木蓮）の花が咲く。

黄砂の現象が見られるのは春のこの季節に多い。中国大陸の奥地から遥々と運ばれてきた黄土の微粒子によって、空がかすかに黄色みを帯び、春日山や高円山が霞んで見える。

ソメイヨシノに約半月遅れて、4月中旬から下旬にかけて八重咲きのサトザクラ（ボタンザクラ）が大きな重たい花を下向きに咲く。この季節に大学構内で咲くサトザクラにはカンザン（関山）とフゲンゾウ（普賢象）の2品種がある。前者は枝が上を向き、花の色が濃く、後者は枝がたわんで下を向く傾向があり、花の色が薄いので区別は容易である。この両品種の花の雌蕊は小さな緑色の葉の形をしており、雌蕊は葉が変形したものであること



サクラ（ソメイヨシノ）の老木
樹幹にウメノキゴケが生えている。
附属小学校グラウンドの東側。

とを証明する絶好の教材である。図書館裏のハナミズキ（花水木）が白い花を咲かせるのもこの頃である。

上記2種のサトザクラにまた十日ばかり遅れて、4月下旬から5月上旬にかけてナラノヤエザクラが咲く。この名桜は構内のあちこちに植えられているが、いずれも小木である（ナラノヤエザクラについては16ページを参照のこと）。

4月の下旬には、構内の各所で生け垣として植えられているツツジ（ヒラドツツジ）が咲き始め、5月の上旬まで咲き続ける。吉備塚のクヌギが受粉を終えて、おびただしい数の雄花序が落ちるのもこの季節である。クロマツの新芽（古くから、これを「松の緑」という）が伸び出し、雄花が熟し、風に吹かれて煙のように花粉が散る。

5月は新緑の季節である。落葉樹が葉を展開して、瑞々しい青葉に被われる。常緑樹も

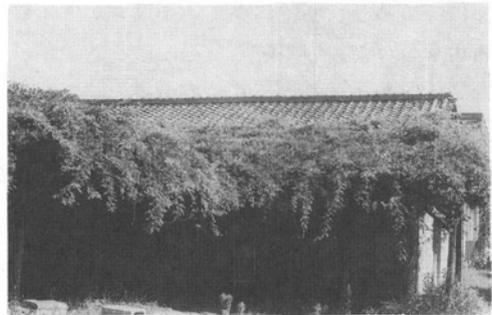


シイノキ（スダジイ）の
大木
附属図書館の北側に立つ。

新しい葉を出す。高円山の落葉樹のクヌギやコナラの新緑は浅い緑色で、春日山の常緑樹の鬱然とした新緑と遠目にも鮮やかなコントラストを示す。高円山のモウソウチクが色褪せて、いわゆる「竹の秋」の情景を示す。春日山の照葉樹のもくもくとした新緑の中で、黄金色に輝いて見える部分はシイノキ（ゴジイ）の新葉と雄の花序（花の集まり）である。構内でも図書館の北側に生えている3本のシイノキ（スダジイ）の大木が盛大に花を咲かせ、その雄花の生臭い匂いが漂う。

守衛室の東側の藤棚に絡んだ2本のフジの老木が花を咲かせるのも5月上旬から中旬にかけてである。このフジは奈良市内でも珍しいほどの大木であり、たいへん貴重なものである（フジは附属幼稚園内にもある）。この頃から帰化植物のハルジオンが咲き始める。この植物は十数年前に本学に侵入し、その後、急速に殖え、最近は構内各所に広がっている。奇妙な寄生植物のヤセウツボが出るのもこの季節である（ヤセウツボに関しては15ページを参照のこと）。

5月中旬から下旬にかけて、ごく短い期間に文科棟北側（中庭）のポプラとヤナギの種子が飛ぶ。中国ではポプラを楊、ヤナギを柳というが、両者は互いに近縁な植物である。両者ともに小さな種子が長い絹糸のような毛に包まれて、風に吹かれて空に漂う。その風情は人々の心をとらえるようであり、中国では楊と柳の種子を包む毛を「柳絮（りゅう



フジの老木
守衛室東側の藤棚に絡んでいる。

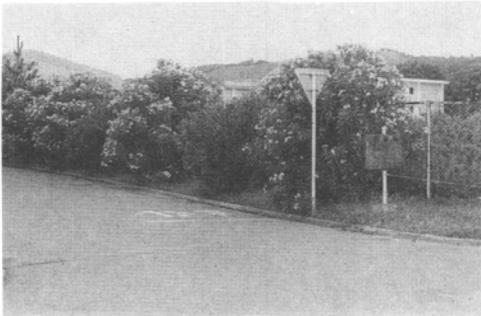
じょ)」と呼び、漢詩などによく詠まれる。この場所には5本のポプラの大木が生えているが、東側の3本が雌木であり、柳絮を生じる。また、そのそばに生えている比較的小さな1本のヤナギが雌木であり、柳絮を飛ばす。

毎年、5月下旬から6月上旬にかけて、日暮れになると吉備塚のクヌギの梢でアオバズクが、ほっほー、ほっほーと二声ずつ鳴く。5月下旬になると、雑草が生い茂り、とくに、イヌムギ、カモジグサ、イチゴツナギ、ナガハグサ、ヒエガエリなど、たくさんのイネ科の植物が穂を出す。山田ホールの東側の松林の林床に一面にミヤコグサの黄色い花が咲く。ミヤコグサは附属図書館の周辺にも点々と生えている。

夏（6～8月）

6月に入り、日差しが強くなると植物たちの生長はますます旺盛となる。春から咲いていたハルジオンが終わってヒメジョオンに代わる（互いに近縁な両種は季節的にすみ分けしている）。ニワゼキショウやノアザミが咲き、ヤブガラシが勢いよく伸びだして、樹木に絡みついてくる。キョウチクトウの花が咲き、暑い日差しを受けて、秋の終わりまで咲き続ける。

初夏にはセンダン（オウチ、檜ともいう）が淡い紫色の群がった花を咲かせる（センダンはプールと附属幼稚園との間の土手に生えている）。梅雨どきの雨に打たれてタイサン



キョウチクトウ
附属小学校グラウンド西側。

ボクの白い大きな花が次々に咲く。アジサイが咲くのも梅雨のこの季節である。

芝生の間や土手に、ネジバナが螺旋状に配列した可憐な花を咲かせる。ネジバナは構内に自生する唯一のラン科植物で、モジズリという名で古くから歌に詠まれている植物である。構内各所に生育するが、とくに事務棟の前の芝生、附属図書館から講義棟の間の周辺、山田ホールの東側の松林、附属幼稚園に多い。

7月上旬には職員会館の北側（隣りの合同庁舎との境）に植えられているトウネズミモチが盛大に花を咲かせる（トウネズミモチは学生会館の西側や講義棟前の広場にも植わっている）。その白い小さな花は群がって、遠目には泡だつように見える。この樹木は日本原産のネズミモチにごく近縁の種であるが、生長がよく、葉も茎も大きくなるので、公園などに植栽され、また最近各地の高速道路などのグリーンベルトなどに植えられている。サルズベリは、百日紅の別名のように、夏の炎暑をものともせず、この頃から秋の終わりまでの長い間、咲き続ける。この季節にはまたネムノキの繊細な花が咲く。

7月中旬にはオオスカシバがクチナシにやってきて葉の裏に産卵する。ナンキンハゼの雄花が目立ってくる。プールの側の溝にガマ（蒲）が穂を出す。

盛夏を迎え、大学の構内は喧しい蝉時雨の季節になる。クマゼミとアブラゼミが鳴きはじめ、とくに午前中に鳴くクマゼミの大合唱



御蓋山と若草山
理科1号棟3階から望む。

はすさまじく、いかにも暑さを増長する感がある。さらに、8月上旬になると、ツクツクホウシが鳴き始め、また、やがて朝夕、ヒグラシが鳴く。

雑草の草いきれが激しく、8月下旬にはオヒシバ、メヒシバ、エノコログサ、シマスズメノヒエ、ツユクサ、イノコヅチ、イヌタデ、アカザ、キツネノマゴ、ブタクサ、オオアレチノギクなどが生い茂る。ツツジやイヌツゲに絡んだコヒルガオがアサガオを小さくしたような可憐な花を咲かせる。

この頃から樹上でアオマツムシが鳴き始める。アオマツムシは中国原産の帰化種で、在来のマツムシと異なり樹上に生息する。ほとんど樹種を選ばないようであり、夜になると構内のいたるところで鳴いている。畑に植わっているジンジャー（シュクシャ、縮砂）がこの季節から秋まで香りのよい花を咲かせ、夕刻にはオオスカシバやホウジャク（蜂雀）が長い吻を延ばして蜜を吸いにくる。

秋（9月～11月）

9月上旬にはフヨウ（芙蓉）が花盛りとなる。フヨウは構内のあちこちにあるが、特に大講義室の南側のものが見事である。畑のオミナエシは花盛りで、その異様な匂いに引かれるのであろう、多くのハナムグリなどの昆虫がやってくる。

9月中旬、ヒガンバナが咲き始める。ヒガンバナはキャンパスを囲むフェンス沿いや附属幼稚園の西側の土手などにたくさん生えている。ヒガンバナの開花時期は年による変動が小さく、名前の通り、毎年、彼岸の頃に花盛りである。

10月上旬から中旬にかけて、キンモクセイ（金木犀）が匂う。香りでその存在が分かり、ふだんは目立たないこの木が、学生会館入り口、生協食堂入り口、守衛室横、附属小学校玄関脇、その他、構内にも案外に多いことに気付く。ウスバツバメという、蝶のように優

雅に舞う蛾が、サクラの周辺でたくさん見かけるのはキンモクセイの匂う季節である。

この季節にはまた、吉備塚のクヌギがたくさんの大きなどんぐり（果実）を落とし、秋の到来を実感させる。この季節に雨がふれば、構内各所のマツの根元にネバリイグチやアカハツが出る（どちらも食用になるキノコである）。

10月の中旬になると、他の樹木に先立って、ナンキンハゼが紅葉を始める。附属幼稚園ではアキグミが枝もたわわに小さな赤い実をつける。10月下旬には、イチョウの葉が黄色になり始め、雌木の下には銀杏が落ちる。イチョウは学内にかなり多いが、附属小学校北側の“十三階段”の近くの雌木がいちばん大きい。ポプラやケヤキの葉もこの季節に黄色くなり、落ち始める。

セイトカアワダチソウもこの頃が花盛りである。この帰化植物はひところの勢いはなくなったが、まだグラウンドの東側、生協食堂の東側、プールの周辺の土手をはじめ、各所に繁茂している。春日大社の境内あたりからであろうか、夜のしじまを切り裂くように、シカの鋭い鳴き声が聞こえ、秋の深まりを感じさせるのも、毎年10月の下旬から11月上旬にかけてである。

11月上旬にはサザンカが咲き始める。クロガネモチの実が赤くなる。ナンキンハゼの紅葉やイチョウが黄葉がたけなわとなる。ハナミズキの葉も赤くなり始める。これらに少し



カイヅカイブキ
美術棟南側

後れて、11月中旬には各種のサクラが紅葉するが特にナラノヤエザクラの紅葉が鮮やかで美しい。

図書館の北側のシラカシにヤマブシタケという珍しいキノコが発生し、大きく生長するのは毎年、大学祭の頃である（ヤマブシタケについては17ページを参照）。

11月下旬になると、ユリノキ、カツラ、ケヤキはすでにほとんど落葉しているが、カエデ（イロハカエデ）、サクラ、ドウダンツツジが紅葉の盛りを迎える。クスノキの実が黒熟し、トウネズミモチは枝が垂れるほどにたわわに黒紫色の実をつける。

落葉樹の優占する春日山にもかなり多くの落葉樹が生えており、11月下旬から12月の始めにかけて、遠目に、濃緑色の常緑樹の間に赤や茶や黄の色彩が目立つ。赤はカエデ（イロハカエデやウリハダカエデ）の紅葉であり、浅い黄色はムクロジやコシアブラ、黄褐色は主としてケヤキの黄葉である。

冬（12月～2月）

12月に入って寒さを迎えると、害虫の駆除のために、マツの樹幹のこも（薦）巻きが行われる。クヌギの葉は茶色になるが、まだしばらく枝を離れない。この季節には構内の落葉樹はほとんど落葉しているが、クヌギ、アキニレ、カエデ、フウなどがまだ葉を付けている。とくにフウは、美しく紅葉したのちも落葉せず、春近くまで、枝に枯葉を付けている。なお、フウは漢字の楓を音読みにした名前前であるが、カエデとはまったく異なる植物である。

12月上旬から中旬にかけての短期間に、クヌギの葉が急に落ちる。センダンの果実は長い果柄の先に黄色く熟し、青空に映えて美しい。この頃にムクドリの子がやってきて、春まで、地上で餌をあさり、樹上で騒がしく鳴く。

12月の上・中旬の季節に、高円山が一年中



フウの小枝
(画・豊田好美)

でもっとも華やかな山容を見せる。遠目に濃い緑色に見える樹木の大部分は尾根筋に多いアカマツと、落葉樹の間に生えるソヨゴである。山麓部に多いスギやモウソウチクも緑色であるが、色調が異なっている。高円山にはクヌギも多いが、この時期には葉は褐色となっているか、すでに落ちている。そのため、クヌギ林は大学構内からは淡い褐色ないし灰色に見える。しかし、コナラは他の落葉樹に後れて紅葉の盛りを迎える。コナラの紅葉はカ



クヌギの梢
吉備塚にて。



サクラ (ソメイヨシノ)

附属小学校グランド東側。1990年2月1日の大雪の日に撮影したもの。

エデのような鮮やかな赤色にはならないが、緋色から黄色までのさまざまな階調をなして、山腹を華やかに彩る。同じ時期に、春日山の落葉樹はすでにほとんど落葉し、遠目には、カエデの梢の色であろう、かすかに赤みを帯びて煙ったように見える。

12月に花を咲かせている樹木は、ヤツデとビワとサザンカである。冬でも、穏やかな暖かい昼間には、それらの花にハチやハナアブがやってきて蜜を吸う。12月には、春の雑草の多くがすでに芽を出している。スズメノカタビラは一部、すでに穂がでている。畑には、

ナノハナやキンセンカやソラマメの花が咲き始める。

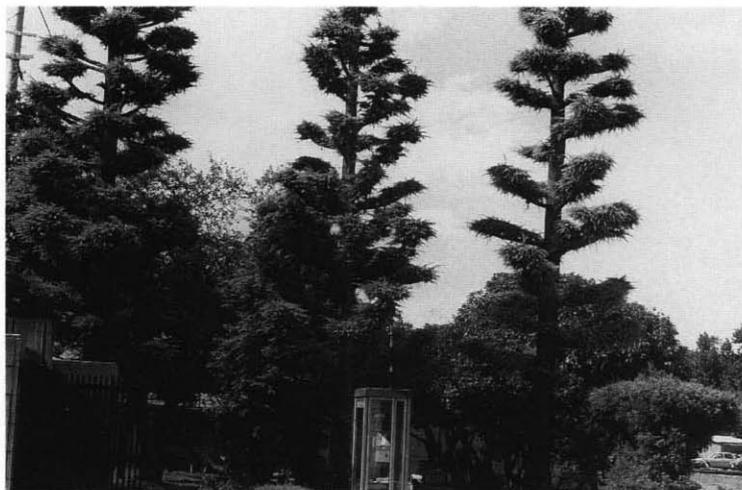
12月から1月にかけてナンキンハゼの果実がはぜて、白い種子が目立つが、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバトなどがやってきて啄み、やがてなくなってしまう。メジロの囀りが聞こえるのもこの頃から春までである。

1月下旬にはオオイヌフグリ、ナズナ、オランダミミナグサ、ハコベなど春の花が早々と咲き始める。アキニレの翼のある果実が風に吹かれて舞い飛び、附属小学校の体育館の西側に生えているロウバイが蟬細工のような淡黄色の花を咲かせ、辺りによい香りを放つ。落葉したプラタナス(スズカケノキ)の梢にぶら下ったピンポン玉ほどの大きさの実(集合果)が目立つ。

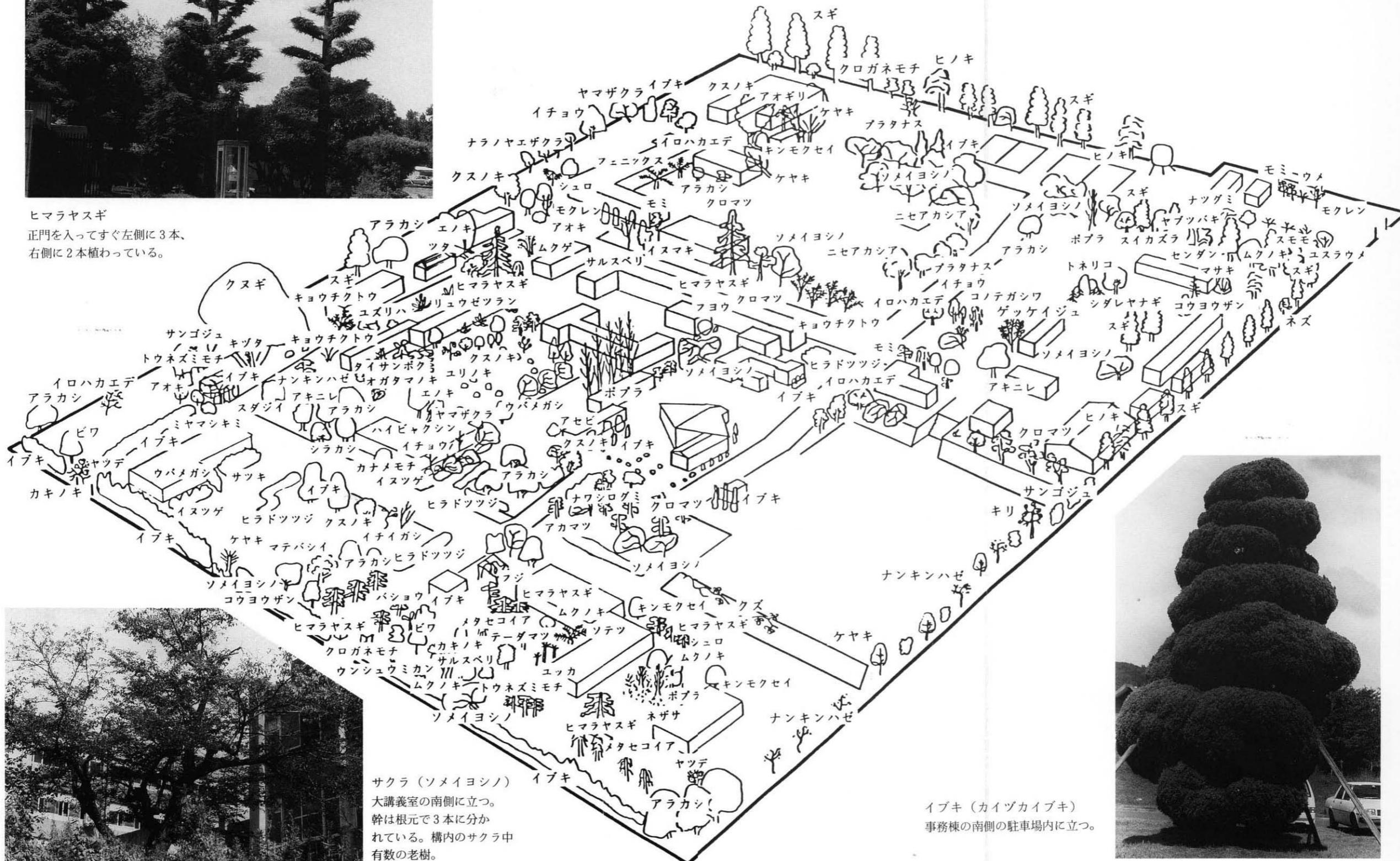
2月上・中旬にウメが咲き始め、ジンチョウゲやアセビの蕾が膨らむ。2月下旬にはウメが満開となり、土手にはツクシが出始める。シジュウカラがやってきと、高い梢でしきりに囀る。暖かい日には、早くも夕暮れにイエコウモリ(アブラコウモリ)が飛ぶ。いまや、春の到来は間近である。

大学構内の樹木ガイドマップ

浅見 卓 (1990年1月)



ヒマラヤスギ
正門を入ってすぐ左側に3本、
右側に2本植わっている。



サクラ (ソメイヨシノ)
大講義室の南側に立つ。
幹は根元で3本に分か
れている。構内のサクラ中
有数の老樹。



イブキ (カイヅカイブキ)
事務棟の南側の駐車場内に立つ。

大学構内の樹木

公文 勝・北川 尚史

「資料編」に、1990年1月現在、大学構内に生育する1032本の樹木の大きさ（樹高と胸高直径）のリストを挙げた。この中で最も多いものは、サクラ（ソメイヨシノ、ヤマザクラ、サトザクラなどの品種を含む）の325本、次いでマツ（大部分はクロマツ、一部にテーダマツ、アカマツを含む）が141本、スギが105本である。以下、イロハカエデ（54本）、ヒマラヤスギ（44本）、ケヤキ（38本）、アラカシ（29本）、クスノキ（27本）、ナンキンハゼ（26本）の順に多い（ただし、アラカシは生協食堂西南の樹叢を1本と数えているので、実際はもっと多い）。

構内には多くの樹木が存在するが、大木は比較的少ない。構内の樹木の大きさによるランキングは以下の通りである。樹高は剪定によって大きく変化するので、太さ（胸高直径）によって順位づけを行った。

表中の番号は「資料編」の地図中の番号、直径は胸高直径（cm）である。

表1 大学構内の樹木20傑

| 順位 | 番号 | 樹木名 | 直径 |
|----|------|-------------|----|
| ① | 1134 | クスノキ | 71 |
| ② | 25 | クヌギ | 70 |
| ③ | 28 | エノキ（枯死寸前） | 63 |
| ④ | 776 | ポプラ | 63 |
| ⑤ | 26 | クヌギ | 58 |
| ⑥ | 769 | エノキ | 56 |
| ⑦ | 326 | シイノキ（スダジイ） | 55 |
| ⑧ | 82 | ケヤキ | 54 |
| ⑨ | 1109 | ケヤキ | 53 |
| ⑩ | 76 | メタセコイア | 53 |
| ⑪ | 606 | サクラ（ソメイヨシノ） | 52 |
| ⑫ | 660 | サクラ（ソメイヨシノ） | 50 |
| ⑬ | 30 | クヌギ | 50 |
| ⑭ | 451 | ヒマラヤスギ | 50 |
| ⑮ | 1030 | サクラ（ソメイヨシノ） | 50 |

| | | | |
|---|------|-------------|----|
| ⑯ | 869 | アメリカスズカケノキ | 49 |
| ⑰ | 1057 | サクラ（ソメイヨシノ） | 49 |
| ⑱ | 1116 | ケヤキ | 48 |
| ⑲ | 1044 | サクラ（ソメイヨシノ） | 48 |
| ⑳ | 773 | クロガネモチ | 48 |

大学内に生育する樹木の大きさの調査は26年前に事務局会計課によって行われている。当時の学内（高畑校舎）の樹木、704本の高さ（胸高直径）を調べた記録であり、「樹木内訳書」「樹木位置図」（昭和39年2月29日付）と称する書類のファイルが現在、会計課に保存されている。なお、このファイルには当時の附属農場（八木農場）、附属中学校、附属幼稚園などの樹木の記録も綴られている。

昭和39年にはまだ米軍キャンプ時代の建物が使われており、構内の建物の配置は現在とまったく異なっていた。新校舎の建設に際して、昭和43年から46年にかけて、多数の樹木が伐採され、また移植された。その後も学内各地で建物、駐車場、道路の建設などによる模様替えが行われ、幾多の樹木が伐採・移植され、また新しく植樹されて、学内の樹木の配置は大きく変わった。したがって、昭和39年に記録されている約700本の樹木のうち、現在の樹木に特定できるものは少ない。

特定できる樹木について、昭和39年（1964年）2月と現在（1990年1月）とのデータ（樹高mと胸高直径cm）を比較すると、表2の通りである。表中の1990年の欄の番号は「資料編」の地図中の番号である。また、1964年の欄の番号は会計課に保存されている「樹木内訳書」と「樹木位置図」の中の番号である。昭和39年のデータは不完全で、樹種を挙

げていないものも多い。また、樹高は目測に いる傾向がある。
 よるが、全般的に実際よりも低く見積もって

表2 大学構内の樹木 現在と26年前の大きさの比較

| 1990年1月現在 | | | | 1964年2月現在 | | | | 現在の場所 |
|-----------|--------|------|-----|-----------|-------|-----|-----|---------|
| 番号 | 樹木名 | 高さ | 太さ | 番号 | 樹木名 | 高さ | 太さ | |
| 21 | アラカシ | 8.8 | 27 | 361 | 檜 | 5 | 15 | 赤煉瓦倉庫北 |
| 22 | スギ | 10.5 | 33 | 362 | 杉 | 5 | 24 | 赤煉瓦倉庫北 |
| 62~84 | クヌギ | 22.0 | 63 | 97~98 | 櫟 | ~11 | ~40 | 吉備塚 |
| 55~64 | アラカシ | ~6.5 | ~24 | 11~16 | 檜 | 4 | 10 | 正門北 |
| 72 | ヒマラヤスギ | 9.5 | 36 | 18 | ヒマラヤ杉 | 5 | 12 | 正門北 |
| 73 | ヒマラヤスギ | 9.5 | 32 | 19 | ヒマラヤ杉 | 5 | 12 | 正門北 |
| 74 | ヒマラヤスギ | 9.5 | 43 | 20 | ヒマラヤ杉 | 5 | 15 | 正門北 |
| 76 | メタセコイア | 7.0 | 53 | 17 | ? | 4 | 22 | 正門北 |
| 326 | スダジイ | 7.7 | 55 | 109 | ? | 6 | 30 | 図書館北 |
| 327 | スダジイ | 7.9 | 47 | 111 | ? | 5 | 30 | 図書館北 |
| 328 | スダジイ | 8.0 | 43 | 113 | ? | 5 | 20 | 図書館北 |
| 401 | ヒマラヤスギ | 8.5 | 33 | 21 | ヒマラヤ杉 | 4 | 12 | 正門南 |
| 402 | ヒマラヤスギ | 8.5 | 40 | 22 | ヒマラヤ杉 | 5 | 16 | 正門南 |
| 450 | スギ | 7.6 | 34 | 39 | 杉 | 8 | 25 | 学生会館南 |
| 463 | アラカシ | 14.0 | 31 | 64~86 | 檜 | 4 | 15 | 学生食堂南 |
| 619 | イロハカエデ | 6.0 | 40 | 484 | 紅葉 | 4 | 20 | 体育館西南 |
| 723 | イチョウ | 7.4 | 20 | 703 | イチョウ | 3 | 15 | 音楽棟東 |
| 790 | スギ | ~9.5 | ~30 | 428 | 杉 | ~5 | ~20 | 部室東 |
| 1027~ | ソメイヨシノ | ~9.1 | ~50 | | 桜 | 4 | ~40 | 附小プール東 |
| 1134 | クスノキ | 14.0 | 71 | 628 | ? | 8 | 40 | 附小養護学級西 |
| 1209~ | サルスベリ | ~6.0 | ~28 | 692~696 | サルスベリ | ~5 | ~16 | 附小体育館西 |

奈良教育大学の珍しい植物

北川 尚史

〔大学本部〕

ヤセウツボ *Orobanche minor* (ハマウツボ科)

この奇妙な名前の植物は生長に必要な養分をすべて宿主に頼っている、いわゆる全寄生植物である。自らは光合成を行わず、葉緑素を欠き、葉は退化している。主としてマメ科の植物に寄生するが、とくにアカツメクサ(レッド・クローバー)を好む。青々としたアカツメクサの間に棒を立てたように生えている姿はいかにも異様であり、一見、生きた植物とは思えない。

ヤセウツボは帰化植物であり、欧米に広く分布し、牧草地に多いが、日本ではごく稀である。昭和12年に関東から報告されて以来、他の地域からはほとんど記録がない。関西での既知の産地は長らく本学構内だけであったが、最近、その近傍(高円山周遊道路と大和郡山市)で見つかった。おそらく、本学の植物体の種子がなんらかの手段で散布して分布域を広げたのであろう。関東の既知の産地(数か所)と奈良との中間地域からは知られていないので、関東のものと奈良のものとは異なるルートで外国から別々に入ったと思われる。

本学では私が赴任した昭和38年にすでに生えていた。おそらく、現在の本学の敷地を米軍が接収していた時代に、外国からの物資に紛れて種子が入りこんで発芽し、キャンプ内に定着したのであろう。旧校舎の体育研究室の周辺(現在の音楽棟の付近)に多かったが、新校舎の建設工事により、その部分の群落はほとんど消失した。現在、講堂の建っている場所の付近にも、かつては、かなり多く生え

ていたが現在は見当たらない。しかし、現在も本学構内に広く分布しており、特に附属図書館の周辺、講義棟の南、山田ホルルの西、附属幼稚園などに多く見られる。

ウマノスズクサ *Aristolochia debilis* (ウマノスズクサ科)

教育工学センターから技術棟にかけて、北



ヤセウツボ

高さ、約30cm、葉が退化し、枝も出さない。花をつけている。(画・豊田好美)

側の土手にウマノズクサが点々と生えている。多年生の蔓植物で、同じ土手に多いセイタカアワダチソウやスキに絡んで生長するが、冬には地上部が枯れる。果実が割れて、ぶら下がり、馬の首につける鈴のような形になるのでその名がある。

ウマノズクサ属の植物は世界に広く分布し、その奇妙な受粉の方法が古くからよく知られている。花はラップ状の特異な形状をなしているため、ヨーロッパでは、この属の植物を「オランダ人のパイプ」と呼ぶ。その花はハエを引きつけて受粉を行う。“ラップ”の入り口から奥に入ったハエは、途中の筒状の部分に下向きの硬い毛が生えているため、いったん入ると出られず、花の基部のふくらみの部分に捕えられる。

ところで、ウマノズクサ属の花では、雌しべが雄しべよりも先に熟す。したがって、もし捕えられたハエが別の花の花粉を体に付けていれば、狭い場所でもがくので他家受粉が確実に起こる。

受粉が終わっても、ハエは雄しべが熟すまで中に閉じ込められる。雄しべの葯が割れて、

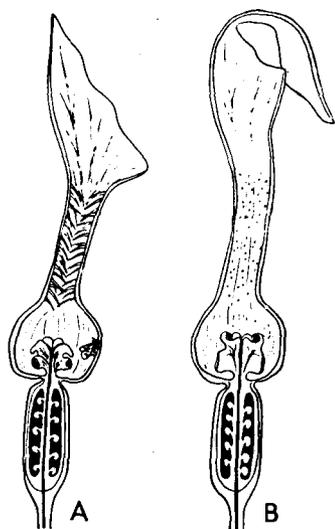
ハエが花粉まみれになった時点で筒部の毛が萎れる。そして、ハエはようやく解放されて、その花から逃げ出す。体に多量の花粉を付けたハエはふたたび別の花に捕えられて、そこでまた受粉が起こる。

ウマノズクサはジャコウアゲハというチョウの食草である。そのため、この植物の上はこのチョウが飛ぶ。ウマノズクサは比較的小さくて目立たない植物であるが、その上に舞うジャコウアゲハによってその存在が分かる。ウマノズクサを見つけるためには、ジャコウアゲハを探すのが手取り早いのである。

ナラノヤエザクラ *Prunus leveilleana* cv. Narazakura (バラ科)

平安時代に「いにしへの奈良の都の八重桜けふ九重に匂ひぬるかな」と歌われ、古くから知られている奈良八重桜が、数多くあるヤエザクラの中のどれであるかは長らく疑問であった。東京帝国大学の教授で、サクラ研究の第一人者、三好學は大正11年の春に奈良を訪れ、奈良市雑司町の知足院で、彼自身がまだ見たことのない、可憐な花をつけたヤエザクラを見つけた。古文献などを参照して、そのサクラこそ、古くから知られている奈良八重桜であると結論し、古代の桜という意味の *Prunus antiqua* という学名の新種を発表した。また、知足院のその木は三好の発案で大正12年に国の天然記念物に指定された。その後、このサクラに対して、さまざまな学名が提唱されているが、最近では、一般に、カスミザクラの園芸品種と見なし、上記のものを使う。なお、このサクラは本学の前身の奈良県師範学校の校庭にもあったが、その木は現在も県庁東側の駐車場の一角に健在である。

ナラノヤエザクラはソメイヨシノに約1か月後れて、5月上旬に満開となる。通常の里桜系のヤエザクラと異なり、花が小さく（花径は約2.2cm）、花弁は少ない（平均で約30枚）ので清楚な印象を受ける。秋の紅葉も見事で



ウマノズクサの花の縦断図

- A. ハエを閉じこめた状態。
B. 雄葯が成熟し、ハエが逃げ出した後の状態。

あり、奈良付近では他のどのサクラよりも鮮やかな、滴のような緋色に染まる。

よく結実するので種子で殖やすことが可能であるが、あいにく、その実生の大部分は親と異なる形質を示す。挿し木も難しく、親と同じものをつくるために、通常、接木によって増殖される（ごく最近、特定の植物ホルモンを含む培地に冬芽を培養することによって、試験管の中で多数の幼植物を得るバイオテクノロジーの技術が奈良県林業試験場で開発された）。

ナラノヤエザクラは奈良の県花に選ばれ、現在はかなり普及し、奈良公園一帯にも多数植えられている。本学でも、学生会館の周辺、美術棟の北側、附属図書館の南側、理科1号棟の南側、附属小学校の北側の土手（約20本）などに生えている。特に、学生会館の北側の1本は佐野藤右衛門氏から譲り受けたもので、知足院の名木の枝をオオシマザクラに接木をした由緒正しいものであると平田善文先生から伺っている。なお、佐野氏は京都の著名な園芸家で、親子二代にわたって、全国からサクラの品種を蒐集し、サクラの系統保存で顕著な功績をあげた。佐野藤右衛門氏は1961年に「桜」という豪華な図譜を出している。

カツラ *Cercidiphyllum japonicum* (カツラ科)

理科1号棟の南側（私の研究室の窓際）に1本のカツラ（桂）が生えている。私が1973年5月14日に兵庫県宍粟郡波賀町音水（オンズイ）の国有林で採った芽生えを植えたものである。17年を経て、すでにかんりの大木になり、これまでに何度も枝を払ったが、それでも枝先は3階の屋上を越える勢いであり、1990年1月現在、樹幹の根元の周囲は93cm、胸高直径（長径）は24cm、その周囲は73cmである。カツラは雌雄異株であるが、まだ花をつけないので、その雌雄は分からない。落葉性であるため、夏には日陰をつくるが、冬に

は日差しを遮らず、窓際に植えるのに恰好の樹木である。もっとも、生長がはやく大木になるためであろう、「カツラを屋敷に植えるな」という言い伝えが各地にある。

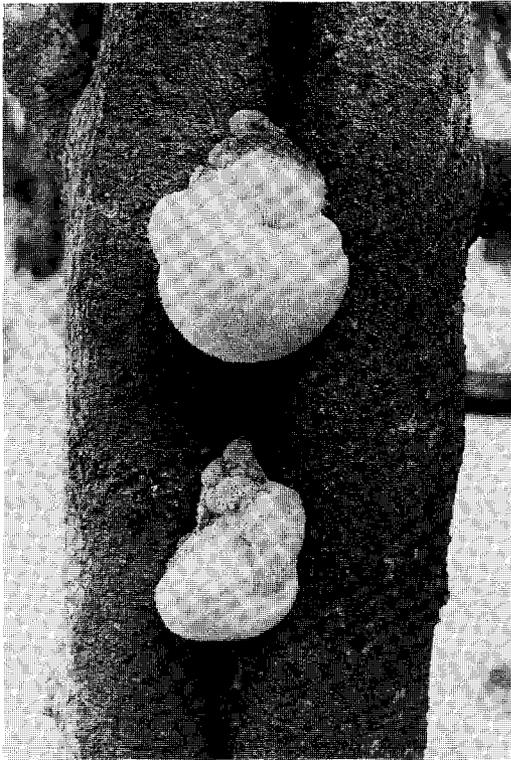
カツラは一般の樹木と異なり、梢だけでなく、太い枝からも毎年、新しい葉が出る性質があり、無数の小さな円い葉がこんもりとした樹冠をつくる。早春に小さな鉛色の葉が次第に展開する様子は、いかにも可愛らしく、秋の黄葉もまた実に美しい。元来、温帯林を構成する樹木で、冷涼の地に多い。カツラの木の下を掘れば水が湧き出るといわれるほど、水を好む樹木であり、通常、深山幽谷に野生する。西日本の市街地で見かけることは稀である。

カツラは、類縁関係のはっきりしない、系統的に孤立した原始的な被子植物であり、学術的にもたいへん貴重である。カツラ科はカツラ属のみからなり、カツラ属はわずかに2種を含み、カツラとヒロハカツラが日本に産し、カツラの変種が中国に分布している。1科1属2種から構成される、第三紀起源の古い植物群であり、極東に遺存分布しているのである。

形態学的にも面白く、仮軸分枝、長枝と短枝などの教材として適切であり、私は授業のデモンストレーション用にしばしばこのカツラの枝を伐り取って教室へ持って行く。また、その材は均質であるため実用価値が高く、家具、将棋盤・碁盤、仏像などの用材となる。葉は乾燥すると、よい香りがするので、粉にして抹香をつくる。

ヤマブシタケ *Hericiium erinaceum* (サンゴハリタケ科)

通常のキノコと見かけはまったく異なり、傘と柄が分化せず、大きな塊状で（大きなものでは人の頭ほどになる）、表面に無数の柔らかい針状の毛をそなえる。そのため、ハリセンボンともいい、中国では猴頭（猿の頭の



ヤマブシタケ

附属図書館北側のシラカシの樹幹に発生したもの。
1989年11月20日撮影。

意)という。はじめは白色、のちに黄色みを帯びる。

食用になるが、肉がよくしまって内部まで充実しているので、食べごたえがある。煮付けや吸い物にしてもよいが、さっと茹でて、酢の物にしたり、わさび醤油で食べると美味である。

ナラ、カシなどの広葉樹の立木に生えるが、本学では附属図書館の北側に植わっている2本のシラカシに毎年、晩秋に発生する。昨年は2個が発生し、11月20日に採った時点で、その重さは450gと200gであった。なお、このシラカシは橿原市の天香久山から運んできた由緒正しい樹木であるという(平田善文先生の話)。しかし、土地が合わないのであろうか、2本ともに生長が悪く、樹幹の芯の部

分が腐朽し、その部分にヤマブシタケが発生するのである。

〔附属農場〕

シシンラン *Lysionotus pauciflorus* (イワタバコ科)

附属農場の温室でシシンランを育てている。蘭という名がついているが、ラン科ではなく、イワタバコ科の珍しい着生植物である。吉野郡上北山村小椋の水分神社境内に自生するシシンランの群落は国の天然記念物に指定されている。

1987年10月24日に奈良県土木部道路建設課の職員で上北山村に在住の大庭鎮顕氏の来訪を受けた。氏は学生時代からシシンランの生態を研究しており、この珍しい植物についてたいへん詳しい。氏の話によると、上北山村小谷(河合の北西の谷)のアカガシに多数のシシンランが着生していたが、そのアカガシが、一週間前の台風で倒れたという(10月16日の夜半から翌日の午前中にかけて奈良市内でも強い風が吹き、本学でも文科棟の北側の1本のポプラが倒れた)。倒れたアカガシに着生していたシシンランは、そのままでは枯死するので、なんとか大学で育ててほしいと持ってきたのである。果実を付けた立派な標本なので、その一部は押し葉標本にして、大学の標本室と大阪市立自然史博物館に収納した。残りは附属農場へ持って行き、技官の田中棟一氏に託して、温室で育ててもらうことにした。本来は着生植物なので鉢植えは難しいかと思ったが、現在も順調に育っている(まだ花は咲かない)。

シシンランは近畿地方から四国、九州、奄美大島に分布する、ごく稀な植物である。天然記念物に指定された上北山村は当初、この植物の分布の北限地と見なされていた(その後、京都府などでも発見されている)。指定地の水分神社境内の群落は大切にされているが、勢いが悪く、現在、ごく少数の個体が残っ

ているにすぎない。

カンレンボク *Camptotheca acuminata*
(ヌマミズキ科)

中国の中南部原産の落葉高木。中国では街路樹や公園木として植栽される。しかし、日本では稀に植物園で見かけるが、一般にはほとんど植えられていない。本学では附属農場の花木園に1本、植えられている。生長がよく、毎年、花が咲き、実がなる。この木は1974年に京都教育大学から苗木を譲ってもらったものである。

カンレンボク（早蓮木）は中国の昔の本草書に出ている古い名前であり、現代の中国名は喜樹である。そのため、この木の苗は、その名にちなみ、喜寿の祝いに贈ると喜ばれるという。

花は単性（雌雄が別）で、それぞれが多数集まって、球状の花序をなす。果実も多数集まって、金平糖状の面白い形となる。成熟すると個々の果実はばらばらになり、風に乗っ



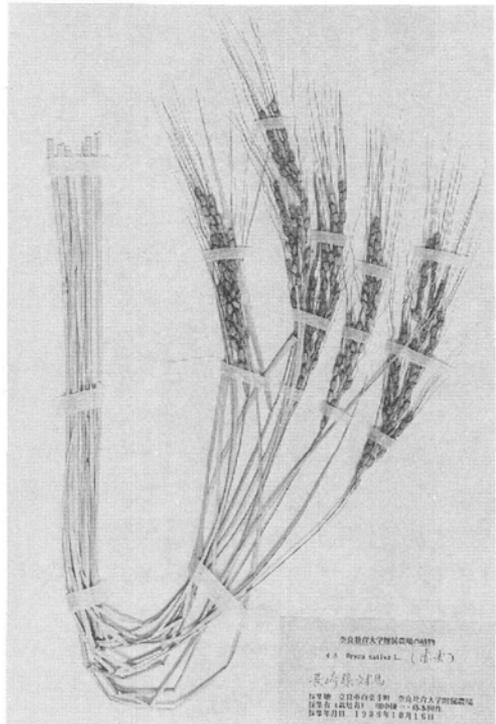
カンレンボクの枝
集合果をつけている。(画・豊田好美)

て飛散する。

カンプトテシンというアルカロイドを含有し、制癌作用があり、中国では、根や果実を各種の癌の薬として用いるという。

赤米 *Oryza sativa* (イネ科)

赤米は古代の作物である。すでに天平時代の古文書に赤米の記事が出ており、また、近年、平城宮跡などから、赤米と書かれた木簡が出土している。したがって、奈良時代にはかなりの規模で栽培されていたと見なされる。しかし、その後、人々の嗜好は白米に移り、赤米はアズキを入れて炊く「赤飯」として名残を留めるに至った。そして、ジャポニカ型（米粒の短い型）の赤米の品種は、ごく最近まで、鹿児島県種子島の宝満神社、長崎県対馬の多久頭魂（たくずたま）神社、および岡山県総社市の国司神社の三つの神社に細々と伝承され、神事にわずかに栽培されている



赤米の標本

長崎県対馬に伝わる品種を附属農場で栽培したもの。

にすぎなかった。

ところが、最近の古代史ブームに乗って、赤米への関心が高まり、各地で栽培が試みられている。奈良市内にも、天平時代の料理を再現し、赤米などを「古代食」として売り出しているホテルがある。また、赤米から酒をつくる試みも行われている。

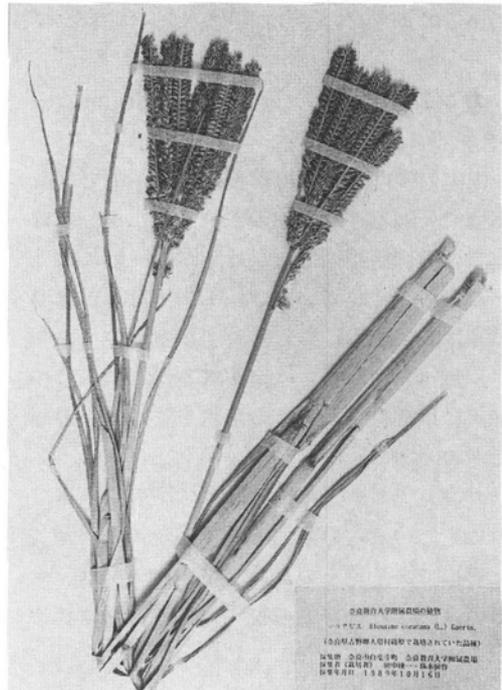
現在、各地で栽培されている赤米は上記の神社から逸出したもの、あるいは近年に外国から入ったものである。附属農場では、上記の三神社の赤米を入手して、1986年から栽培している。

古くから継承されてきたと見なされる、上記の三神社の赤米はいずれも、丈が高く、施肥を行うと1.5m以上にもなり、成熟までに倒伏することが多い（最近、栽培されている普通の稲は、倒伏しないように、できるだけ丈を低くする方向に改良されてきた品種である）。また、その穂に長い芒が存在することも顕著な特徴である。

シコクビエ *Eleusine coracana* (イネ科)

ヒエ(稗)という名がついているが、ヒエ属(*Echinochloa*)ではなく、雑草のオヒシバ(*Eleusine indica*)に近縁の原始的な作物である。以前は、シコクビエはインドが原産であり、オヒシバに由来する栽培植物であるとみなし、オヒシバの亜種または変種として扱うことが多かった。しかし、近年、シコクビエと近縁種の細胞遺伝学的研究が進み、それらの間の類縁関係がかなり明確になってきた。そして、その研究によって、シコクビエはオヒシバに由来したのではなく、アフリカ産の *Eleusine africana* から生じた栽培植物であるという見解が有力になった。

アフリカ原産のシコクビエがいつどのような経路でわが国に伝来したかについては不明である。この作物について、日本では古い記録がなく、現在のところ考古学的資料も得られていない。しかし、さまざまな状況証拠に



シコクビエの標本

吉野郡大塔村篠原に伝わる品種を附属農場で栽培したもの。

基づいて、稲作以前の縄文時代に焼畑農業の作物として利用していたと推定する専門家もいる。

シコクビエは現在でもインドやアフリカでは大規模に栽培されているが、日本では少数の山間僻地にわずかに残っているにすぎない。さいわい、吉野郡大塔村篠原の数軒の農家が種継ぎ用に細々と栽培を続けているので、附属農場では1986年に同地の和泉安恭氏から種子を入手し、以来、同農場の「古代作物園」で栽培している。この珍しいシコクビエの栽培法については、附属農場・演習林の広報誌「自然と教育」第1号に田中棟一氏が書いている。

シコクビエは通常の穀物と異なり、収穫後、長い年月を経ても、品質が劣化しないという特性をもっているため凶作に備える保存用に向いている。

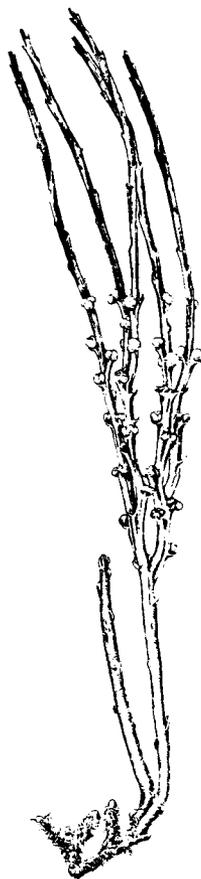
マツバラ *Psilotum nudum* (マツバラ科)

附属農場の温室で栽培しているマツバラは原始的なシダ植物であり、系統的に重要な位置を占め、教材として貴重な植物である。この種は世界の熱帯から亜熱帯にかけて広く分布し、日本では関東以南の太平洋沿岸地域に生育している。本州では既知の産地で次第に失われている。四国や九州の南部でもかなり稀であるが、屋久島にはやや普通に産し、通常、樹幹に着生する。奈良県では、戦前に春日山から記録されたことがあるが、その後、春日山では見付かっておらず、絶滅したと見なされている(昨年、意外にも、大学に近い、高畑の民家の石垣に野生している個体が発見された)。

栽培は比較的容易であり、江戸時代にはさまざまな園芸品種がつくられ、盆栽として鉢植えにされた。緑色の軸だけからなる、きわめて単純な形態のマツバラは、盆栽の素材としての極致であり、その道の奥義をきわめた玄人が好む傾向がある。

附属農場で栽培しているマツバラは1986年に京大理学部植物学教室から教材用として貰ってきたものである。最初の1年間は生長が悪かったが、現在は元気に育ち、孢子囊をつけている個体もある。これは、もともと屋久島産の野生のものを植えたのであり、珍しい園芸品種ではないので盆栽としての価値は乏しい。

マツバラは通常の植物と異なって、植物体は茎だけからなり、根も葉も分化していない。文字通り“根も葉もない”植物なのである。茎は直立する地上茎と匍匐する地下茎か



マツバラ

附属農場の温室内で栽培しているもの。孢子囊をつけている。高さ約15cm。(画・豊田好美)

らなり、どちらも二又分枝を行う(茎は二つ二つに分かれるので主軸と枝の関係ができない)。この植物は古生代の下部デボン紀(4億数千万年前)の地層から発掘されるライニア(Rhynia)という有名な化石植物によく似ており、現生のすべての維管束植物(シダ植物と種子植物)の中で最も原始的と見なされている。

奈良教育大学の珍しい動物

井上 龍一

鳥類

学内で確認した鳥類は20科35種を数えた。四季を通じて見られる種は約15種で、学内で、スズメ、ヒヨドリ、ヒバリ、キジバト、ハシブトガラスの営巣、繁殖を確認した。渡りの時期など未確認種が見付かる可能性は大いにある。

フクロウ *Strix uralensis*

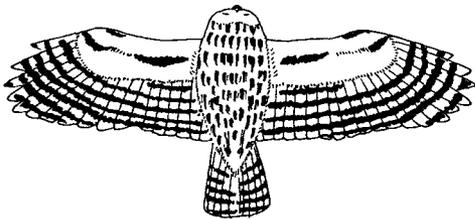
初夏（6月頃）、日が沈み、空が青黒くなった時間帯から、どこからともなく子連れでやってくるのが、フクロウである。

附属幼稚園から附属小学校にかけて、また、附属小学校の体育館西側の道路沿い、生協食堂前などが観察のポイントになる。

夜に活動する鳥といえば、他にアオバズク（これは夏鳥で、学内でも見られる、後述）やヨタカ（これも夏鳥で、大学の東の大和高原でよく見かける鳥である）、ゴイサギがいる。

フクロウは九州以北の森林にすむ、カラス大（全長500mm）の留鳥である。頭が大きく、ずんぐりした形で、翼は幅広くふわふわと軽くはばたいて飛ぶ大型の鳥である。

鳴き声は、「ゴロスケホッホー」とか「ゴホッゴホッホッホッ」とか聞こえる。この声を「ぼろ着て奉公」と聞きなす。学内では幼



フクロウの飛翔図

鳥の鳴き声をよく聞くことができる。成鳥と違って高い声でネコのような声である。

フクロウ科の鳥はワシタカ科の鳥とともに、猛禽類と呼んでいる。ネズミやウサギなども捕食するからである。かれらは暗闇でもよく見える高性能の眼をもち、他の鳥と違って、人の眼のように前面についているので、獲物までの距離が正確に測れる利点がある。しかし、後方が見えない。だが、うまくできたもので首を180°も回転させることができる。

また、耳はとてもよく、ネズミなどの小動物のたてる音をも聞きのがさない。さらに、獲物に気付かれないように飛ぶときも全く羽音をたてない。

他に学内ではフクロウ科の夏鳥で、アオバズクというハトより少し小さい鳥もこの時期に見られる（5月ごろから）。よく鳴く鳥で鳴き声は「ホッホッ。ホッホッ。」と2声ずつの繰り返し。フクロウに比べると随分小さいので簡単に区別できる。

哺乳類

大学構内にはシカ（ホンシュウジカ）が時折、入ってきて、学内の草や木の葉を食べる姿を見かけるが、奈良らしい光景である。

このシカ以外にどんな哺乳類がいるかを調べた記録はなく、1989年から調査を始めた。まだまだ不十分であり、齧歯類については未調査である。

現在、シカを含めて5科5種を確認した。なお、この中には姿こそ見せていないが、ホンダヌキの生息跡など新しい発見もあった。また、側溝の泥土にはチョウセンイタチの足跡が多く見られた。夜間に下水溝から下水溝

奈良教育大学の珍しい動物



タヌキの溜め糞



シカの糞



タヌキの足跡



イタチの足跡



タヌキの足跡



イタチの足跡



へ道路を横断するイタチの姿をよく見かける。

ホンドタヌキ *Nyctereutes procyonoides viverrinus*

哺乳類の中で溜め糞をする習性を持つものは幾らか知られている。アナグマ、ホンドタヌキなどがそれである。学内を調査中、その溜め糞の場所を、職員会館北側で発見した。あたりは独特の臭いで充満していて、直径50 cmほどの糞の山があった（写真）。付近の足跡から、ホンドタヌキのものであることを確認した。

ホンドタヌキは雑食性で、歯は基本的に肉食獣の型だが、植物質のものをよく食べる。特にカキやアケビのような甘みのあるものを好むらしい。

初めの確認は1989年11月で、糞を見ると、カキの種子が多く含まれていて、カキの実を食べていたことがわかる。なお、付近にカキの木がないか探したところ、職員テニスコート西側の通用門の横にあった。種子の形も同じで、このものを食べたものと推測できる。

また、職員会館北側の軒下の乾燥した土の上にはホンドタヌキの足跡が多く見られ、ここで砂浴びなどをしているようである（写真）。ホンドタヌキの足跡はジグザグについている。そして、後肢が外股になっているので後肢の足跡は前肢の外側になっているのが特徴。しかし、まだ、肝心の姿を確認することができていない。

チョウ

大学構内には四季の折々、木や草が花を咲かせる。虫媒花には、ハチ、ハナアブ、ハナムグリ、ハナカミキリ、チョウ、ガなどが集まってくる。その中で、チョウの仲間が美しく、大学構内で育っているものが数種いることは特筆すべきである。

アオスジアゲハ（クスノキ）、キアゲハ（ニンジンなどのセリ科）、ナミアゲハ（ミカンなどの柑橘類）、ジャコウアゲハ（ウマノ

スズクサ）、ベニシジミ（スイバ）、モンシロチョウ（アブラナ科）、ゴマダラチョウ（エノキ）などチョウには決まった幼虫の食べる植物があり、その植物を食草という。

学内には上記の食草にあたる植物が見られそこでの繁殖を確認している。これらの生活史を見るに、冬越しの仕方は色々である。幼虫越冬の種はベニシジミ、ゴマダラチョウで、他は蛹越冬である。

ゴマダラチョウ *Hestina japonica*

ゴマダラチョウは国蝶のオオムラサキと同じタテハチョウ科で、幼虫もよく似た恰好で区別しにくい。その上、食草も同じエノキである。大学構内にはエノキがあちこちに見られ、それぞれで幼虫を確認したが、すべてゴマダラチョウであった。

幼虫はエノキの葉を食べて、エノキの葉が落ちだす11月中旬ごろから、根ぎわに移動し、重なった落葉下で越冬する。エノキが二股に分かれている間に落ち込んだ落葉の中でもよく幼虫が見付かる。

幼虫の体色はそれがいる葉の色とよく似ていて、葉が緑色のころは緑色、落葉して茶色になった葉のときには灰褐色になることで、身を守っている。しかし、エノキにもよく見ると寄生バチがうろうろしており、幼虫がその被害にあうことも多い。

ジャコウアゲハ *Byasa alcinous*

技術棟の北側のフェンス沿いに、ウマノスズクサが生育しており、これを食草にしているジャコウアゲハの成虫の姿を春から夏にかけてよく見かける。

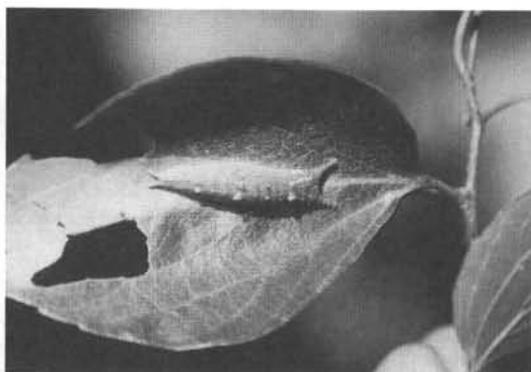
成虫は褐色を帯びた黒色が雌、真っ黒が雄、翅の裏面の弦月紋は赤色である。体側に赤色の毛があるのが特徴である。

雌は、ウマノスズクサに産卵し、幼虫はそれを食べて育っていく。11月頃になると、蛹化し、色鮮やかな蛹が技術棟の壁やスレートの屋根の下などに見られるようになる。

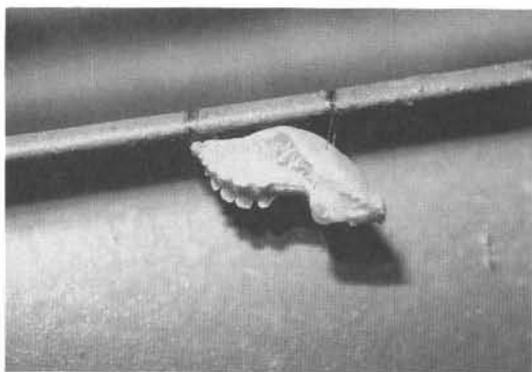
奈良教育大学の珍しい動物



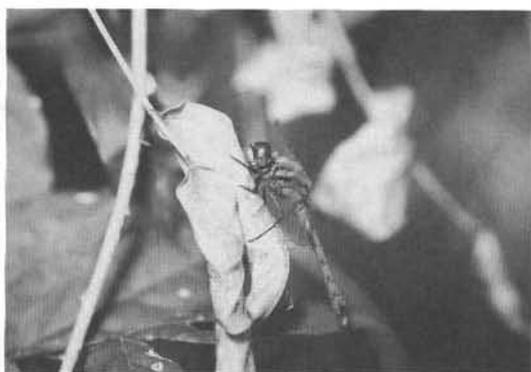
ゴマダラチョウの幼虫



ゴマダラチョウの幼虫



ジャコウアゲハの蛹



ナツアカネ



ジグモの巣



ジョロウグモ

大学の借景

—春日山・高円山・若草山の植生—

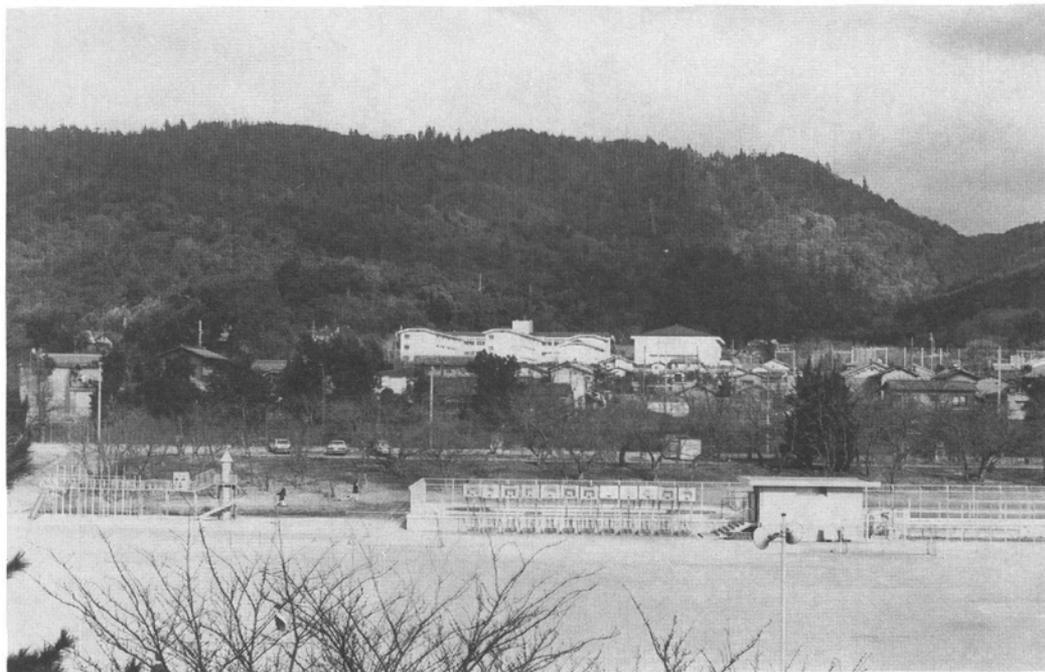
菅沼孝之

奈良教育大学は旧市街地の東端にそびえる春日山・高円山の山麓に位置する。この地域は能登川によって発達した扇状地であって、標高110m前後に位置し、ごくゆるやかに西方に流れて、標高60m台の奈良盆地に至っている。このような位置関係は、東に高円山、春日山（花山）、春日御蓋山（以下、単に御蓋山とよぶ）、若草山（三笠山）、北に佐保・佐紀の丘陵ともよばれる台地性の奈良丘陵、西に西の京丘陵、それより西方のやや高い矢田丘陵、さらに背後に北から南へのびる生駒山脈を眺望することができるわが国の大学のなかでも、稀にみる恵まれた環境を備えている。

キャンパスを囲む自然環境は、利用形態から大分けにして、照葉樹からなる原始林（原

生林）、二次林、植林、竹林、果樹園、草原、農耕地で、なかでも、照葉樹林が占めるウェイトの大きさは他に類例をみない。また、自然環境を形成する植生の多様性は、極めて高いといえることができる。つぎにこれらの借景を概観することにしよう。

まず、春日山（標高496m）の西斜面にひろがるツブラジイが優占する照葉樹林は、わが国の暖地の古文化圏を広く覆っていた森林で、奈良時代以来、20万人を擁する都市に隣接しながら、現在まで原始林の状態をよく維持しているのは希有のことといわなければならない。この照葉樹林は「春日山原始林」とよばれて、大正13年（1924）12月9日に天然記念物に、さらに、昭和31年（1956）2月15日には特別天然記念物に指定されて、現在に



春日山を望む

いたっている。現在の文化財法の前身である史蹟名勝天然記念物保存法が成立したのが大正8年(1919年)3月のことであるから、春日山原始林の指定は極めて早い時期であったということができ、さらに、特別天然記念物に指定されていることは、国宝級の文化財であることを示している。

本原始林は山全体がツブラジイ(コジイ)林であるが、微地形的には南北にはゆるい脊稜部や、雲霧がかかりやすいところにはアカガシを多く交え、下部扇状地形をなす山麓にはイチイガシを、尾根筋にはモミを、岩壁地にはツガを、それぞれともなっている。また、ギャップに侵入して、これを埋める樹木に、シデ類、カラスザンショウ、アカメガシワ、タマミズキ、ウリハダカエデなどがあり、常緑のクロバイもニホンジカの非嗜好植物として場所によってはパイオニアの役を担っているが、パイオニアたちは常緑の森林に、春は新緑、秋は紅葉して彩りを添えている。

なお、万葉集に、

やすみしし わご大君の……………平城の京

師は かぎろひの 春にしなれば 春日
山 三笠の野辺に 桜花 木の晩こもり
貌鳥は……………(6-1047)

の長歌があり、三笠の野辺に自生のサクラが咲いている情景を詠んでいるが、現生するサクラから考えると、ヤマザクラであろう。現在も開花時には原始林のなかに点在するさまを眺望できるが、この眺めにこそヤマザクラの真価をみる気がする。

御蓋山を中心とした春日大社の境内は、春日山原始林と同様の林相を保っていたものと考えられるが、現在では、春日大社の創祀に際して献木されたとするナギが、結果的にはシカによって守られるかたちとなり、繁茂して純林の状態を形成している。ナギは広い葉をもっているが、針葉樹であり、独特の相観を呈するので、ツブラジイ林とは明瞭に区別できる。

山麓一帯のナギの純林を除くと、イチイガシ、ツクバネガシ、アラカシ、ウラジロガシ、カゴノキ、ウワミズザクラ、スギなどの老樹や、フジ、テイカカズラ、ウドカズラなどの



若草山を望む

つる性の木本がナギ林のなかに点在して、往時の森林を偲ばせてくれる。

春日山原始林の南側に連続する高円山は、大文字を背負うが、ほとんど全山が薪炭林として用いられたコナラ、クヌギを主とする二次林からなる。林床にはネザサ、モチツツジ、サルトリイバラ、ヤマウルシ、ミツバアケビ、ヒサカキなどが生育し、薪炭林として利用していた時代の面影は薄れているが、人とのかわりの上での貴重な森林といえる。また、谷筋にはスギやヒノキが植林されて、深い緑を塗り込み、変化をあたえている。

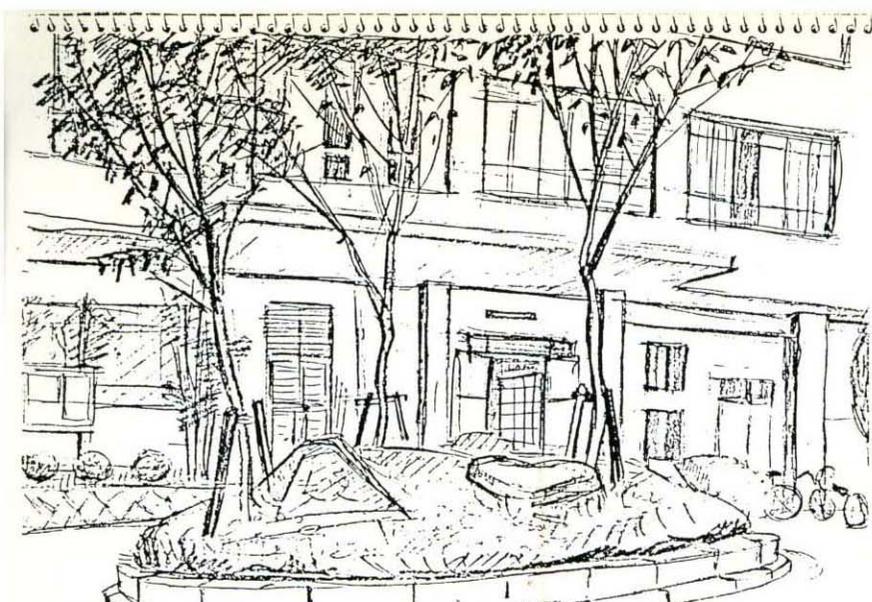
春日山原始林の北側には若草山が位置するが、この山ははっきりしたことは分からないものの、400年ともいわれる昔から、火入れ、すなわち山焼きが行われてきたために、草原を展開している。比較的傾斜がゆるやかな山頂部と山麓はシバ草原が発達し、斜面には乾燥地タイプのイトススキ草原が占めている。イトススキは葉の幅が狭く、質が硬いので、

ススキと区別されている。もっとも、湧水地周辺はワラビが、また、イトススキが生育する環境で保安刈り取ったところにはチカラシバが茂るが、いずれも広い面積を占めるものではない。ここにはコガンピ、オガルカヤ、メガルカヤ、チガヤなどを交えている。古くはレンゲツツジやハギ類もあったと思うが、シカの食害にあっいまほとんどみられない。

一般にススキ草原はかや葺き屋根や、炭俵の材料、家畜の飼料を提供するかや原として古くから管理されてきたが、若草山がそういった目的に使われていたものかどうかはよくわからない。しかし、シカの餌の恰好な供給地となっていることは確かである。

本学の背後を取り囲む山々は、単に植生が多様であるだけでなく、人が自然にかかわってきた歴史をものがたる、生きた貴重な教材であり、かつ、研究対象であり、天下に誇りうる環境といえる。

附中の 自然環境



A-校門ロータリーのナラノヤエザクラ



1-奈良の八重桜の花

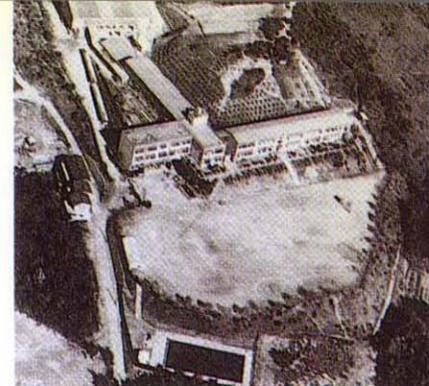
2-枝垂れ八重桜の花



校章



B-体育館をのぞむ



移転時の航空写真



C-運動場のプラタナス

附中ガイドマップ



E-学級教室ごしの裏山

D-セコイアをのぞむ



3-ノダフジ



附属中学校の自然ガイド

人 見 功

概 要

附属中学校が、現在の佐保田の丘の校地に移ったのは、1958（昭和33）年である。その経過については、「附中30年のあゆみ」（1977年）に詳しく書かれている。

校地は、新生代最新世の大阪層群佐保累層の粘土・砂れき層から成る平城山の一部に、プール、運動場、学級教室棟・管理棟、特別教室棟・体育館、テニスコート、そして自然の地形を残す本校で裏山と呼んでいる地域が、数段の段差をなして存在する。各段面の間の斜面は、一部石垣やブロック積もあるが、多くは土が露出しているのも、土止めの意味もあって植物を植える適地となっている。

裏山の校地の最高部からは、3個の円筒棺が、1959年本校生徒により発見され、発掘保存されており、「古墳のある学校」という本校の特色の1つとなっている。

開校時は、周囲は全くの未開発の竹林や自然林に囲まれていた。しかし、徐々に開発が進み、現在では多くの住宅地が見られるようになってきている。とはいえ、南は狭岡神社の神社林、東は2つのため池、北の少し離れたところに御陵があり、周囲はまだまだ平城山の景観を残している、自然環境の豊かな地域の中にある。

理科の学習環境として、開校時から先輩の先生方が、教材園・教材樹木の充実・保護に力を入れてこられている。

附属中学校が開校してまもなく、奈良女子師範学校の建物を校舎として使用した関係から、女子師範学校の標本類の一部も本校に引き継がれてきている。そのとき、生きた標本である草本樹木類も当然引き継がれてきた。

佐保田の校舎へ移転したときも、それらは物品と一緒に移植されてきている。また枯死したものについても、思い出深い樹種として、記念植樹のときには優先的に選ばれてきたであろう。

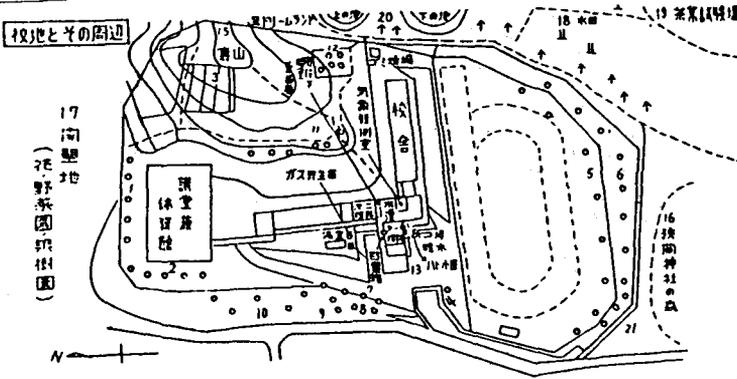
それらの努力が、現在の本校の学校園の姿を形づくっており、1960年の研究集録2集をはじめ、ほぼ十年毎に植物調査が継続され、その記録も残されている。それらの中から、参考資料として研究集録2集の資料を、次の資料1に再録する。

校地内のめばしい樹木は、卒業記念をはじめとする記念植樹である。それらの植栽樹木の由来・変遷については、開校時から30周年までのものは、前にあげた「附中30年のあゆみ」の中に、「附中植物誌」（P305-311）として、石川利和先生が特徴的な樹木解説と目録を書いておられる。その「附中植物誌」から、参考のために植物リストを、次の資料2に再録する。

校内の樹木は、無農薬・自然仕立てで栽培管理してきた。自然仕立ては、当時大学の生物学教授の佐藤一郎先生の欧米での視察による学校園樹木のあり方についてのお話を伺い、それを参考にしとのことである。また、無農薬栽培は、自然観察を心がけ昆虫類の飛来を期待すること、石川先生が学校内でミツバチの飼育をされていたこと、虫も人も葉害からの影響をさける意味からである。

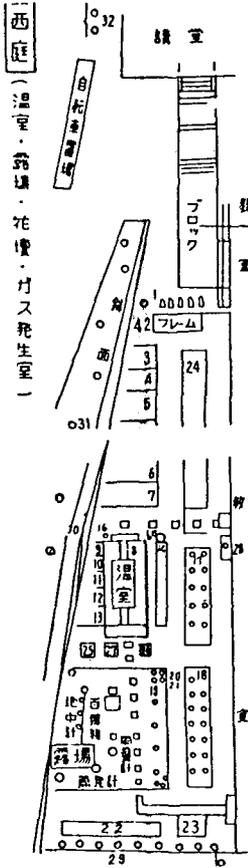
1981（昭和56）年から、現地での校舎改築となり、植栽樹木の一部の移植も行われた。それらも1984年に一巡し、現在その時の移植樹木が、やっと根付き始めたという時期である。同時に、学校周辺の樹木も30年余を経過

資料1

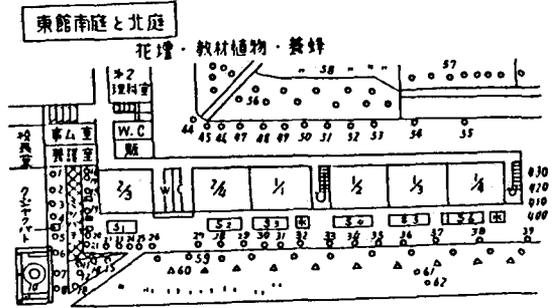


- 16 狭間神社の森
1. スズカケの木 (ブラクナス)
 2. ヒマラヤスギ
 3. 一年生実習園
 4. イチョウ
 5. スズカケの木
 6. サクラ
 7. ツルバラ
 8. ヤマザクラ
 9. ナンキンハゼ
 10. スズカケの木
 11. サツキ
 12. モモ

- | | | | | |
|-----------------------------|---|--|--|--|
| 17. 開墾地 畑地栽培植物 | 15. 奈良山の残存植物 (裏山) 荒地植物群落 | 14. スイレン[キンギヨ] フトイ シマフトイ (水槽) イネ | 13. スモモ イヌツゲ ヒマラヤスギ キンモクセイ マルバツゲ | ユッカ マサキ サンゴジュ インドハマユウ ヒラドツツジ |
| 18. 水田 | 16. 狭間神社の森 スギ、ヒノキ、の 植林 暖地性植物群落 | | | |
| 19. 茶園、松林 | | | | |
| 20. 池 上の池と下の池の プランクトン | | | | |
| 21. 植物の侵入 | | | | |



1. メタセコイヤ
2. ダイオウショウ
3. ムギ→ナス、ウリ
4. ソラマメ→キウリ、トマト
5. 二年草→一年草
6. 宿根草
7. 葉草類
8. [温室]
9. タイヒ
10. ワレ鉢
11. あら砂
12. 土
13. ピート
14. ハナミヨウガ
15. ナツスイセン、イリス
16. キジカクシ
19. グラジオラス
20. ガーベラ
21. アマリリス
22. ダリヤ
23. [ガス発生室]
24. 多年生草木
25. アヤメ、シラシ
26. アヤメ
27. カンナ
28. [水道]
29. パラ
30. カナメモチ
31. ヒラドツツジ
32. ヒマラヤスギ



- | | | |
|--------------|------------------|------------|
| 1. シュロチク | 24. ミズキ | 45. アセビ |
| 2. クチナシ | 25. ムレスズメ | 46. コノエザクラ |
| 3. ドラセナ | 26. ユッカ | 47. ヤツデ |
| 4. コノデカシワ | 27. アズサ | 48. ユッカ |
| 5. カイツカイブキ | 28. ハナスホウ | 49. アジサイ |
| 6. コノデカシワ | 29. コウメ | 50. ツバキ |
| 7. サンゴジュ | 30. コデマリ | 51. ゲッケイジ |
| 8. シジミバナ | 31. アジサイ | 52. ナンテン |
| 9. クス | 32. マンサク | 53. ナツメ |
| 10. [水そう] | 33. ヒイラギナンテン | 54. ミズキ |
| 11. クス | 34. ザクロ | 55. エノキ |
| 12. ダイオウショウ | 35. ビワ | 56. サツキ |
| 13. カナメモチ | 36. マユミ | 57. モモ |
| 14. ハギ | 37. イロハカエデ | 58. [裏山] |
| 15. ナニワイバラ | 38. コデマリ | 59. ヒラドツツジ |
| 16. 17. キリシマ | 39. トウシュロ | 60. ハギ |
| 18. ミツマク | 40. ウメモドキ | 61. ネムノキ |
| 19. ボケ | 41. ハナイカダ | 62. ナラノキ |
| 20. ユキヤナギ | 42. ヒラドツツジ S1~S4 | |
| 21. サツキツツジ | 43. パシヨウ | 南がわ花だん |
| 22. ソテツ | 44. キョウチクトウ | (一二年生草木) |
| 23. ハクチョウゲ | | |

し、大きくなり過ぎ、枯死・台風による倒木・交通障害などの伐採しなければならない事態も生じてきている。

校地の北東部の裏山の一部は、この辺りの自然の様子を残すが、開校時は戦時中の開墾の跡を残す裸山であった。それが、現在ではアカマツ林へと、二十数年の間の自然の遷移のようすをつぶさに示している。最近、林の中が薄暗く成ってきたので、間伐を行い明るい林づくりに努めている。

校内の樹木

校門周辺

附属中学校の花は、校章にも成っているナラノヤエザクラ(写真1)である。校門を入れてすぐのロータリーに、卒業生有志寄贈になるナラノヤエザクラが、1986年3月に植えられた。これが、正しく附属中学校の顔である。ナラノヤエザクラは、この他にも裏山の南側斜面、プールサイド、中庭に植えられている。

ガイドに示したスケッチは、本校美術科教諭の西蘭主税先生の手によるもので、スケッチAがこのナラノヤエザクラを描いたものである。全て縮小してあるので、原画の構図や筆致を損なっているが、本校の雰囲気は十分出ていると思って載せさせていただいた。

本校には、この他にもソメイヨシノ・シダレヤエザクラ・ヤマザクラ・ウコンザクラなどがあり、春の訪れを知らせるとともに、次から次へと約1か月校内のあちこちで花が咲き続けて、私達を楽しませてくれている。

次に目につく樹木は、玄関両側に植えられたセコイアである。常緑の針葉樹の特徴的な樹形を示す。円錐形の勇姿である。(ガイドDのスケッチ)1960年に植えられ、まだ30年ぐらいの年月しか経っていないが、10メートルを越える大木になっている。校舎側の1本は、建物に近すぎるためか、もう先枯れをしており、成長も止まっている。

その横には、ほぼ同形で落葉樹のメタセコイアがある。ともに第三紀に栄えた植物であ

る。この2つの間にイチョウがあり、針葉樹の3本の木が、校門付近で窮屈そうに先を競って伸びている。

校門を入れて正面の、壁面の前に見える植物は、イブキとヒマラヤスギ、右の運動場側にはダイオウショウと、ロータリーのナラノヤエザクラと管理棟際にあるサンゴジュの広葉樹を取り巻いて針葉樹でかためている。

運動場周辺

運動場に目を移すと、校門付近の西側にはシダレヤナギが数本見られる。シダレヤナギの後ろは、カナメモチの垣根である。カナメモチの垣は、この地に適したものか、良く生育し、赤い新芽は初夏に美しい彩りを添えてくれている。

それより南から東にかけては、プラタナスの大木が並んで植えてある。(ガイドCのスケッチ)そのプラタナスの木々の間から、斜面に植えてある、吉野のヤマザクラがのぞいている。春のはじめには花から新芽へと長い間、その美しい姿を見せてくれる。

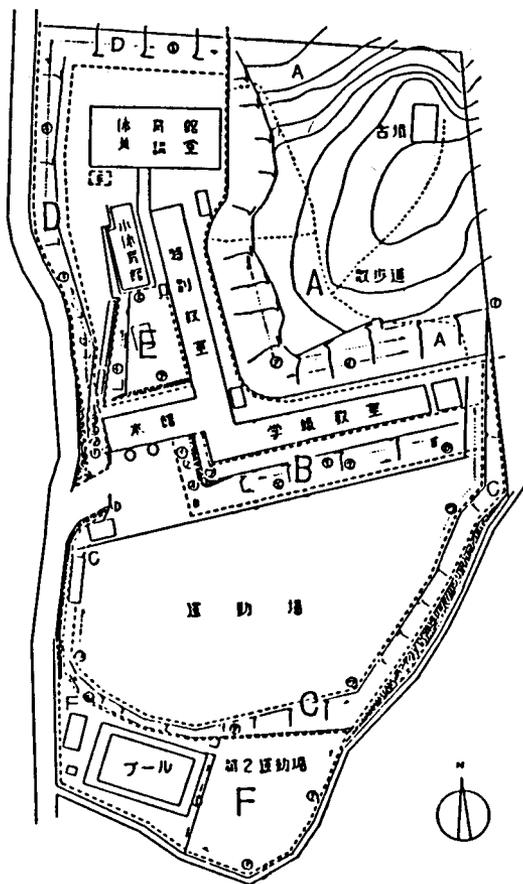
運動場の南端に近づけば、プール周辺の木々が見える。南西部にある藤棚(ノダフジ、写真3)、南側にはナギの並木、東側にはナラノヤエザクラが植えてある。ナラノヤエザクラの後ろの垣は、ウバメガシの垣根である。

目を転じて学級棟を望めば(ガイドEのスケッチ)、クスノキ・タカオカエデ・ミズキなどの高木層、それよりやや低くサルスベリ・ウメ・ザクロ・トベラなど、もっと低いムレスズメ・バラなどの灌木が、植えられている。改築移植から数年たち、今やっと落ち着いた風情を示してきているところである。

それより少し上がって生徒昇降口のところには、西端にソテツがあり、そしてモチツツジが並んで学級教室の横に植えられている。これらは、初夏には美しい花を咲かせる。

改築前の校舎周辺の植樹状況を、1965年の石川先生の調査から図を縮小して、次の資料

植栽区域図



F区域 (プール周辺)

- フジ (ノダフシ)
- ウバメガシワ
- ナギ
- ナラノヤエザクラ
- ニセアカシヤ
- カイツカイブキ

A区域 (校舎北東斜面と北庭)

- ナラノヤエザクラ
- ヒイラギナンテン
- ナツメ
- ヤツダ
- サンシュユ
- コデマサ
- アカマツ
- モチツツジ
- ネジキ

- サツキ (320本)
- ハナモモ
- シジミバナ
- ユキヤナギ
- ユッカ (キミガヨラン)
- ナンテン
- ハケシバリ
- アセビ
- コナラ

- エノキ
- ゲッケイジュ
- キョウチクトウ
- ニワコウノ
- ツバキ
- ミズキ
- ネズ
- アラカシ
- ハンノキ

B区域 (東庭(校舎南斜面))

- ヒラドツツジ
- シグレヤエザクラ
- ナツニレ
- バラ
- キリシマ
- コノチガシワ
- ドラセナ
- カイツカイブキ
- クチナシ
- スイレン
- ハマユウ
- ソチツ
- ミズキ
- ニワザクラ
- モリシマアカシヤ
- イロハカエデ
- コナラ

- ハギ
- ユッカ
- トウシユロ
- ツバキ
- ボケ
- キンモクセイ
- マユミ
- モッコク
- クコ
- シマフトイ
- ユキヤナギ
- ハクチョウゲ
- アズサ (キササゲ)
- グミ
- ザクロ
- ネマスギ
- マサキ

- ソメイヨシノザクラ
- シジミバナ
- クス
- ボクン
- イブキ
- ギンモクセイ
- サンゴジュ
- マキ
- タイホクレン
- ヒメコマツ
- サルズベリ
- ムレスズメ
- コデマリ
- ヒイラギ
- ウメ (紅・白)
- メクセコイナ
- ナニワイバラ

C区域 (運動場斜面)

- ブラクナス
- カナメモチ
- セコイナ (アケボノスギ)
- サザンカ

- ヤマザクラ
- シグレヤナギ
- アオギリ
- キョウチクトウ

- ナンキンハゼ
- イチョウ
- ツバキ
- ドイツトウヒ

D区域 (西、北斜面)

- ボブラ
- ナンキンハゼ
- セコイナ (アケボノスギ)
- シチク
- シラカシ
- ナンキンハゼ
- カンザンジザクラ
- ココノエザクラ

- イチョウ
- ユッカ
- マユミ
- ヒヨクヒバ
- ネズミモチ
- ケヤキ
- ウコンザクラ
- サトザクラ

- ヒマラヤスギ
- ブラクナス
- ニセアカシヤ
- モクレン (赤・白)
- モミ
- ウワミズザクラ
- ナラノヤエザクラ

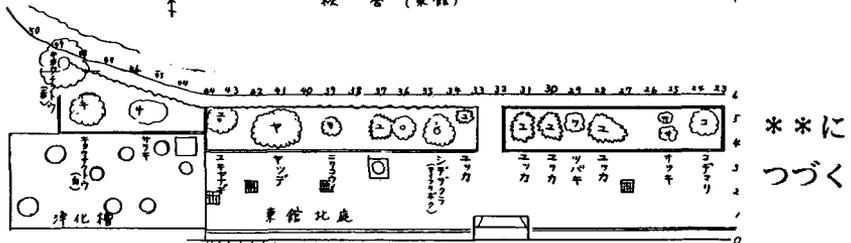
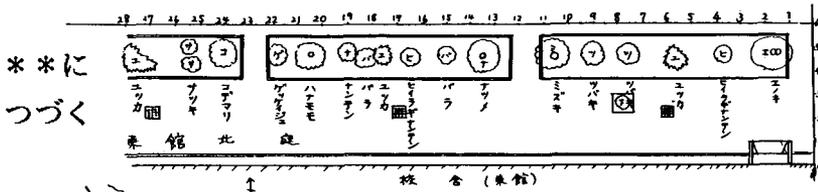
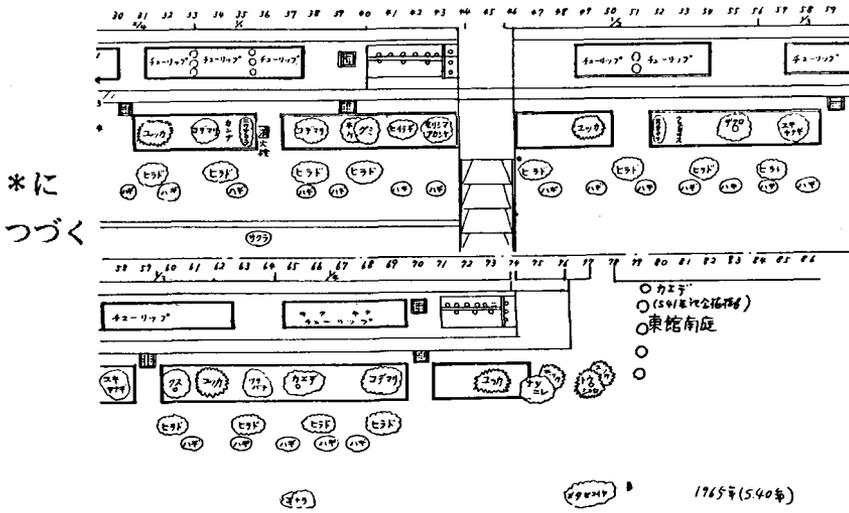
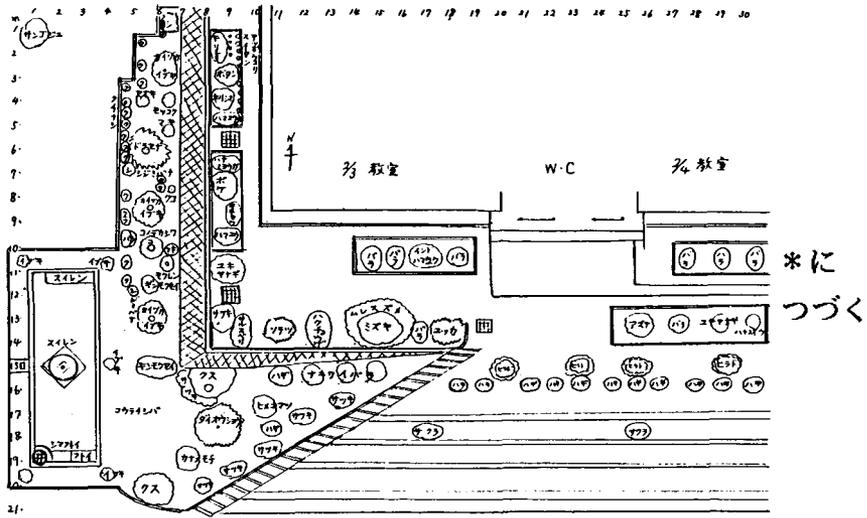
E区域 (温室の庭)

- ヒラドツツジ
- ウツギ
- バショウ
- ダイオウショウ
- ナンテン
- クロマツ
- コウゾ
- アジサイ
- ヒノキ
- シロヤマブキ
- ツルウメモドキ
- トベラ

- サツキ
- バラ
- カナメモチ
- クリ
- サザンカ
- リラ
- クワ
- ハナスホウ
- クニウツギ
- アオキ
- イチジク
- ロウバイ

- サトザクラ
- キョウボク
- ヒマラヤスギ
- シチク
- アオギリ
- クコ
- アメリカフウ
- ムクゲ
- ヤマブキ
- ビワ
- マルバユウカリ
- カキ

資料 3



3に示す。

学級教室棟北から特別教室棟へ

学級教室棟の裏へ回る途中、狭いが百葉箱等を設置した気象露場があり、その東端にシュロを植えている。

裏に回ると狭い通路沿いに、ムクノキ・エノキ・ハナモモ・ナツメなどの高木の間、ツバキ・ゲッケイジュ・キョウチクトウが、それより低いヒイラギ・ナンテン・ウツギなどの灌木を植えている。改築時にも手をつけられなかった地域で、資料3を見るとほぼそのまま残っている。

西端には、石川先生が退官前に種から育てられたオガタマの木がもうだいぶ大きくなってきている。

学級教室棟よりの擁壁の上の垣根は、ウバメガシの垣根である。

元に戻るが、東端の裏山はアラカシなどの自然林が残っており、その横から古墳への上り道がある。裏山には、開校時（裸山の時）に、同窓会である八重桜会の寄贈になるサツキ（写真4）が植えられている。斜面を保護し、初夏には山を赤く染めるほど花をつける。

西の方のサツキの間には、ナラノヤエザクラも植えられている。ナラノヤエザクラは、春の花も美しいが、秋の紅葉もまた美しいものである。

これを曲がると、改築時に裏山の斜面を削った部分で、現在は石垣になっている。その前にはサザンカ・ウバメガシが植えられている。

特別教室棟の中庭へ

管理棟と特別教室棟に囲まれた平地を中庭と呼んでいる。現在では、理科室からは非常階段を使って直接降りることができ、教材園として一番の適地となっている。

気象の露場や温室も配置しているので狭い地域であるが、理科教材として利用しやすい場所であるので、新しい灌木類もまずここに

植えられることになる。

ここも、改築前よりずいぶん狭められた。資料3同様、中庭についての1960年の石川先生の調査を、次の資料4に示す。

改築時に、南側の一部を除いて裸地にされた。しかし、玄関周辺などの移植樹木のめばしいもの、シダレヤエザクラ（写真2）・ゴヨウマツ・クロマツ・ドラセナなどが移動してきている。玄関ロータリーのナラノヤエザクラと同じ大きさの木が2本ここにも植えられた。

ビワ・カキ・クワという実のなる木もあるので、校舎に近いにも関わらず、実のなる時期には野鳥も訪れる。西側の垣根は、ここもカナメモチの垣根である。

体育館周辺

体育館に向かうと、アオギリの並木がある。（ガイドBのスケッチ）それより体育館より、いまはまだ小さいが、1981年3月に卒業生の父兄である野島氏の寄贈になる。ヤエザクラが植わっている。咲いた花からみるとフゲンゾウらしい。将来は、立派な桜並木になるものと期待している。

体育館の東側には、ヌマスギが数本植えてある。これもやがて大きくなることであろう。

体育館周辺は、現在新しい樹木を植えることの出来る唯一の場所といって良いであろう。ユーカリ・カンコウバイは、1986年味の素のベルマーク・キャンペーン植樹の木々で、ここに植えてある。

通路の反対側の特別教室棟側には、ヒマラヤスギ・イチョウ・ヒノキなどの高木と、その間にジンチョウゲ・アオキ・ハギ・ニシキギなどの灌木がある。

体育館から校門へ

体育館から校門へ下って行くと、西側の斜面にアカマツ・ニセアカシヤ・サクラ・ナンキンハゼ・ケヤキなどの大木がある。冬場に、

ナンキンハゼの実をムクドリがよく食べに来ている。

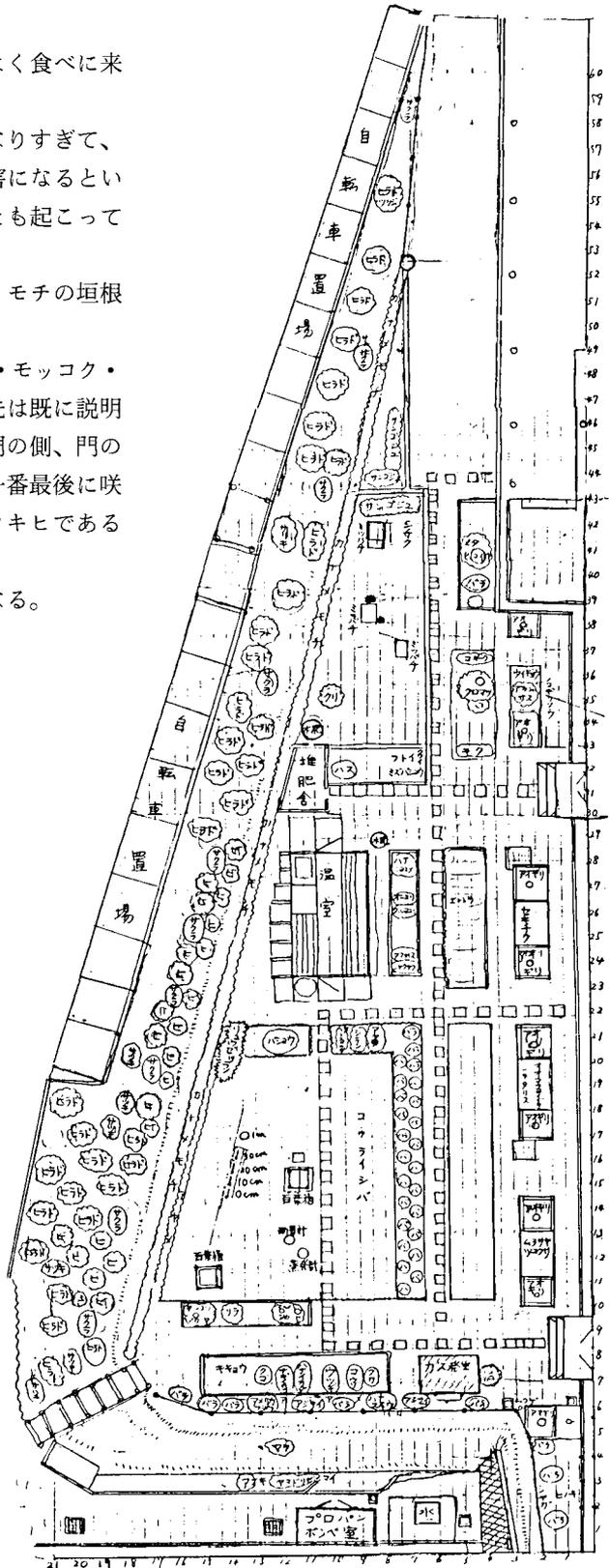
これらの木々は、少し大木になりすぎて、交通の障害や電線・電話線の障害になるということで、伐採されるようなことも起こってきている。

この道に沿った垣根も、カナメモチの垣根である。

管理棟の壁際に、タイサンボク・モッコク・クチナシが植わっている。その先は既に説明したセコイアの大木である。校門の側、門の外にサトザクラがある。校内で一番最後に咲き、美しい花である。品種はヨウキヒであるという。

これで校内を一巡したことになる。

資料4



附属農場の栽培植物

(撮影田中棟一)



巨大カボチャ「アトランチック・ジャイアント」 このカボチャは収穫時、43kgであった。



ヘビウリ 果実はぶら下り、物に触れると曲って、とぐるを巻いたようになる。熟すと赤くなる。



古代米（赤米） 穂が赤く、長い芒をもっている。



温室内の植物 クンシランやカラシコエの花が咲いている。



シコクエビ 雑草のオヒシバに比するが背丈が高く、穂が大きい。



温室内の植物 カトレアやデンドロビウムの花が咲いている。

(資料編)

大学構内の種子植物

石井登興・北川尚史

以下のリストは1988年4月から1989年12月にかけて調査した結果をまとめたものである。大学構内には多くの種の樹木や花卉、野菜などが植栽されているが、それらはすべて除外し、野生種だけに限った。また、ナンキンハゼ、ネムノキ、クスノキ、エノキ、アキニレなど、自然に生えたものか、植栽されたものかが紛らわしい樹木も除外した。コスモス、フランスギク、ヒルザキツキミソウ、ムシトリナデシコ、ブライダルベールなど、元もと栽培していたものが、その周辺に広がって局地的、散発的に野生状態で生えているものもこのリストには載せなかった。大部分の種は、記録の証拠となる標本作製して、生物学教室の標本室に保管してある。

種の配列順序、和名・学名は『原色日本植物図鑑』のシリーズ(保育社)に従った。

キク科 Compositae
ノゲシ *Sonchus oleraceus*
オニノゲシ *Sonchus asper*
オニタビラコ *Youngia japonica*
オオジシバリ *Ixeris debilis*
イワニガナ *Ixeris stolonifera*
アキノノゲシ *Lactuca indica*
コウゾリナ *Picris hieracioides* subsp.
japonica
ブタナ *Hypochoeris radicata*
カンサイタンポポ *Taraxacum japonicum*
セイヨウタンポポ *Taraxacum officinale*
ヤブタビラコ *Lapsana hamilis*
キツネアザミ *Hemistepta lyrata*
ノアザミ *Cirsium japonicum*
ノボロギク *Senecio vulgaris*
タカサブロウ *Eclipta prostrata*

ヒメヨモギ *Artemisia feddei*
ヨモギ *Artemisia princeps*
トキンソウ *Centipeda minima*
アメリカセンダングサ *Bidens frondosa*
ハハコグサ *Gnaphalium affine*
チチコグサ *Gnaphalium japonicum*
チチコグサモドキ *Gnaphalium pennsylvanicum*
ヒメジョオン *Erigeron annuus*
ヘラバヒメジョオン *Erigeron strigosus*
ハルジオン *Erigeron philadelphicus*
アレチノギク *Erigeron bonariensis*
ヒメムカシヨモギ *Erigeron canadensis*
オオアレチノギク *Erigeron sumatrensis*
ホウキギク *Aster subulatus*
ノコンギク *Aster ageratoides* subsp.
ovatus
ヨメナ *Kalimeris yomena*
セイタカアワダチソウ *Solidago altissima*
アキノキリンソウ *Solidago virgaurea*
subsp. *asiatica*
ヒヨドリバナ *Eupatorium chinense*
ブタクサ *Ambrosia artemisiifolia* var.
elatior
オオオナモミ *Xanthium canadense*

キキョウ科 Campanulaceae
キキョウソウ *Specularia perfoliata*

ウリ科 Cucurbitaceae
カラスウリ *Trichosanthes cucumeroides*

スイカズラ科 Caprifoliaceae
スイカズラ *Lonicera japonica*

アカネ科 Rubiaceae
ヘクソカズラ *Paederia scandens* var.
mairei
アカネ *Rubia cordifolia* var. *munjista*
キバナカワラマツバ *Galium verum*
var. *asiaticum*
チョウセンカワラマツバ *Galium verum* f.
album
ヤエムグラ *Galium spurium* var.
echinospermon
キクムグラ *Galium kikumugura*

オオバコ科 Plantaginaceae
ツボミオオバコ *Plantago virginica*
へらオオバコ *Plantago lanceolata*
オオバコ *Plantago asiatica*

キツネノマゴ科 Acanthaceae
キツネノマゴ *Justicia procumbens* var.
leucantha

ハマウツボ科 Orobanchaceae
ヤセウツボ *Orobanche minor*

ゴマノハグサ科 Scrophulariaceae
マツバウンラン *Linaria canadensis*
タチイヌノフグリ *Veronica arvensis*
オオイヌノフグリ *Veronica persica*
ムラサキサキゴケ *Mazus miquelii*
トキワハゼ *Mazus pumilus*

ナス科 Solanaceae
ヒヨドリジョウゴ *Solanum lyratum*

シソ科 Labiatae
ヒメジソ *Mosla dianthera*
トウバナ *Clinopodium gracile*
ホトケノザ *Lamium amplexicaule*
オドリコソウ *Lamium album* var.
barbatum

キラソウ *Ajuga decumbens*

クマツヅラ科 Verbenaceae
コムラサキ科 *Callicarpa dichotoma*
ムラサキシキブ *Callicarpa japonica*
クサギ *Clerodendron trichotomum*

ムラサキ科 Boraginaceae
キウリグサ *Trigonotis peduncularis*

ヒルガオ科 Convolvulaceae
コヒルガオ *Calystegia hederacea*

ガガイモ科 Asclepiadiaceae
ガガイモ *Metaplexis japonica*

キョウチクトウ科 Apocynaceae
テイカカズラ *Trachelospermum*
asiaticum

サクラソウ科 Primulaceae
コナスビ *Lysimachia japonica* f.
subsessilis

セリ科 Umbelliferae
オオチドメ *Hydrocotyle ramiflora*
ノチドメ *Hydrocotyle maritima*
オヤブヅラミ *Torilis scabra*
ミツバ *Cryptotaenia canadensis* subsp.
japonica

ウコギ科 Araliaceae
キヅタ *Hedera rhombea*

アカバナ科 Onagraceae
オオマツヨイグサ *Oenothera erythro-*
sepala

グミ科 Elaeagnaceae
ナワシログミ *Elaeagnus pungens*

スミレ科 *Violaceae*
タチツボスミレ *Viola grypceras*
ノジスミレ *Viola yedoensis*

オトギリソウ科 *Guttiferae*
オトギリソウ *Hypericum erectum*

ブドウ科 *Vitaceae*
ヤブガラシ *Cayratia japonica*
ツタ *Parthenocissus tricuspidata*
ノブドウ *Ampelopsis brevipedunculata*

トウダイグサ科 *Euphorbiaceae*
エノキグサ *Acalypha australis*
コニシキソウ *Euphorbia supina*
ニシキソウ *Euphorbia humifusa* var.
pseudochamaesyce

ヒメハギ科 *Polygalaceae*
ヒメハギ *Polygala japonica*

カタバミ科 *Oxalidaceae*
カタバミ *Oxalis corniculata*
ムラサキカタバミ *Oxalis corymbosa*

フウロソウ科 *Geraniaceae*
ゲンノショウコ *Geranium thunbergii*
アメリカフウロ *Geranium carolinianum*

マメ科 *Leguminosae*
ネコハギ *Lespedeza pilosa*
メドハギ *Lespedeza cuneata*
ミヤコグサ *Lotus corniculatus* var.
japonicus
カラスノエンドウ *Vicia sativa* var.
segetalis
カスマグサ *Vicia tetrasperma*
スズメノエンドウ *Vicia hirsuta*
アカツメクサ *Trifolium pratense*
シロツメクサ *Trifolium repens*

コメツブツメクサ *Trifolium dubium*
コマツナギ *Indigofera pseudotinctoria*
ヤブマメ *Amphicarpaea edgeworthii* var.
japonica
クズ *Pueraria lobata*
ツルマメ *Glycine soja*

バラ科 *Rosaceae*
ノイバラ *Rosa multiflora*
ナワシロイチゴ *Rubus parvifolius*
ヘビイチゴ *Duchesnea indica* var.
leucocephala
オヘビイチゴ *Potentilla kleiniana* subsp.
anemonefolia
ヒメヘビイチゴ *Potentilla centigrana*

ユキノシタ科 *Saxifragaceae*
アカショウマ *Astilbe thunbergii*

ベンケイソウ科 *Crassulaceae*
コモチマンネングサ *Sedum bulbiferum*

アブラナ科 *Cruciferae*
ナズナ *Capsella bursa-pastoris*
マメグンバイナズナ *Lepidium virginicum*
タネツケバナ *Cardamine flexuosa*
イヌガラシ *Rorippa indica*
スカシタゴボウ *Rorippa islandica*

ケシ科 *Papaveraceae*
ナガミヒナゲシ *Papaver dubium*

ツツラフジ科 *Menispermaceae*
アオツツラフジ *Cocculus orbiculatus*

アケビ科 *Lardizabalaceae*
アケビ *Akebia quinata*
ミツバアケビ *Akebia trifoliata*

キンポウゲ科 *Ranunculaceae*

ヒメウズ *Aquilegia adoxoides*
キツネノボタン *Ranunculus quelpaer-*
tensis
ケキツネノボタン *Ranunculus cantoni-*
ensis

ナデシコ科 *Caryophyllaceae*
ツメクサ *Sagina japonica*
ノミノツヅリ *Arenaria serpyllifolia* var.
tenuior
ミミナグサ *Cerastium fontanum* var.
angustifolium
オランダミミナグサ *Cerastium viscosum*
ウシハコベ *Malachium aquaticum*
ハコベ (コハコベ) *Stellaria media*
ミドリハコベ *Stellaria neglecta*

ヤマゴボウ科 *Phytolaccaceae*
ヨウシュヤマゴボウ *Phytolacca*
americana

ヒユ科 *Amaranthaceae*
ヒナタイノコズチ *Achyranthes fauriei*
イノコズチ *Achyranthes japonica*

アカザ科 *Chenopodiaceae*
ケアリタソウ *Chenopodium ambrosioides*
シロザ *Chenopodium album*

タデ科 *Polygonaceae*
スイバ *Rumex acetosa*
エゾノギシギシ *Rumex obtusifolius*
コギシギシ *Rumex dentatus* subsp.
nipponicus
ギシギシ *Rumex crispus* subsp. *japonicus*
ナガハギシギシ *Rumex crispus*
アレチギシギシ *Rumex conglomeratus*
ミゾソバ *Polygonum thunbergii*
ヤナギタデ *Polygonum hydropiper*
イヌタデ *Polygonum longisetum*

イタドリ *Polygonum cuspidatum*

ウマノスズクサ科 *Aristolochiaceae*
ウマノスズクサ *Aristolochia debilis*

イラクサ科 *Urticaceae*
クサマオ (カラムシ) *Boehmeria nivea*
subsp. *nipononivea*
ヤブマオ *Boehmeria grandifolia*

クワ科 *Moraceae*
クワクサ *Fatoua villosa*
カナムグラ *Humulus japonicus*

ドクダミ科 *Saururaceae*
ドクダミ *Houttuynia cordata*

ラン科 *Orchidaceae*
ネジバナ *Spiranthes sinensis* subsp.
australis

アヤメ科 *Iridaceae*
ニワゼキショウ *Sisyrinchium atlanticum*
オオニワゼキショウ *Sisyrinchiumatlan-*
ticum
シャガ *Iris japonica*

ヤマノイモ科 *Dioscoreaceae*
ヤマノイモ *Dioscorea japonica*
カエデドコロ *Dioscorea quinqueloba*

ヒガンバナ科 *Amaryllidaceae*
ヒガンバナ *Lycoris radiata*

ユリ科 *Liliaceae*
ヤブラン *Lilium platyphylla*
ノビル *Allium macrostemon*

イグサ科 *Juncaceae*
イ *Juncus effesus* var. *decipiens*

ホソイ *Juncus setchuensis* var. *effusoides*
クサイ *Juncus tenuis*
コウガイゼキシヨウ *Juncus leschenaultii*
スズメノヤリ *Luzula capitata*

ツユクサ科 Commelinaceae

ツユクサ *Commelina communis*
ノハカタカラクサ *Tradescantia flumiensis*

カヤツリグサ科 Cyperaceae

クグカヤツリ *Cyperus compressus*
コゴメガヤツリ *Cyperus iria*
カヤツリグサ *Cyperus microiria*
チャガヤツリ *Cyperus amuricus*
アオカヤツリグサ *Cyperus nipponicus*
ハマスゲ *Cyperus rotundus*
アゼガヤツリ *Pycnus flavidus*
ヒメクグ *Kyllingia brevifolia* subsp.

leiolepis

クロカワズスゲ *Carex arenicola*
マスクサスゲ *Carex gibba*
ヒメカンスゲ *Carex conica*
アオスゲ *Carex breviculmis*
ナキリスゲ *Carex lenta*
シラコスゲ *Carex rhizopoda*

イネ科 Gramineae

イヌムギ *Bromus catharticus*
キツネガヤ *Bromus remotiflorus*
スズメノチャヒキ *Bromus japonicus*
カモジグサ *Agropyron tsukushiense*
アオカモジグサ *Agropyron ciliare*
ホソムギ *Lolium perenne*
ネズミムギ *Lolium multiflorum*
ナギナタガヤ *Festuca myuros*
ウシノケグサ *Festuca ovina*
トボシガラ *Festuca parvigluma*
ヒロハウシノケグサ *Festuca elatior*
カモガヤ *Dactylis glomerata*
スズメノカタビラ *Poa annua*

オオイチゴツナギ *Poa nipponica*
ミゾイチゴツナギ *Poa acroleuca*
イチゴツナギ *Poa sphondylodes*
ナガハグサ *Poa pratensis*
オオスズメノカタビラ *Poa trivialis*
コバンソウ *Briza maxima*
ヒメコバンソウ *Briza minor*
カゼクサ *Eragrostis ferruginea*
ニワホコリ *Eragrostis multicaulis*
オヒシバ *Eleusine indica*
ギョウギシバ *Cynodon dactylon*
ネズミガヤ *Muhlenbergia japonica*
ネズミノオ *Sporobolus indicus*
カナリークサヨシ *Phalaris canariensis*
ヨシ *Phragmites communis*
カニツリグサ *Trisetum bifidum*
ヒエガエリ *Polypogon fugax*
ヤマヌカボ *Agrostis clavata*
ヌカボ *Agrostis exarata* var. *nukabo*
スズメノテッポウ *Alopecurus aequalis*
var. *amurensis*
オオアワガエリ *Phleum pratense*
シバ *Zoysia japonica*
ヌカキビ *Panicum bisulcatum*
イヌビエ *Echinochloa crus-galli*
イヌエノコログサ *Setaria ambigua*
キンエノコロ *Setaria glauca*
コツブキンエノコロ *Setaria pallide-fusca*
エノコログサ *Setaria viridis*
アキノエノコログサ *Setaria faberi*
チカラシバ *Pennisetum alopecuroides*
チチミザサ *Oplismenus undulatifolius*
シマスズメノヒエ *Paspalum dilatatum*
スズメノヒエ *Paspalum thunbergii*
メヒシバ *Digitaria ciliaris*
アキメヒシバ *Digitaria violascens*
ウシノシッペイ *Hemarthria sibirica*
チガヤ *Imperata cylindrica* var. *koenigii*
ススキ *Miscanthus sinensis*
ヒメアンボン *Microstegium vimineum*

ササガヤ *Microstegium japonicum*
コブナグサ *Arthraxon hispidus*
メリケンカルカヤ *Andropogon virginicus*
アブラススキ *Eccoilepus cotulifer*

ネザサ *Pleioblastus argenteostriatus*

ガマ科 Typhaceae

ガマ *Typha latifolia*

大学構内のシダ植物

山口 明 夫

1989年12月4日に奈良教育大学構内でシダ植物の調査を行い、現地で記録をとるとともに、標本を採集した。それらを基に以下のリストを作成した。構内で1~2株しか見出されなかったものは、その場所を示した。

Selaginellaceae イワヒバ科
Selaginella remotifolia クラマゴケ

Equisetaceae トクサ科
Equisetum arvense スギナ

Botrychiaceae ハナワラビ科
Sceptridium ternatum フユノハナワラビ
首塚の付近。

Schizaeaceae フサシダ科
Schizaea japonicum カニクサ

Pteridaceae イノモトソウ科
Dennstaedtia scabra コバノイシカグマ
赤レンガ倉庫の北側。
Hypolepis punctata イワヒメワラビ
Onychium japonicum タチシノブ
Pteris cretica オオバノイノモトソウ
Pteris multifida イノモトソウ

Thelypteridaceae ヒメシダ科
Thelypteris acuminata ホシダ
Thelypteris decursive-pinnata ゲジゲジシダ

Aspidiaceae オシダ科
Athyrium nipponicum イヌワラビ
Cyrtomium falcatum オニヤブソテツ
Cyrtomium fortunei ヤブソテツ
Deparia japonica シケシダ
Dryopteris erythrosora ベニシダ
Dryopteris lacera クマワラビ
Dryopteris ×mituii アイノコクマワラビ
部室の南側の溝。
Dryopteris uniformis オクマワラビ
Dryopteris varia var. *hikonensis* オオイ
タチシダ
首塚の北側の斜面。
Dryopteris varia var. *setosa* ヤマイタチ
シダ
Polysticum longifrons アイアスカイノデ

Aspleniaceae チャセンシダ科
Asplenium incisum トラノオシダ

Polypodiaceae ウラボシ科
Lepisorus thunbergianus ノキシノブ

大学構内のコケ植物

出口博則・北川尚史

本学構内には42種の蘚類と12種の苔類、計54種のコケが生育している。構内は全体的に乾燥しており、コケの種数は少ない。

コケが比較的多い場所は、構内で最も古い建物の赤レンガ倉庫の北側と、部室の奥の“首塚”の部分である。これらの場所は、近くに水の流れる溝があり、地面がやや湿っているため、かなり多くのコケが生育している。

赤レンガ倉庫の周辺の地面にはヤノネゴケが多く、また朽ちた材木上にホソバオキナゴケ、シンゴケ、カガミゴケが生えている。湿った地面にはジャゴケとともにコバノヤバネゴケが生えているが、後者は比較的稀な苔類であり、構内ではここだけでしか見つからない。

首塚の側溝の上の土手にナメリチョウチンゴケが旺盛に生育し、また、コバノチョウチンゴケもかなり多い。溝の縁の湿った石垣上にはヤマトコミミゴケが大量に生育している。やや湿った地面にはヒメナギゴケが最も多く、さらにチャボホウオウゴケ、キャラボクゴケ、アソシノブゴケ、ツクシウロゴケなども認められた。首塚の周りの岩上、土上、朽木上、樹幹などにヒメトサカゴケが多く生えている（この種は他の場所にも多く、各種の基物上に生じ、構内で最も普通の苔類である）。

附属小学校のグラウンドの東側や音楽科棟の西側に生えるソメイヨシノやイロハカエデの古木の樹幹には、多くのコケが着生している。蘚類ではサヤゴケ、カガミゴケ、コゴメゴケ、タチヒダゴケが多く、苔類ではカラヤスデゴケ、ミドリヤスデゴケ、ヒメアカヤスデゴケが多い。

吉備塚のクヌギは、附属小学校養護学級の西側のクスノキとともに構内で最も太い樹木

である。この樹幹には、タチヒダゴケを除く上記の種およびヒロハツヤゴケ、コバノチョウチンゴケが生育している。さらに、この樹幹上にはかなり稀なキサゴゴケが発見された。得られた標本はごく少量で、しかも不稔であったが、葉腋に形成される特徴的な無性芽によって本種であることが確認された。またクスノキの大木の樹幹には苔類のヒメミノリゴケ、フルノコゴケ、ミドリヤスデゴケ、カラヤスデゴケなどが多く着生している。

理科棟の北側に植栽されているクロマツの樹幹にはケカガミゴケの小さなマットに接近してイヌサナダゴケが見つかった。この両種の植物体は非常によく似ており、それぞれに特徴的な無性芽を見つけないかぎり、その区別はかなり困難である。

建物の周囲のコンクリートの溝の内壁にはときどきヤナギゴケが薄いマットを形成している。また、溝のコンクリートの蓋にはハマキゴケ、ハリガネゴケが生育している（両者ともに無性芽が見出された）。ハリガネゴケは事務棟の2階のベランダや各棟の屋上にも大きな群落をなして生育し、胞子体をよくつける。

建物周辺の草地にはノミハニワゴケ、ヤノネゴケ、コツボゴケが草にまじって生育し、また草地の中の小さな裸地にはツチノウエノタマゴケ、ヒメタチゴケ、コスギゴケなどが見出される。コケは一般に冬の季節にも枯れず緑色を保っている。そのため、草地に生えているコケは、その周辺の草が枯れた冬によく目立つ。日当たりのよい草地にはハイゴケが多い。日当たりがよく、草があまり生えていない土上にはネジクチゴケ、ツチノウエノ

タマゴケが生育している。

舗装道路の縁や、溝の石垣などにギンゴケやホソウリゴケが多い。

蘚類 (出口博則)

本稿は1989年10月22日に奈良教育大学構内で蘚類の調査を行い、採集した標本に基づいている。以下のリストに示す42種が確認されたが、その証拠標本は同大学生物学教室に保存されている。

Polytrichaceae スギゴケ科

Atrichum rhystophyllum ヒメタチゴケ

Pogonatum inflexum コスギゴケ

Fissidentaceae ホウオウゴケ科

Fissidens taxifolius キャラボクゴケ

Fissidens tosaensis チャボホウオウゴケ

Ditrichaceae キンシゴケ科

Ceratodon purpureus ヤノウエノアカゴケ

Ditrichum rhynchostegium ベニエキンシゴケ

Dicranaceae シッポゴケ科

Brothera leana シシゴケ

Leucobryum juniperoideum ホソバオキナゴケ

Trematodon longicollis ユミダイゴケ

Pottiaceae センボンゴケ科

Barbula unguiculata ネジクチゴケ

Didymodon constrictus チュウゴクネジクチゴケ

Hyophila propagulifera ハマキゴケ

Weissia crispa ツチノウエノタマゴケ

Erpodiaceae ヒナノハイゴケ科

Glyphomitrium humillimum サヤゴケ

Funariaceae ヒョウタンゴケ科

Physcomitrium sphaericum アゼゴケ

Bryaceae カサゴケ科

Brachymenium exile ホソウリゴケ

Bryum argenteum ギンゴケ

Bryum capillare ハリガネゴケ

Pohlia camptotrachela var. *vestitissima*
ホザキミスゴケ

Mniaceae チョウチンゴケ科

Mnium laevinerve ナメリチョウチンゴケ

Plagiomnium acutum コツボゴケ

Trachycystis microphylla コバノチョウチンゴケ

Orthotrichaceae タチヒダゴケ科

Orthotrichum consobrinum タチヒダゴケ

Hypnodontopsis apiculata キサゴゴケ

Fabroniaceae コゴメゴケ科

Fabronia matsumurae コゴメゴケ

Thuidiaceae シノブゴケ科

Bryohaplocladium angustifolium ノミハニワゴケ

Haplohymenium pseudo-triste コバノイトゴケ

Thuidium kanedae アソシノブゴケ

Amblystegiaceae ヤナギゴケ科

Leptodictyum riparium ヤナギゴケ

Brachytheciaceae アオギヌゴケ科

Brachythecium buchananii ナガヒツジゴケ

Bryhnia novae-angliae ヤノネゴケ

Eurhynchium fauriei ホソナギゴケ

Eurhynchium savatieri ヒメナギゴケ

Rhynchostegium inclinatum カヤゴケ

Entodontaceae ツヤゴケ科
Entodon challengeri ヒロハツヤゴケ

Plagiotheciaceae サナダゴケ科
Taxiphyllum taxirameum キャラハゴケ

Sematophyllaceae ハシボソゴケ科
Brotherella henonii カガミゴケ
Brotherella yokohamae ケカガミゴケ
Sematophyllum subhumile subsp.
japonicum ナガハシゴケ

Hypnaceae ハイゴケ科
Hypnum plumaeforme ハイゴケ
Platygyrium repens イヌサナダゴケ
Vesicularia flaccida ヨコスカイチイゴケ

苔 類 (北川尚史)

以下のリストは1989年11月から12月にかけて調査した結果をまとめたものである。コバノヤバネゴケ以外は奈良付近の低地の普通種である。数年前まで、全国的にもかなり珍しい *Monosolenium tenerum* ヤワラゼニゴケが構内の数か所で生育していたが今回は発見できなかった。記録の基になった標本は生

物学教室内に保存してある。

Lophocoleaceae ウロコゴケ科
Heteroscyphus planus ツクシウロコゴケ
Lophocolea minor ヒメトサカゴケ

Cephaloziellaceae コヤバネゴケ科
Cephaloziella microphylla コバノヤバネゴケ

Frullaniaceae ヤスデゴケ科
Frullania ericoides ミドリヤスデゴケ
Frullania muscicola カラヤスデゴケ
Frullania parvistipula ヒメアカヤスデゴケ

Lejeuneaceae クサリゴケ科
Acrolejeunea pusilla ヒメミノリゴケ
Cololejeunea japonica ヤマトヨウジョウゴケ
Lejeunea japonica ヤマトコミミゴケ
Lejeunea ulicina コクサリゴケ
Trocholejeunea sandvicensis フルノコゴケ

Conocephalaceae ジャゴケ科
Conocephalum conicum ジャゴケ

大学構内の鳥類

井上 龍一

以下の鳥類のリストは1988年1月から1990年2月までに大学構内で主に目撃した種についてまとめたものである。

コウノトリ目 CICONIIFORMES

1. サギ科 ARDEIDAE

- 1 コサギ *Egretta garzetta*

ワシタカ目 FALCONIFORMES

2. ワシタカ科 ACCIPITRIDAE

- 2 トビ *Milvus migrans*
3 サシバ *Butastur indicus*

ハト目 COLUMBIFORMES

3. ハト科 COLUMBIDAE

- 4 ドバト *Columba livia* var.
domestica
5 キジバト *Streptopelia orientalis*

フクロウ目 STRIGIFORMES

4. フクロウ科 STRIGIDAE

- 6 フクロウ *Strix uralensis*
7 アオバズク *Ninox scutulata*

キツツキ目 PICIFORMES

5. キツツキ科 PICIDAE

- 8 コゲラ *Dendrocopos kizuki*

スズメ目 PASSERIFORMES

6. ヒバリ科 ALAUDIDAE

- 9 ヒバリ *Alauda arvensis*

7. ツバメ科 HIRUNDINIDAE

- 10 ツバメ *Hirundo rustica*
11 コシアカツバメ *Hirundo daurica*

8. セキレイ科 MOTACILLIDAE

- 12 キセキレイ *Motacilla cinerea*

- 13 ハクセキレイ *Motacilla alba*

- 14 セグロセキレイ *Motacilla grandis*

- 15 ビンズイ *Anthus hodgsoni*

9. ヒヨドリ科 PYCNONOTIDAE

- 16 ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis*

10. モズ科 LANIIDAE

- 17 モズ *Lanius bucephalus*

11. ヒタキ科 MUSCICAPIDAE

ツグミ亜科 TURDINAE

- 18 ジョウビタキ

Phoenicurus auroreus

- 19 トラツグミ *Turdus dauma*

- 20 シロハラ *Turdus pallidus*

- 21 ツグミ *Turdus naumanni*

12. エナガ科 AEGITHALIDAE

- 22 エナガ *Aegithalos caudatus*

13. シジュウカラ科 PARIDAE

- 23 シジュウカラ *Parus major*

14. メジロ科 ZOSTEROPIDAE

- 24 メジロ *Zosterops japonica*

15. ホオジロ科 EMBERIZIDAE

- 25 ホオジロ *Emberiza cioides*

- 26 カシラダカ *Emberiza rustica*

- 27 アオジ *Emberiza spodocephala*

16. アトリ科 FRINGILLIDAE

- 28 アトリ *Fringilla montifringilla*

- 29 カワラヒワ *Carduelis sinca*

- 30 イカル *Eophona personata*

- 31 シメ *Coccothraustes*

coccothraustes

17. ハタオリドリ科 PLOCEIDAE

- 32 スズメ *Passer montanus*
 18. ムクドリ科 STURNIDAE
 33 ムクドリ *Sturnus cineraceus*
 19. カラス科 CORVIDAE

- 34 ハシボソガラス *Corvus corone*
 35 ハシブトガラス
Corvus macrorhynchos

大学構内の両生類、爬虫類、哺乳類

井上 龍一

大学構内の脊椎動物についてはこれまで調査した記録がないので1989年4月から調査を行った。主に目撃によるもので今後、哺乳類などは捕獲申請を出し、標本としても残していきたい。

哺乳類のホンダタヌキは今回の調査で初めて確認したものである。

両生類

無尾目 ANURA

1. アカガエル科 RANIDAE
 1 ヌマガエル *Rana limnocharis*
 2 トノサマガエル
Rana nigromaculata
 3 ウシガエル *Rana catesbesana*
 2. アマガエル科 HYLIDAE
 4 ニホンアマガエル *Hyla arborea*

爬虫類

有鱗目 SQUAMATA

- トカゲ亜目 LACERTILIA
 1. トカゲ科 SCINCIDAE
 1 トカゲ *Eumeces latiscutatus*
 2. カナヘビ科 LACERTIDAE
 2 カナヘビ
Takydromus tachydromoides

3. ヤモリ科 GEKKONIDAE
 3 ヤモリ *Gekko japonicus*
 ヘビ亜目 OPHIDIA
 4. ヘビ科 COLUBRIDAE
 4 ヤマカガシ *Rhabdophis tigrinus*
 5 シマヘビ *Elaphe quadrivirgata*

哺乳類

食虫目 INSECTIVORA

1. モグラ科 TALPIDAE
 1 コウベモグラ *Mogura kobee*

翼手目 CHIROPTERA

2. ヒナコウモリ科
 VESPERTILIONIDAE
 2 アブラコウモリ
Pipistrellus abramus

食肉目 CARNIVORA

3. イヌ科 CANIDAE
 3 ホンダタヌキ
Nyctereutes procyonoides viverrinus
 4. イタチ科 MUSTELIDAE
 4 チョウセンイタチ
Mustela sibirica coreana

附属中学校の樹木

人 見 功

1990年1月現在、附属中学校の校内に生育する樹木は以下の通りである。このリストを作成する過程で、外国産の栽培種が増える傾向にあること、ここ20年の間にも20種を超える樹木が、一度は植えられ、そして枯れていったことがわかった。

裸子植物

- ソテツ科 ソテツ
- イチョウ科 イチョウ
- マキ科 イヌマキ、ナギ
- マツ科 ツガ、ヒマラヤスギ、アカマツ、クロマツ、ダイオウマツ、ゴヨウマツ
- スギ科 スギ、メタセコイア、セコイア、ヌマスギ
- ヒノキ科 コノテガシワ、ヒノキ、ヒムロ、ネズ、イブキ

被子植物

双子葉離弁花植物

- ヤナギ科 シダレヤナギ
- カバノキ科 ハンノキ
- ブナ科 クリ、コナラ、クヌギ、ウバメガシ、アラカシ、シラカシ
- ニレ科 ムクノキ、ケヤキ
- クワ科 クワ
- モクレン科 コブシ、タイサンボク、オガタマノキ
- メギ科 ヒイラギナンテン、ナンテン、ホソバヒイラギナンテン
- ロウバイ科 ロウバイ
- クスノキ科 クスノキ、シロダモ、ゲッケイジュ
- ユキノシタ科 ウツギ、ヒメウツギ、

- アジサイ
- トベラ科 トベラ
- マンサク科 フウ
- スズカケノキ科 アメリカスズカケノキ
- バラ科 シモツケ、コデマリ、ユキヤナギ、シジミバナ、タチバナモドキ、カイドウ、コナシ、ビワ、カナメモチ、シャリンバイ、ボケ、ヤマブキ、キイチゴ、バラ、ウメ、ニワザクラ、ハナモモ、シダレヤエザクラ、ヒガンザクラ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、サトザクラ、フゲンゾウ、ウコンザクラ
- マメ科 ネムノキ、ハナズオウ、エニシダ、フジ、ムレスズメ、ハリエンジュ、ハギ
- ミカン科 カラタチ
- トウダイグサ科 ユズリハ、ナンキンハゼ、アカメガシワ
- ツゲ科 ブクサスツリー
- ウルシ科 ハゼノキ
- モチノキ科 モチノキ、ヒイラギモチ、イヌツゲ、ネズミモチ
- ニシキギ科 ツリバナ、マユミ、ニシキギ、マサキ
- カエデ科 イロハカエデ
- トチノキ科 トチノキ
- クロウメモドキ科 ナツメ
- アオイ科 フヨウ、ムクゲ、ハイビスカス
- アオギリ科 アオギリ
- ツバキ科 ツバキ、サザンカ、ヒサカキ、モッコク

| | | | |
|----------|----------------|----------------|---------------|
| ジンチョウゲ科 | ジンチョウゲ | ヒイラギモクセイ、ヒイラギ、 | |
| グミ科 | ナワシログミ | オウバイ、レンギョウ | |
| ミソハギ科 | サルスベリ | キョウチクトウ科 | キョウチクトウ |
| ザクロ科 | ザクロ | クマツヅラ科 | ムラサキシキブ |
| フトモモ科 | ユウカリジュ | ナス科 | クコ |
| ウコギ科 | ヤツデ、タカノツメ | アカネ科 | クチナシ、ハクチョウゲ |
| ミズキ科 | ミズキ、アオキ | スイカズラ科 | サンゴジュ、ハコネウツギ、 |
| 双子葉合弁花植物 | | | タニウツギ、アベリア |
| ツツジ科 | ヤマツツジ、サツキツツジ、 | 単子葉植物 | |
| | モチツツジ、ドウダンツツジ、 | イネ科 | シチク |
| | アセビ、ネジキ | ヤシ科 | シュロ、シュロチク |
| カキノキ科 | カキ | ユリ科 | キミガヨラン、ドラセナ、 |
| モクセイ科 | イボタノキ、ギンモクセイ、 | | ナギイカダ |
| | キンモクセイ、 | | |

附属農場の樹木

東村隆子・田中棟一

本学は昭和24年5月に奈良学芸大学として開学するにあたり、前身の奈良青年師範学校の附属農場を引き継いだ。当時の農場は同師範学校の位置する高市郡八木町小房（現在の橿原市小房町）にあった。奈良青年師範学校の最後の生徒（農業科、林業科および女子部）が卒業した昭和26年3月末日をもって同師範学校は廃校となり、その全施設が奈良学芸大学の附属農場および演習林のものとなった。

奈良学芸大学は昭和33年10月に現在の高畑町に校舎の移転した。また、昭和41年4月に奈良教育大学と改称され、同時に中学校教員養成課程職業科が廃止された。その後も元の農場（八木農場と呼ばれていた）が農業関係の実習の場として利用されていた。しかし、農業関係の教官と学生が少なくなり、大きな農場を管理・維持することが次第に困難になり、また遠隔の地で不便であるため、同農場を売却して、昭和44年3月に奈良市白毫寺町の現在地に移転した。

現在の附属農場は大学のキャンパスから南へ約0.8kmの位置にあり、徒歩で約10分の距離にある。面積は約110a（3300坪）で、水田や蔬菜園などのほか、7aの花木園、6aの果樹園を有している。また、0.7aのガラス温室の設備をもっている。

本学附属農場は現在地（元は水田）に移転した後、各種の植物の収集に努めた。その結果、現在（1990年1月）、同農場には、以下のリストに示す、かなり多数の樹木が植栽されている。なお、このリストには、それぞれの樹木の入手元とその年もあわせて記録した。「旧八木農場 1969」のように、現在地に移転する以前に八木農場から移した形で記載し

ているものは、その年にいったん大学構内に移し、後に現在の附属農場に移植したものである。

Salicaceae ヤナギ科

Salix gracilistyla ネコヤナギ

挿木 1974

Salix matsudana ウンリュウヤナギ

挿木 1974

Salix subfragilis タチヤナギ

旧八木農場 1962

Fagaceae ブナ科

Castanea crenata クリ（銀寄）

田中棟一 1986

Quercus phyllyraeoides ウバメガシ

奈良護国神社 1975

Ulmaceae ニレ科

Zelkova serrata ケヤキ

奈良護国神社 1975

Moraceae クワ科

Ficus carica イチジク

Magnoliaceae モクレン科

Magnolia denudata ハクモクレン

奈良市村上種苗店

Magnolia grandiflora タイサンボク

Michelia fuscata トウオガタマ

京都教育大学 1974

Calycanthaceae ロウバイ科

Meratia praecox ロウバイ

平田善文 1975
Meratia praecox var. *lutea* ソシンロウバ
イ

Lauraceae クスノキ科
Cinnamomum camphora クスノキ
奈良護国神社 1975
Laurus nobilis ゲッケイジュ
喜多功 1974

Ranunculaceae キンボウゲ科
Clematis sp. クレマチス
旧八木農場 1969
Paeonia suffruticosa ボタン

Berberidaceae メギ科
Berberis sp. フッカーメギ
京都教育大学 1974
Mahonia japonica ヒイラギナンテン
奈良市村上種苗店 1974
Nandina domestica ナンテン
旧八木農場 1977
Nandina domestica 'Leucocarpa' シロナン
テン
奈良市村上種苗店 1975

Theaceae ツバキ科
Camellia japonica ツバキ
旧八木農場 1969
Camellia sasanqua サザンカ
旧八木農場 1969

Hamamelidaceae マンサク科
Corylopsis spicata トサミズキ
京都教育大学 1974
Hamamelis japonica マンサク
橿原市西田園芸 1977

Pittosporaceae トベラ科
Pittosporum tobera トベラ

奈良護国神社 1975

Saxifragaceae ユキノシタ科
Deutzia crenata ヤエウツギ
京都教育大学 1974
Deutzia gracilis ヒメウツギ
奈良市村上種苗店 1976
Hydrangea macrophylla セイヨウアジサイ
挿木 1977
Hydrangea macrophylla ガクアジサイ
挿木 1977

Rosaceae バラ科
Chaenomeles speciosa ボケ
旧八木農場 1969
Cotoneaster horizontalis ベニシタン
挿木 1969
Crataegus oxyacantha セイヨウサンザシ
京都教育大学 1974
Eriobotrya japonica ビワ
大和農園 1965
Prunus japonica ニワウメ
旧八木農場 1969
Prunus lannesiana オオシマザクラ
挿木
Prunus leveilleana cv. *Narazakura* ナラノ
ヤエザクラ 奈良県 1973
Prunus mune ウメ (鶯宿, 寒紅梅, 冬至)
五條市鎌田種苗店 1968
Prunus persica モモ (中津白桃, 大久保)
五條市鎌田種苗店 1968
Prunus persica ハナモモ (ヤグチ, キクモ
モ) 奈良県 1973
Prunuu spachiana シダレザクラ
接木 1969
Prunus tomentosa ユスラウメ
喜多功 1975
Prunus x yedoensis ソメイヨシノ
接木 1978
Prunus sp. ナラコノエザクラ

平田善文 1971
Pyrus serotina var. *culta* ナシ (二十世紀)
五條市鎌田種苗店 1968
Sorbaria kirilowii ニワナナカマド
京都教育大学 1974
Pyracantha angustifolia タチバナモドキ
Pyracantha crenulata ヒマラヤピラカンサ
京都教育大学 1974
Spiraea cantoniensis コデマリ
京都教育大学 1974
Spiraea salicifolia ホザキシモツケ
京都教育大学 1974
Spiraea thunbergii ユキヤナギ
旧八木農場 1969
Spiraea tosaensis トサシモツケ
京都教育大学 1974
Spiraea sp. アムールシモツケ
京都教育大学 1974
Stephanandra incisa コゴメウツギ
京都教育大学 1974

Leguminosae マメ科

Cercis chinensis ハナズオウ
生物教室 1974
Cytisus scoparius var. *andreanus* ホオベ
ニエニシダ 奈良市村上種苗店 1974
Lespedeza penduliflora ミヤギノハギ
白毫町喜多農園 1975
Wisteria floribunda フジ
実生 1975

Rutaceae ミカン科

Zanthoxylum piperitum サンショウ
小川八郎

Meliaceae センダン科

Melia azedarach var. *japonica* センダン
京都教育大学 1974

Aceraceae カエデ科

Acer palmatum イロハモミジ (セイガイ,
ノムラ) 旧八木農場 1969

Aquifoliaceae モチノキ科

Ilex crenata イヌツゲ
旧八木農場 1962

Celastraceae ニシキギ科

Celastrus orbiculatus ツルウメモドキ
旧八木農場 1975
Euonymus alatus ニシキギ
京都教育大学 1974
Euonymus japonicus マサキ
Euonymus sieboldianus マユミ
能登川堤 1974

Rhamnaceae クロウメモドキ科

Ziziphus jujuba ナツメ
奈良教育大学 1974

Tiliaceae シナノキ科

Grewia biflora ウオトリギ
京都教育大学 1974

Malvaceae アオイ科

Hibiscus syriacus ムクゲ
京都教育大学 1974

Sterculiaceae アオギリ科

Firmiana platanifolia アオギリ
旧八木農場 1977

Thymelaeaceae ジンチョウゲ科

Daphne odora ジンチョウゲ
挿木 1970
Daphne odora 斑入りジンチョウゲ
挿木 1970

Elaeagnaceae グミ科

Elaeagnus multiflora トウグミ

五條市鎌田種苗店 1978

Lythraceae ミソハギ科

Lagerstroemia indica サルスベリ

挿木 1970

Lagerstroemia indica シロバナサルスベリ

挿木 1970

Myrtaceae フトモモ科

Callistemon speciosum ブラッシノキ

京大植物園 1969

Cornaceae ミズキ科

Cornus florida ハナミズキ

佐藤一郎

Cornus officinalis サンシュユ

橿原市西田園芸 1980

Araliaceae ウコギ科

Hedera helix セイヨウキツタ

奈良市村上種苗店

Fatsia japonica ヤツデ

旧八木農場 1969

Nyssaceae ヌمامズキ科

Camptotheca acuminata カンレンボク

京都教育大学 1974

Ericaceae ツツジ科

Rhododendron japonicum レンゲツツジ

喜多功 1975

Rhododendron metternichii ツクシシヤク

ナゲ 演習林 1971

Rhododendron indicum サツキ

旧八木農場 1975

Rhododendron obtusum キリシマツツジ

(クルメツツジ)

Rhododendron sp. ヒラドツツジ

奈良県高取町

Pieris japonica アセビ

奈良市春日山

Myrsinaceae ヤブコウジ科

Ardisia japonica ヤブコウジ

奈良県高取町 1978

Ardisia crenata マンリョウ

奈良県高取町 1978

Ebenaceae カキノキ科

Diospyros kaki カキ (富有柿, 平核無, 正

月) 五條市鎌田種苗店 1968

Oleaceae モクセイ科

Forsythia koreana チョウセンレンギョウ

旧八木農場 1969

Jasminum mesnyi ウンナンソケイ

京都教育大学 1974

Jasminum nudiflorum オウバイ

田中棟一 1976

Ligustrum obtusifolium イボタノキ (斑入り) 京都教育大学 1974

Osmanthus asiaticus ギンモクセイ

奈良護国神社 1975

Osmanthus x fortunei ヒイラギモクセイ

奈良護国神社 1975

Osmanthus ilicifolius ヒイラギ

Syringa vulgaris ライラック

奈良教育大学 1969

Apocynaceae キョウチクトウ科

Nerium indicum キョウチクトウ

挿木 1974

Nerium indicum シロバナキョウチクトウ

挿木 1974

Verbenaceae クマツヅラ科

Callicarpa japonica ムラサキシキブ

実生 1976

Callicarpa japonica シロシキブ

実生 1976

Bignoniaceae ノウゼンカズラ科
Camptis grandiflora ノウゼンカズラ
京都教育大学 1974

Caprifoliaceae スイカズラ科
Abelia grandiflora ハナゾノツクバネ
ウツギ 京都教育大学 1974
Viburnum awabuki サンゴジュ
挿木 1970
Viburnum plicatum オオデマリ
Weigela coraeensis ハコネウツギ
京都教育大学 1974
Weigela maximowiczii キバナウツギ
京都教育大学 1974

Liliaceae ユリ科
Phormium tenax ニユウサイラン
Ruscus aculeatus ナギイカダ
生物学教室 1975
Yucca gloriosa アツバキミガヨラン
農業教室 1969
Yucca filamentosa イトラン
農業教室 1969
Yucca sp. ユッカ
旧八木農場

Gramineae イネ科
Phyllostachys aurea ホテイチク
橿原市西田園芸 1977
Sasa veitchii クマザサ
橿原市西田園芸 1977

Palmae ヤシ科
Rhapis flabelliformis カンノンチク
橿原市西田園芸 1971
Rhapis humilis シュロチク
旧八木農場 1969
Trachycarpus fortunei シュロ
奈良市萩ヶ丘 岡野 1983

Ginkgoaceae イチョウ科
Ginkgo biloba イチョウ
旧八木農場 1969

Pinaceae マツ科
Picea abies ドイツトウヒ
奈良市村上種苗店
Pinus armandii チョウセンゴヨウ
Pinus densiflora アカマツ
石田祐三
Pinus parviflora ゴヨウマツ
旧八木農場 1969
Pinus thunbergii クロマツ
旧八木農場 1969
Pinus thunbergii var. *corticos*a ニシキマ
ツ 旧八木農場 1969

Taxodiaceae スギ科
Cedrus deodara ヒマラヤスギ
旧八木農場 1969
Cryptomeria japonica オオゴンスギ
挿木
Cryptomeria japonica var. *radicans* アシ
ウスギ 旧八木農場 1969
Cryptomeria japonica var. *araucarioides*
エンコウスギ 農業教室 1969
Sciadopitys verticillata コウヤマキ
奈良市村上種苗店 1985

Cupressaceae ヒノキ科
Biota orientalis var. *ericoides* シシンデン
奈良市村上種苗店
Chamaecyparis obtusa ヒノキ
旧八木農場 1969
Chamaecyparis obtusa var. *filicodes* オウ
ゴンクジャクヒバ 田中棟一 1974
Chamaecyparis pisifera ヒヨクヒバ
旧八木農場
Chamaecyparis pisifera var. *plumosa* オ
ウゴンシノブヒバ 旧八木農場 1969

Chamaecyparis pisifera var. *squarrosa* ヒ
ムロ 旧八木農場 1969

Juniperus chinensis ビャクシン 旧八木農
場

Juniperus chinensis cv. *Kaizuka* カイツカ

イブキ 旧八木農場 1969

Thujaopsis dolabrata アスナロ

Taxaceae イチイ科

Taxus cuspidata イチイ

附属農場温室内の植物

東 村 隆 子・田 中 棟 一

以下のリストは1990年1月の時点で附属農場の温室内に栽培している植物である。このガラス温室は面積が0.7aであり、自動スプリンクラーなどの設備を有している。経費節約のため、冬の暖房は5℃を下回らない範囲に限って行っているため、高温を必要とする熱帯性の植物は栽培していない。

Piperaceae コショウ科

Peperomia caperata ペペロミア (オオバチヂミシマアイソウ)

Peperomia hederacea ペペロミア (ギンバシマアイソウ)

Peperomia sandersii ペペロミア (シマアイソウ)

Moraceae クワ科

Ficus elastica インドゴムノキ

Ficus elastica 'Craigi' タチバインドゴムノキ

Ficus elastica 'Decora' デコラゴムノキ

Ficus elastica 'Decora Variegata' 斑入りインドゴムノキ

Ficus microcarpa ガジュマル

Nyctaginaceae オシロイバナ科

Bougainvillea sp. ブーゲンビレア

Crassulaceae ベンケイソウ科

Kalanchoe blossfeldiana カランコエ (紅弁慶)

Kalanchoe tubiflora カランコエ (錦蝶)

Crassula obliqua クラッスラ (花月)

Geraniaceae フウロソウ科

Pelargonium x hortorum テンジクアオイ

Euphorbiaceae トウダイグサ科

Euphorbia milii var. *splendens* ハナキリン

Euphorbia tirucalli アオサンゴ

Euphorbia trigona サイウンカク (彩雲閣)

Balsaminaceae ツリフネリウ科

Impatiens sultani アフリカホウセンカ

Malvaceae アオイ科

Hibiscus rosa-sinensis ハイビスカス (紅色大輪)

Passifloraceae トケイソウ科

Passiflora caerulea トケイソウ

Begoniaceae シュウカイドウ科

Begonia x argenteo-guttata アマノカワベゴニア

Begonia x margaritae ツヤベゴニア

Begonia masoniana アイアंकロス・ベゴニア

Begonia rex オオベゴニア

Begonia schmidtiana ヒメベゴニア

Begonia 'President Carnot' ヨウラクベゴニア

Begonia x semperflorens シキザキベゴニア

Cactaceae サボテン科

Epiphyllum oxypetalum ゲッカビジン

Epiphyllum 'Pegasus' クジャクサボテン
Rhiphsaphyllosis graeseri ホシクジャクサボ
テン

Pilocereus palmeri ハルゴロモサボテン
Zygocactus truncatus シャコバサボテン

Melastomataceae ノボタン科
Tibouchina semidecandra シコンノボタン

Onagraceae アカバナ科
Fuchsia hybrida フクシャ (伊達紫)

Araliaceae ウコギ科
Schefflera arboricola ホンコンカボック

Apocynaceae キョウチクトウ科
Mandevilla sanderi マンデビラ・サンデリー

Asclepiadaceae ガガイモ科
Hoya carnosa サクララン

Solanaceae ナス科
Nicotiana alata ハナタバコ

Gesneriaceae イワタバコ科
Aeschynanthus speciosus エスキナンツス・
スベシオサス
Lysionotus pauciflorus シシンラン

Acanthaceae キツネノマゴ科
Aphelandra squarrosa 'Dania' アフェラン
ド・ダニア

Palmae ヤシ科
Collinia elegans テーブルヤシ
Howeia belmoreana ケンチャヤシ
Phoenix sp. フェニックス
Rhapis flabelliformis カンノンチク
Syagrus weddelliana ヒメヤシ

Araceae サトイモ科
Caladium bicolor カラジウム (ニシキイモ)
Monstera deliciosa モンテスラ (ホウライ
ショウ)
Monstera friedrichsthali モンテスラ (マ
ドカズラ)
Philodendron oxycardium フィロデンドロ
ン (ヒメカズラ)
Philodendron verrucosum フィロデンドロ
ン (シコンカズラ)
Scindapsus aureus ポトス (オウゴンカズラ)
Spathiphyllum patinii スパシフィラム (サ
サウチワ)

Bromeliaceae パイナップル科
Acanthostachys strobilacea マツカサアナ
ナス
Aechmea fasciata シマサンゴアナナス
Aechmea fulgens ウラベニサンゴアナナス
Aechmea orlandiana オオシマサンゴアナ
ナス
Aechmea recurvata トックリアナナス
Aechmea weilbachii ショウジョウアナナス
Neoregelia spectabilis ツマベニアナナス
Neoregelia carolinae var. tricolor ネオレ
ゲリア
Tillandsia cyanea ハナアナナス
Vriesea carinata インコアナナス
Vriesea x poelmannii オオインコアナナス
Vriesea splendens トラフアナナス

Commelinaceae ツユクサ科
Setcreasea purpurea セトクレアセア (ムラ
サキゴテン)
Tradescantia albiflora トラデスカンチア・
アルビフロラ
Tripogandra multiflora ブライダル・ベー
ル

Liliaceae ユリ科

Aloe arborescens キダチアロエ
Aloe humilis ミカドニシキ
Aloe sponaria シャボンアロエ
Beaucarnea recurvata トックリラン
Chlorophytum comosum オリズルラン
Chlorophytum elatum ヒロハオリズルラン
Cordyline indivisa コルジリネ (ムラサキ
アツバセンネンボク)
Cordyline terminalis アイチアカ
Dracaena concinna ドラセナ (ベニフクリ
ンセンネンボク)
Sansevieria stuckyi サンセベリア (ツツチ
トセラン)
Sansevieria trifasciata サンセベリア (ア
ツバチトセラン)
Sansevieria trifasciata var. *laurentii* サ
ンセベリア (フクリンチトセラン)
Sansevieria trifasciata 'Hahnii' サンセベ
リア (マルバチトセラン)

Amaryllidaceae ヒガンバナ科

Clivia miniata クンシラン (斑入り, ダル
マ)
Crinum asiaticum ハマユウ
Hippeastrum hybridum アマリリス

Marantaceae クズウコン科

Calathea zebrina カラテア (トラフヒメバ
ショウ)
Calathea makoyana カラテア (ゴシキヤバ
ネショウ)
Ctenanthe oppenheimiana クテナンテ (ミ
イロヒメバショウ)
Stromanthe sanguinea ストロマンテ (ウラ
ベニショウ)

Orchidaceae ラン科

Cattleya spp. カトレア
Cymbidium spp. シンビジウム

Cypripedium spp. シプリペジウム
Paphiopedilum sharmanii パフィオペジウ
ム (シャーメイン)
Dendrobium nobile デンドロビウム・ノビ
レ (コウキセッコク)
Dendrobium chrysotoxum デンロビウム・
クリソトキサム
Dendrobium formidibile デンドロビウム・
フォーミーダブル
Epidendrum radicans エピデンドラム・ラ
デイカンス
Neofinetia falcata フウラン
Oncidium sphacelatum オンシジウム・ス
ファセラータム
Zygopetalum mackyi ジゴペタラム・マッ
ケイ

Zingiberaceae ショウガ科

Strelitzia reginae ゴクラクチョウカ

Araucariaceae ナンヨウスギ科

Araucaria excelsa シマナンヨウスギ (ア
ロウカリア)

Psilotaceae マツバラン科

Psilotum nudum マツバラン

Davalliaceae シノブ科

Davallia mariessi シノブ

Oleandraceae ツルシダ科

Nephrolepis exaltata タマシダ (テディ・
ジュニア)

Polypodiaceae ウラボシ科

Asplenium antiquum オオタニワタリ
Platynerium bifurcatum ビガクシダ
Platynerium willinckii ナガバビガクシダ
Pyrrosia lingua シシヒトツバ

附属農場の古代米



附属農場の古代米の形質比較

森 源 治 郎

今日栽培されている米は白色で粒が短く、丸い、いわゆるジャポニカ系のものである。しかし、古代には赤米、黒米などと呼ばれる着色米があり、この中にはジャポニカ系のものと、大唐米によって代表される粒の幅が狭く、長いインディカ系の両タイプのもので存在していた。また炊いた時に香りがする香り米なども栽培されていた。白色米はこのような着色米を改良して育成されたのだろうか、あるいは古くから両者が存在していて、今日に至る過程で白色短粒米だけが残されたのだろうか。

我国では稲が約2000年前から栽培されているが、それが赤米であったか、白米であったかは明らかでない。赤米の記事が最初にみられるのは天平6年の尾張国収納税帳であり、これによって1200余年前に赤米が作られていたことがわかる。そして大唐米に関する記載が最初にみられるのは応永年間（約550年前）の三寶院文書や東寺百合文書中の算用状である。

インディカ系の赤米は冷湿な不良環境に適し、やせ地の少肥状態でも一定の収量がある上、早生種であるということもあって、稲作条件の悪かった西南地方で多く栽培されていた。また、ジャポニカ系の赤米は全国にみられるが、その事例は少ない。すなわち、我国では、古くからジャポニカ系の白米が圧倒的に多かったようである。赤米、黒米の着色米及び香り米は白色米に比べて食味が悪く、またインディカ系の大唐米は脱粒性及び水田表面での越冬性が大で雑草化しやすく、白米の中に赤米が混入することがある上、ジャポ

ニカ系の稲と交雑すると不稔になり、実らないことなどもあって、白米の品種改良が進められることにともない、人為的に除去され、明治年代には日本の水田から姿を消した。

ところで、本学附属農場には表に示されている8種類の古代米が収集保存されている。

これらのうち大唐米、岡山県総社市国司神社、対馬頭酸多久頭神社、種子島及び種子島宝満神社の5種類が赤米と呼ばれている。大唐米は長粒でインディカ系、他は短粒でジャポニカ系の特徴を示す。大唐米には芒がないが、他の種類には全てかなり長い芒がある。芒及び籾の色は種類によってかなり違いがみられる。玄米の色も種類によってさまざまであるが、いずれも赤みを帯びた着色がみられることから赤米と呼ばれているのであろう。

香り米はジャポニカ系で、香りを放つ点を除くと、芒が短く、籾及び玄米の形状、色ともに今日の栽培種に類似する。

なお、以上の赤米及び香り米はいずれも粳米である。

黒米のうち、中国西安の黒米はインディカ系の長粒で芒がない。玄米が暗灰紫色であること、また本種は糯米であることを除き、その特徴は前述の大唐米に類似する。したがって、本種は赤米の中の色の濃い種類として取り扱ってもよいと思われる。一方、談山神社の黒米も糯米であるが、本種はジャポニカ系の特徴を示し、玄米の色及び形状は今日栽培されているものとほとんど変わらない。ただ籾の色が暗褐灰色であるので黒米の呼び名がつけられている。

表 古代米の形質比較

| 種類 | 分げつ数 | 主稈の長さ (cm) | 穂長 (cm) | 1穂当たりの 籾数 | 芒の | | 籾の | | | 玄米の | | | | ** 脱粒性 | 粳と糯 の別 |
|------------------|------|---------------|------------|--------------|------------|-----------|------------|-----------|-----------|------------|-----------|-----------|---------------|-----------|-----------|
| | | | | | 長さ (cm) | 色* | 長さ (mm) | 幅 (mm) | 色* | 長さ (mm) | 幅 (mm) | 色* | 1000粒重 (g) | | |
| 大唐米 | 19.1 | 101.6 | 20.7 | 92.6 | 無 | — | 8.7 | 3.0 | 浅橙黄(2203) | 5.8 | 2.5 | 濃赤茶(1008) | 20.30 | ++++ | 粳 |
| 岡山県総社市 国司神社赤米 | 18.7 | 94.0 | 17.6 | 63.5 | 0.3~6.6 | 暗灰褐(0719) | 7.0 | 3.5 | 穂橙黄(2209) | 5.4 | 2.7 | 浅茶(1612) | 20.25 | +++ | 粳 |
| 対馬豆酸多久頭 神社赤米 | 15.2 | 99.5 | 18.6 | 83.9 | 0.8~7.5 | 灰茶(1617) | 6.4 | 3.3 | 暗黄(2211) | 4.9 | 2.9 | 浅茶(1612) | 18.50 | + | 粳 |
| 種子島赤米 | 14.5 | 92.6 | 14.7 | 51.7 | 0.2~5.7 | 灰紫(8915) | 6.9 | 3.3 | 灰茶(0718) | 4.8 | 2.8 | 暗黄(2211) | 18.75 | + | 粳 |
| 種子島 宝満神社赤米 | 14.1 | 93.5 | 18.1 | 95.4 | 0.3~5.2 | 穂橙黄(2209) | 6.8 | 3.7 | 淡緑黄(2702) | 5.1 | 2.8 | 暗緑黄(2912) | 18.50 | ++++ | 粳 |
| 香り米 | 11.1 | 100.6 | 20.3 | 116.0 | 0~1.5 | 茶(1613) | 6.2 | 3.0 | 浅黄茶(2209) | 4.7 | 2.8 | 淡黄緑(3102) | 17.50 | + | 粳 |
| 中国西安 黒米 | 8.8 | 48.8 | 21.4 | 145.3 | 無 | — | 7.9 | 3.0 | 暗黄(2211) | 6.1 | 2.5 | 暗灰紫(8618) | 18.85 | ++++ | 糯 |
| 談山神社 黒米 | 9.7 | 106.3 | 18.9 | 82.6 | 0.9~7.2 | 暗褐色(1618) | 7.1 | 8.5 | 暗褐灰(1618) | 5.3 | 2.8 | 黄白(2201) | 17.50 | + | 糯 |

1989年5月12日は種、6月16日田植え。株間及び条間ともに30cmとし、1本植えにした。

* ()内の数字は日本園芸植物標準色票(農林水産省編 財団法人日本色彩研究所発行 1984)のColor code No.

** +の数が多きものほど脱粒性が大。

大学構内の樹木の測定値

公文 勝・北川 尚史

1989年12月から1990年1月にかけて、大学構内の樹木の大きさ（高さ・太さ）を測定した。測定した樹木は1032本である。高さは釣竿型の測高器（逆目盛検測棒）を用いて測定した。また、樹幹の太さは胸高（約1.3m）の太さ（周囲の長さ）を巻尺で測定した。胸高直径はその値を円周率で割って求めた（小数点以下は切り捨てた）。樹幹が基部で分岐している場合は、それぞれについて測定した。株状になっている場合は、太い樹幹を3～4本、測定した。胸高直径が測定できないものでは、備考欄に記入した高さで測定した。

学内の大部分の樹木は測定したが、附属幼稚園、附属小学校養護学級の北側のフェンスに囲まれた部分は未測定である。また、ツツジやイヌツゲなどの灌木や、樹高が2m以下の低木は除外した。

本学が現在の高畑キャンパスに移転して以来、建物やグラウンドなどの新築、改築が相次ぎ、それに伴って、多くの樹木の伐採、移植、植樹が行われてきた。大学構内の建物の建築も一通り済み、今後は従来のような樹木の大規模な配置替えはないと思われる。したがって、以下の記録は今後、学内の樹木の生長を追跡する貴重な資料となるであろう。

A

| | 樹木名 | 樹高(m) | 胸高直径(cm) |
|---|-------------|-------|-------------|
| 1 | ヤナギ | 8.5 | 34 |
| 2 | エノキ | 10.5 | 27; 25 |
| 3 | クロマツ | 4.6 | 18 |
| 4 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.3 | 15;11; 7; 7 |
| 5 | クロマツ | 7.2 | 26 |
| 6 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.3 | 14;13;11;10 |
| 7 | クロマツ | 6.0 | 20 |
| 8 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.4 | 9;16;20;11 |

| | | | |
|----|-------------|------|-------------|
| 9 | クロマツ | 4.9 | 14 |
| 10 | サクラ(ソメイヨシノ) | 9.0 | 26;22;12 |
| 11 | クロマツ | 5.1 | 17 |
| 12 | サクラ(ソメイヨシノ) | 9.5 | 28;24;26 |
| 13 | クロマツ | 4.7 | 13; 15 |
| 14 | カイツカイブキ | 4.6 | 12 |
| 15 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.3 | 11;11;16;13 |
| 16 | クロマツ | 6.2 | 18 |
| 17 | クスノキ | 7.3 | 26; 28 |
| 18 | エノキ | 10.5 | 16;16;29; 9 |
| 19 | エノキ | 8.7 | 12 |
| 20 | エノキ | 8.4 | 18;15;15;10 |
| 21 | アラカシ | 8.8 | 25; 27 |
| 22 | スギ | 10.5 | 33 |
| 23 | マツ | 5.5 | 20 |
| 24 | スギ | 9.0 | 33 |
| 25 | クスギ | 22.0 | 70 |
| 26 | クスギ | | 58 |
| 27 | クスギ | | 37 |
| 28 | エノキ | | 63 |
| 29 | クスギ | | 43 |
| 30 | クスギ | | 41; 50 |
| 31 | クスギ | | 35; 38 |
| 32 | クスギ | 10.0 | 18 |
| 33 | クスギ | 12.0 | 10; 20 |
| 34 | クスギ | 15 | 23 |
| 35 | クスギ | 5.9 | 8 |
| 36 | クスギ | 12 | 14 |
| 37 | クスギ | 14 | 19 |
| 38 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.6 | 10; 12; 14 |
| 39 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.9 | 23; 11 |
| 40 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.4 | 16; 21 |
| 41 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.1 | 15; 14 |
| 42 | イロハカエデ | 5.6 | 25; 14 |
| 43 | ビワ | 5.4 | 15; 16 |
| 44 | カキ | 4.0 | 9; 6 |
| 46 | カイツカイブキ | 6.9 | 39 |
| 47 | カイツカイブキ | 7.2 | 40 |
| 48 | クスノキ | 7.8 | 26 |
| 49 | クスノキ | 5.7 | 13 |
| 50 | クスノキ | 6.4 | 15 |
| 51 | イチイガシ | 6.4 | 8 |

| | | | | | | | |
|-----|-------------|---------|--------------|-----|-------------|-----|---------------|
| 52 | イチイガシ | 4.8 | 9 | 118 | ヒマラヤスギ | 6.1 | 8 |
| 53 | サルスベリ | 5.2 | 15 ; 14 | 119 | ヒマラヤスギ | 5.5 | 9 |
| 54 | イチイガシ | 6.3 | 10 | 120 | ヒマラヤスギ | 7.0 | 9 |
| 55 | アラカシ | 5.0~6.3 | 24 ; 20 ; 19 | 121 | ナンキンハゼ | 7.7 | 13 |
| 56 | アラカシ | | | 122 | ナンキンハゼ | | 12 |
| 57 | アラカシ | | | 123 | ナンキンハゼ | | 13 |
| 58 | アラカシ | | | 124 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.6 | 25 |
| 59 | アラカシ | | | 125 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.9 | 32 ; 27 ; 36 |
| 60 | アラカシ | | | 126 | イロハカエデ | 4.9 | 10 ; 14 ; 20 |
| 61 | アラカシ | | | 127 | エノキ | 4.5 | 2 |
| 62 | アラカシ | | | 128 | ケヤキ | 5.4 | 8 |
| 63 | アラカシ | | | 129 | ケヤキ | 5.1 | 8 |
| 64 | アラカシ | | | 130 | ケヤキ | 4.8 | 8 ; 8 |
| 65 | ヒノキ | 4.5 | 9 | 131 | ケヤキ | 5.0 | 11 |
| 66 | スギ | 2.7~3.5 | 4 | 132 | ケヤキ | 4.3 | 7 ; 6 |
| 67 | スギ | | 9 | 133 | サクラ | 4.1 | 8 ; 6 ; 7 |
| 68 | スギ | | 11 | 134 | ケヤキ | 5.0 | 8 ; 4 |
| 69 | スギ | | 6 | 135 | クスノキ | 8.3 | 36 |
| 70 | スギ | | 8 | 136 | イロハカエデ | 3.9 | 10 |
| 71 | シダレザクラ | 4.1 | 5 | 137 | サクラ | 5.9 | 12 |
| 72 | ヒマラヤスギ | 9.5 | 36 | 138 | サクラ | 3.4 | 4 ; 3 |
| 73 | ヒマラヤスギ | | 32 | 139 | ウメ | 5.8 | 17 ; 14 |
| 74 | ヒマラヤスギ | | 43 | 140 | サクラ | | 6 ; 36 |
| 75 | ヒノキ | 8.0 | 29 | 141 | サクラ | 4.6 | 13;10;10;16 |
| 76 | メタセコイヤ | 7.0 | 53 | 142 | サクラ | 4.0 | 4 ; 6 |
| 77 | クロマツ | 7.3 | 15 | 143 | クロマツ | 5.5 | 33 |
| 78 | サクラ(ソメイヨシノ) | 9.0 | 25 ; 29 | 144 | サクラ | 4.0 | 4 |
| 79 | クロマツ | 5.9 | 17 | 145 | サクラ | 5.3 | 12 |
| 80 | マテバシイ | 6.1 | 11 ; 12 ; 9 | 146 | サクラ | 6.5 | 14 |
| 81 | コウヨウザン | 7.5 | 19 ; 18 | 147 | サクラ | 6.0 | 17;8;9;7 |
| 82 | ケヤキ | 6.7 | 54 | 148 | アラカシ | 8.0 | 15;29;17;11 |
| | | | | 149 | アラカシ | 8.5 | 12;15;17;13 |
| | | | | 150 | サクラ | 4.1 | 5 ; 4 |
| B | | | | 151 | イロハカエデ | 5.3 | 13 |
| 101 | カイツカイブキ | 4.0~5.0 | 21 | 152 | サクラ | 4.0 | 4 ; 3 |
| 102 | カイツカイブキ | | | 153 | サクラ | 4.9 | 10 |
| 103 | カイツカイブキ | | | 154 | クロマツ | 6.5 | 34 |
| 104 | カイツカイブキ | | | 155 | アラカシ | 4.8 | 8 ; 5 ; 6 ; 6 |
| 105 | カイツカイブキ | | | 156 | アラカシ | 7.9 | 11 ; 11 ; 12 |
| 106 | カイツカイブキ | | | 157 | サクラ | 6.7 | 24 ; 10 ; 13 |
| 107 | クスノキ | 4.8 | 12 | 158 | サクラ | 5.1 | 11 ; 9 |
| 108 | イチョウ | 6.8 | 8 | 159 | クロマツ | 5.6 | 20 |
| 109 | ケヤキ | 5.6 | 5 ; 6 ; 7 | 160 | サクラ | 5.2 | 8 ; 8 |
| 110 | ケヤキ | 3.2 | 8 | 161 | サクラ | 5.5 | 13 ; 16 |
| 111 | ケヤキ | 5.8 | 10 ; 9 | 162 | サクラ | 3.5 | 5 ; 4 |
| 112 | ケヤキ | 3.7 | 5 ; 5 | 163 | クロマツ | 4.2 | 12 |
| 113 | ネムノキ | 7.0 | 15 ; 15 | 164 | サクラ | 5.1 | ※16 ; 10 |
| 114 | ケヤキ | 7.0 | 9 ; 7 ; 6 | 165 | クスノキ | 5.1 | 20 |
| 115 | ケヤキ | 6.2 | 15 | 166 | クスノキ | 5.8 | 14-16 |
| 116 | ヒマラヤスギ | 6.5 | 8 | 167 | クロマツ | 7.1 | 26 |
| 117 | ヒマラヤスギ | 5.5 | 7 | | | | |

| | | | | | | | |
|-----|-------------|------|--------------|-----|-------------|-----|---------------|
| 168 | クロマツ | 3.9 | 14 | 218 | クスノキ | 3.2 | 4 |
| 169 | サクラ | 6.0 | 8 ; 6 ; 9 | 219 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.0 | 8 |
| 170 | サクラ | 5.8 | 8 ; 11 ; 8 | 220 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.0 | 7 ; 6 ; 6 |
| 171 | サクラ | 5.3 | 8 ; 4 ; 5 | 221 | サルスベリ | 4.5 | 7 |
| 172 | クロマツ | 5.3 | 20 | 222 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.8 | 8 ; 6 ; 9 ; 5 |
| 173 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.9 | 19;13;17;12 | 223 | イチョウ | 7.5 | 11 |
| 174 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.7 | 15; 9; 19; 9 | 224 | イチョウ | 6.2 | 16 |
| 175 | サクラ | 4.6 | 7 | 225 | イチョウ | 7.2 | 16 |
| 176 | サクラ | 5.3 | 8 | 226 | イチョウ | 8.3 | 14 |
| 177 | サクラ | 5.1 | 7 | 227 | イチョウ | 5.6 | 8 |
| 178 | サクラ | 4.9 | 6 | 228 | イロハカエデ | 3.5 | 7 |
| 179 | サクラ | 5.5 | 8 | 229 | イロハカエデ | 3.3 | 5 ; 4 |
| 180 | イチョウ | 7.1 | 20 | 230 | ヒマラヤスギ | 5.6 | 15 |
| 181 | イチョウ | 6.6 | 13 | 231 | ヒマラヤスギ | 5.6 | 20 |
| 182 | イチョウ | 6.0 | 13 | 232 | ヒマラヤスギ | 4.9 | 13 |
| 183 | イチョウ | 5.5 | 9 ; 5 | 233 | ヒマラヤスギ | 5.6 | 19 |
| 184 | クスノキ | 5.7 | 12 ; 15 ; 9 | 234 | ヒマラヤスギ | 4.2 | 13 |
| 185 | イチョウ | 4.9 | 11 | 235 | ヒマラヤスギ | 4.8 | 13 |
| 186 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.2 | 15 ; 11 ; 20 | 236 | ヒマラヤスギ | 4.6 | 14 |
| 187 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.9 | 8 ; 13 ; 15 | 237 | シラカシ | 5.5 | 8 |
| 188 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.4 | 38 | 238 | シラカシ | 5.5 | 7 |
| 189 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.6 | 15 ; 12 ; 13 | 239 | シラカシ | 4.8 | 7 |
| 190 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.6 | 6 ; 3 | 240 | ウバメガシ | 5.0 | 6 |
| 191 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.4 | 9 | 241 | ウバメガシ | 4.3 | 7 |
| 192 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.0 | 8 ; 8 ; 9 | 242 | ウバメガシ | 4.5 | 6 |
| 193 | シモクレン | 3.8 | 4 | 243 | アラカシ | 4.6 | 7 |
| 194 | モッコク | 2.8 | 4 | 244 | アラカシ | 4.9 | 7 |
| 195 | コブシ | 4.1 | 7 | 245 | アラカシ | 4.2 | 6 ; 5 |
| 196 | シラカシ | 4.1 | 5 | 246 | ケヤキ | 7.8 | 13 |
| 197 | クスノキ | 5.8 | 8 | 247 | クスノキ | 6.0 | 11 |
| 198 | ハナミズキ | 4.6 | 5 | 248 | ケヤキ | 6.5 | 13 |
| 199 | サルスベリ | 4.8 | 7 | 249 | ケヤキ | 7.3 | 15 |
| 200 | クロガネモチ | 3.4 | 6 | 250 | クスノキ | 6.9 | 6 ; 8 |
| 201 | クスノキ | 4.2 | 3 | 251 | ユリノキ | 5.8 | 7 ; 5 |
| 202 | クスノキ | 4.1 | 4 | 252 | ユリノキ | 3.7 | 3 |
| 203 | クスノキ | 4.3 | 4 | 253 | ユリノキ | 4.2 | 6 |
| 204 | クスノキ | 4.6 | 5 | 254 | ユリノキ | 4.5 | 6 |
| 205 | ナラノヤエザクラ | 4.1 | 8 | 255 | ユリノキ | 4.9 | 6 |
| 206 | ナラノヤエザクラ | 4.1 | 5 | 256 | ユリノキ | 4.6 | 6 |
| 207 | ナラノヤエザクラ | 4.3 | 6 | 257 | ユリノキ | 5.2 | 7 |
| 208 | サクラ | 4.1 | 7 ; 6 | 258 | クロマツ | 4.1 | 9 |
| 209 | ボブラ | 17.0 | 30 ; 17 | 259 | クロマツ | 4.8 | 11 |
| 210 | ボブラ | 19.0 | 27 ; 34 | 260 | クロマツ | 5.0 | 14 |
| 211 | ボブラ | 17.0 | 29 | 261 | クロマツ | 4.2 | 13 |
| 212 | ボブラ | 17.0 | 25 | 262 | クロマツ | 4.2 | 10 |
| 213 | ボブラ | 18.0 | 37 | 263 | アラカシ | 4.0 | 8 |
| 214 | ナンキンハゼ | 8.4 | 10 ; 6 | 264 | アラカシ | 5.2 | 8 |
| 215 | ベニシダレザクラ | 3.7 | 5 | 265 | サルスベリ | 4.4 | 7 |
| 216 | ベニシダレザクラ | 4.6 | 5 | 266 | ナラノヤエザクラ | 4.3 | 6 |
| 217 | クスノキ | 3.4 | 4 ; 3 | 267 | ナラノヤエザクラ | 4.1 | 4 ; 4 |

| | | | | | | | |
|-----|----------|-----|-------|-----|-------------|------|---------------|
| 268 | ナラノヤエザクラ | 4.6 | 7 | 318 | クロマツ | 5.9 | 13 |
| 269 | ナラノヤエザクラ | 4.1 | 8 | 319 | クロマツ | 5.0 | 16 |
| 270 | ナラノヤエザクラ | 4.1 | 7 | 320 | クロマツ | 5.1 | 18 |
| 271 | ナラノヤエザクラ | 4.6 | 6 | 321 | クロマツ | 4.8 | 16 |
| 272 | ナラノヤエザクラ | 3.8 | 6 | 322 | クロマツ | 4.0 | 11 |
| 273 | ナラノヤエザクラ | 4.2 | 5 | 323 | サクラ | 7.1 | 13 ; 11 ; 10 |
| 274 | ナラノヤエザクラ | 4.2 | 5 | 324 | イロハカエデ | 3.2 | 11 ; 9 |
| 275 | ナラノヤエザクラ | 3.7 | 4 | 325 | イヌマキ | 5.6 | 18 |
| 276 | ナラノヤエザクラ | 4.2 | 7 ; 4 | 326 | シイノキ (スダジイ) | 7.7 | 55 |
| 277 | ナラノヤエザクラ | 4.3 | 7 ; 4 | 327 | シイノキ (スダジイ) | 7.9 | 47 |
| 278 | ナラノヤエザクラ | 5.3 | 9 | 328 | シイノキ (スダジイ) | 8.0 | 43 |
| 279 | カイヅカイブキ | 7.1 | 16 | 329 | ナンキンハゼ | 9.5 | 21 ; 22 |
| 280 | クロマツ | 5.9 | 17 | 330 | ナンキンハゼ | 9.9 | 23 |
| 281 | ヒマラヤスギ | 9.0 | 21 | 331 | ナンキンハゼ | 10.0 | 30 |
| 282 | ヒマラヤスギ | 8.5 | 21 | 332 | ナンキンハゼ | 7.3 | 18 |
| 283 | ヒマラヤスギ | 8.5 | 21 | 333 | アキニレ | 7.5 | 24 ; 20 |
| 284 | フウ | 5.6 | 15 | 334 | アキニレ | 8.0 | 29 |
| 285 | タイサンボク | 5.1 | 7 | 335 | アラカシ | 7.9 | 15 ; 14 ; 17 |
| 286 | フウ | 5.3 | 10 | 336 | シラカシ | 6.0 | 29 |
| 287 | クロマツ | 4.8 | 20 | 337 | シラカシ | 5.6 | 23 |
| 288 | ヒメコブシ | 4.4 | 8 ; 5 | 338 | アラカシ | 4.9 | 9 ; 11 |
| 289 | ナラノヤエザクラ | 5.0 | 7 ; 6 | 339 | アラカシ | 4.5 | 22 |
| 290 | クロマツ | 5.1 | 13 | 340 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.3 | 11;13;9;11 |
| 291 | クスノキ | 6.1 | 24 | 341 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.0 | 17 ; 8 |
| 292 | オガタマノキ | 6.3 | 10 | 342 | クロマツ | 4.6 | 15 |
| 293 | ナシ | 4.6 | 4 | 343 | クロマツ | 3.9 | 16 |
| 294 | ナシ | 5.4 | 5 | 344 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.7 | 9 ; 17 |
| 295 | スモモ | 5.8 | 9 ; 7 | 345 | クロマツ | 5.3 | 13 |
| 296 | スモモ | 5.6 | 7 | 346 | クロマツ | 7.4 | 26 |
| 297 | アンズ | 5.8 | 9 | 347 | ヒマラヤスギ | 15.0 | 40 |
| 298 | モモ | 3.2 | 6 | 348 | コノテガシワ | 6.7 | 15 |
| 299 | カツラ | 9.1 | 23 | 349 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.0 | 9 ; 9 -13; 9 |
| 300 | イロハカエデ | 5.5 | ※27 | 350 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.1 | 15 ; 10 ; 9 |
| 301 | エノキ | 8.5 | 35 | 351 | クロマツ | 5.6 | 21 |
| 302 | ヤマザクラ | 4.5 | 34 | 352 | クロマツ | 4.8 | 17 |
| 303 | カイヅカイブキ | 7.5 | 13 | 353 | クロマツ | 3.2 | 13 |
| 304 | カイヅカイブキ | 7.0 | 13 | 354 | クロマツ | 3.4 | 13 |
| 305 | カイヅカイブキ | 7.0 | 13 | 355 | クロマツ | 5.6 | 24 |
| 306 | クロマツ | 4.0 | 10 | 356 | クロマツ | 3.8 | ※12 ; 8 |
| 307 | クロマツ | 4.8 | 12 | 357 | クロマツ | 3.5 | 13 |
| 308 | クロマツ | 5.1 | 11 | 358 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.4 | 27 ; 13 ; 9 |
| 309 | クロマツ | 6.8 | 22 | 359 | クロマツ | 3.8 | 16 |
| 310 | クロマツ | 6.6 | 20 | 360 | クロマツ | 5.2 | 20 |
| 311 | クロマツ | 3.4 | 9 | 361 | クロマツ | 4.8 | 11 |
| 312 | クロマツ | 6.0 | 13 | 362 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.8 | 13; 6 ; 6 ; 4 |
| 313 | クロマツ | 4.8 | 13 | 363 | クロマツ | 4.6 | 16 |
| 314 | クロマツ | 4.8 | 17 | 364 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.0 | 12 ; 8 |
| 315 | クロマツ | 5.2 | 15 | 365 | クロマツ | 3.8 | 17 |
| 316 | クロマツ | 4.9 | 26 | 366 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.3 | 14;18;16; 8 |
| 317 | クロマツ | 7.9 | 14 | 367 | クロマツ | 6.3 | 29 |

| | | | | | | | |
|-----|-----------|-----------|--------------|-----|-------------|------|--------------|
| 368 | クロマツ | 5.2 | 16 | 439 | ヒマラヤスギ | | 28 |
| 369 | クロマツ | 7.2 | 29 | 440 | ヒマラヤスギ | | 25 |
| 370 | クロマツ | 6.3 | 23 | 441 | ヒマラヤスギ | | 22 |
| 371 | クロマツ | 2.9 | 18 | 442 | ヒマラヤスギ | | 38 |
| 372 | トウカエデ | 7.9 | 7 ; 7 | 443 | サクラ | 7.2 | 11 ; 20-19 |
| 373 | ユズリハ | 4.6 | 4 ; 3 | 444 | クロマツ | 4.9 | 10 |
| 374 | トウカエデ | 7.3 | 11 | 445 | サクラ | 10.5 | 31 |
| 375 | トエカエデ | 6.9 | 8 | 446 | クロマツ | 4.6 | 12 |
| 376 | ユリノキ | 13.0 | 20 | 447 | サクラ | 7.7 | 15 ; 16 ; 8 |
| 377 | フウ | 9.1 | 10 | 448 | クロマツ | 5.3 | 13 |
| C | | | | 449 | サクラ | 7.6 | 23 ; 27 |
| 401 | ヒマラヤスギ | 8.5 | 33 | 450 | スギ | 7.6 | 34 |
| 402 | ヒマラヤスギ | 8.5 | 40 | 451 | ヒマラヤスギ | 9.5 | 50 |
| 403 | イヌマキ | 3.9 | 9 | 452 | メタセコイヤ | 9.0 | 38 |
| 404 | クロガネモチ | 5.9 | 17 | 453 | メタセコイヤ | 9.0 | 42 |
| 405 | ビワ | 4.8 | 18 | 454 | メタセコイヤ | 6.1 | 26 |
| 406 | クロマツ | 4.8 | 13 | 455 | メタセコイヤ | 9.0 | 34 |
| 407 | クロマツ | 10.0 | 33 | 456 | メタセコイヤ | 6.1 | 25 |
| 408 | トウネズミモチ | 6.2 | 9-12-13;11 | 457 | サクラ | 6.9 | 13;12;12;12 |
| 409 | クロマツ | 6.9 | 21 | 458 | メタセコイヤ | 9.0 | 29 |
| 410 | ウンリリュウヤナギ | 4.4 | 14 | 459 | テーダマツ | 8.2 | 26 |
| 411 | カキ | 5.2 | 15 | 460 | メタセコイヤ | 8.5 | 27 |
| 412 | カキ | 5.1 | 11 | 461 | テーダマツ | 9.8 | 22 |
| 413 | クロマツ | 5.8 | 19 | 462 | サクラ | 4.8 | 10 |
| 414 | サルズベリ | 7.4 | 15 ; 9 | 463 | アラカシ (群) | 14.0 | 31 ; 31 |
| 415 | クロマツ | 4.0 | 14 | 464 | ナンキンハゼ | 5.6 | 9 |
| 416 | クロマツ | 5.3 | 24 | 465 | ケヤキ | 6.3 | 13 |
| 417 | ナラノヤエザクラ | 4.8 | 14 | 466 | ナンキンハゼ | 5.5 | 10 |
| 418 | ナラノヤエザクラ | 4.5 | 24 | 467 | ケヤキ | 7.5 | 11 |
| 419 | ムクノキ | 9.0 | 32 ; 16 | 468 | ナンキンハゼ | 6.5 | 14 |
| 420 | カスミザクラ | 5.5 | 21 | 469 | ケヤキ | 6.3 | 11 |
| 421 | クロマツ | 5.4 | 18 | 470 | ボブラ | 12.0 | 29 |
| 422 | ヒマラヤスギ | 7.4 | 33 | 471 | エノキ | 7.2 | 18;11;10;9 |
| 423 | ヒマラヤスギ | 6.0 | 26 | 472 | エノキ | 4.2 | 7 |
| 424 | メタセコイヤ | 10.0 | 44 | 473 | エノキ | 10.0 | 14 |
| 425 | メタセコイヤ | 10.0 | 43 | 474 | エノキ | 7.8 | 15 |
| 426 | トウネズミモチ | 6.5 | 14 ; 13 ; 14 | 475 | エノキ | 7.9 | 20 |
| 427 | テーダマツ | 12.0~13.0 | 19 | 476 | エノキ | 9.0 | 16 |
| 428 | テーダマテ | | 23 | 477 | エノキ | 10.5 | 20 |
| 429 | テーダマツ | | 28 | 478 | エノキ | 11.0 | 34 |
| 430 | テーダマツ | | 30 | 479 | エノキ | 12.5 | 21 |
| 431 | テーダマツ | | 26 | 480 | ムクノキ | 12.0 | 19 ; 21 |
| 432 | テーダマツ | | 17 | 481 | ボブラ | 15.0 | 46 |
| 433 | テーダマツ | | 37 | 482 | ヒマラヤスギ | 7.1 | 25 |
| 434 | ムクノキ | 6.2 | 13 ; 15 | 483 | ヒマラヤスギ | 7.2 | 22 |
| 435 | ヒマラヤスギ | 7.2 | 27 | 484 | ヒマラヤスギ | 6.9 | 26 |
| 436 | ヒマラヤスギ | | 24 | 485 | アラカシ | 5.3 | 12 ; 12 ; 13 |
| 437 | ヒマラヤスギ | | 32 | 486 | ナラノヤエザクラ | 4.9 | 6 ; 7 |
| 438 | ヒマラヤスギ | | 32 | 487 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.5 | 9 |
| | | | | 488 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.5 | 12 ; 16 |

| | | | |
|-----|-------------|-----|-------------|
| 489 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.4 | 7 |
| 490 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.8 | 18;14;15; 8 |
| 491 | カイヅカイブキ | 6.4 | 22; 9;10; 9 |
| 492 | クロマツ | 4.4 | 15 |

D

| | | | |
|-----|----------|-----|-------------|
| 501 | イロハカエデ | 6.1 | 28;10;23;18 |
| 502 | クロマツ | 4.3 | 17 |
| 503 | イロハカエデ | 5.4 | 22 |
| 504 | クロマツ | 4.7 | 30 |
| 505 | クロマツ | 5.8 | 30 |
| 506 | クロマツ | 4.1 | 12 |
| 507 | クロマツ | 5.5 | 29 |
| 508 | ナラノヤエザクラ | 2.2 | 5 ; 3 |
| 509 | ナラノヤエザクラ | 2.0 | 7 |
| 510 | ナラノヤエザクラ | 3.1 | 4 ; 3 |
| 511 | ナラノヤエザクラ | 2.7 | 5 ; 3 |
| 512 | ナラノヤエザクラ | 2.8 | 6 ; 3 |
| 513 | ナラノヤエザクラ | 4.0 | 5 ; 5 |
| 514 | クスノキ | 5.5 | 20 |
| 515 | サクラ | 4.1 | 10 |
| 516 | トウネズミモチ | 5.9 | 16 |
| 517 | ウメ | 3.7 | 13 ; 8 |
| 518 | サクラ | 4.9 | 9 ; 9 |
| 519 | サクラ | 6.2 | 12 ; 12 |
| 520 | クロマツ | 6.5 | 22 |
| 521 | クロマツ | 6.5 | 22 ; 24 |
| 522 | サクラ | 5.2 | 7 ; 7 ; 10 |
| 523 | クロマツ | 6.6 | 30 |
| 524 | クロマツ | 6.3 | 19 |
| 525 | クロマツ | 5.2 | 14 |
| 526 | クロマツ | 4.1 | 13 |
| 527 | クロマツ | 6.1 | 30 |
| 528 | クロマツ | 6.9 | 17 |
| 529 | クロマツ | 5.2 | 17 |
| 530 | クロマツ | 7.3 | 28 |
| 531 | クロマツ | 7.2 | 18 |
| 532 | クロマツ | 6.3 | 26 |
| 533 | クロマツ | 6.4 | 17 |
| 534 | クロマツ | 5.3 | 18 |
| 535 | イロハカエデ | 5.4 | 14 ; 18 |
| 536 | イロハカエデ | 4.0 | 6;6;6;6 |
| 537 | サクラ | 4.4 | 4 ; 6 |
| 538 | クロマツ | 9.7 | 31 |
| 539 | イロハカエデ | 2.7 | 4 ; 2 |
| 540 | クロマツ | 9.0 | 35 |
| 541 | クロマツ | 4.9 | 15 |
| 542 | サクラ | 5.1 | 8 |
| 543 | サクラ | 5.0 | 9 ; 8 |
| 544 | クロマツ | 7.2 | 22 |

| | | | |
|-----|-------------|-----|-------------|
| 545 | クロマツ | 7.6 | 16 |
| 546 | アカマツ | 7.0 | 28 |
| 547 | サクラ | 5.2 | 9;11;10;9 |
| 548 | クロマツ | 5.8 | 15 |
| 549 | クロマツ | 6.0 | 23 |
| 550 | サクラ | 4.9 | 8 ; 8 |
| 551 | クロマツ | 4.7 | 16 |
| 552 | サクラ | 5.1 | 12 ; 7 ; 11 |
| 553 | クロマツ | 4.7 | 12 |
| 554 | クロマツ | 3.7 | 13 |
| 555 | サクラ | 6.6 | 9;12;12;14 |
| 556 | クロマツ | 4.9 | 15 |
| 557 | イロハカエデ | 4.2 | 9 ; 9 |
| 558 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.3 | 8;8;7;8 |
| 559 | ナンキンハゼ | 3.9 | 7 |
| 560 | ケヤキ | 7.0 | 10 ; 4 |
| 561 | ナンキンハゼ | 6.0 | 15 |
| 562 | ケヤキ | 6.7 | 10 ; 5 |
| 563 | ナンキンハゼ | 5.1 | 10 |
| 564 | ケヤキ | 6.7 | 12 |
| 565 | ナンキンハゼ | 4.6 | 9 |
| 566 | ケヤキ | 7.4 | 12 |
| 567 | ナンキンハゼ | 5.9 | 13 |
| 568 | ケヤキ | 7.1 | 11 |
| 569 | ナンキンハゼ | 5.7 | 10 |
| 570 | ケヤキ | 8.5 | 12 |
| 571 | ナンキンハゼ | 6.0 | 10 |
| 572 | ケヤキ | 7.1 | 14 |
| 573 | ナンキンハゼ | 5.2 | 10 |
| 574 | ケヤキ | 7.4 | 12 |
| 575 | ナンキンハゼ | 5.1 | 11 |
| 576 | ケヤキ | 7.0 | 11 |
| 577 | ナンキンハゼ | 6.5 | 14 |
| 578 | キリ | 6.3 | 23 |
| 579 | ケヤキ | 7.6 | 13 |
| 580 | ナンキンハゼ | 7.0 | 13 |
| 581 | ケヤキ | 6.9 | 11 |
| 582 | ナンキンハゼ | 4.8 | 10 |
| 583 | ケヤキ | 7.5 | 11 |
| 584 | ナンキンハゼ | 4.9 | 10 |
| 585 | ケヤキ | 6.6 | 11 |
| 586 | ナンキンハゼ | 5.9 | 8 |
| 587 | ケヤキ | 7.4 | 12 ; 4 |

E

| | | | |
|-----|--------|-----|--------|
| 601 | クスノキ | 4.7 | 18 |
| 602 | クスノキ | 6.9 | 8 ; 21 |
| 603 | イロハカエデ | 5.6 | 32 |
| 604 | クロマツ | 6.3 | 25 |
| 605 | イロハカエデ | 6.2 | 38 |

| | | | | | | | |
|-----|-------------|------|-----------------------------|-----|-------------|------|--------------|
| 606 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.1 | 38 ; 29 ; ²⁾ ※52 | 656 | スギ | 8.5 | 20 |
| 607 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.9 | 20;13;27;34 | 657 | スギ | 7.8 | 13 |
| 608 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.4 | 14;11;27;34 | 658 | スギ | 7.3 | 12 |
| 609 | イロハカエデ | 6.3 | 35 | 659 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.8 | 19 ; 12 |
| 610 | イロハカエデ | 6.7 | 18;14;22;11 | 660 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.8 | 36 ; 50 |
| 611 | イロハカエデ | 6.1 | 15 ; 16 | 661 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.4 | 19 ; 26 ; 13 |
| 612 | クロマツ | 9.0 | 30 | 662 | サクラ(ソメイヨシノ) | 8.2 | 24 ; 21 ; 21 |
| 613 | イロハカエデ | 5.9 | 16 ; 17 ; 11 | 663 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.3 | 14 ; 35 ; 21 |
| 614 | クロマツ | 8.0 | 43 | 664 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.1 | 20 ; 9 ; 10 |
| 615 | クロマツ | 10.0 | 30 | 665 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.9 | 10 ; 8 ; 8 |
| 616 | クロマツ | 8.5 | 27 | 666 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.6 | 10 ; 8 |
| 617 | イロハカエデ | 8.6 | 24 ; 15 | 667 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.8 | 16 |
| 618 | クロマツ | 8.0 | 21 ; 17 ; 12 | 668 | サクラ(ソメイヨシノ) | 3.8 | 16 |
| 619 | イロハカエデ | 6.0 | 11;10;40;15 | 669 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.5 | 16 ; 14 |
| 620 | スギ | 8.5 | 15 | 670 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.4 | 12 ; 17 ; 8 |
| 621 | スギ | 10.5 | 21 | 671 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.5 | 10 ; 24 |
| 622 | スギ | 9.0 | 18 | 672 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.7 | 23 ; 6 |
| 623 | スギ | 8.0 | 18 | 673 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.1 | 18 |
| 624 | スギ | 10.0 | 19 | 674 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.5 | 25 ; 25 ; 13 |
| 625 | スギ | 8.5 | 30 | 675 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.6 | 17 ; 35 |
| 626 | スギ | 8.0 | 40 | 676 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.8 | 31 ; 14 |
| 627 | スギ | 8.0 | 20 | 677 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.4 | 16;12;10;12 |
| 628 | スギ | 9.0 | 22 | 678 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.4 | 19;12;11;12 |
| 629 | スギ | 9.5 | 24 | 679 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.3 | 15 ; 12 |
| 630 | スギ | 9.2 | 18 | 680 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.5 | 15 ; 16 ; 12 |
| 631 | スギ | 8.3 | 12 | 681 | スギ | 11.0 | 23 |
| 632 | スギ | 8.3 | 15 | 682 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.0 | 13 ; 11 ; 6 |
| 633 | スギ | 6.0 | 12 | 683 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.8 | 18 ; 23 |
| 634 | スギ | 9.5 | 21 | 684 | スギ | 11.5 | 29 |
| 635 | スギ | 8.5 | 17 | 685 | スギ | 11.0 | 26 |
| 636 | スギ | 9.5 | 19 | 686 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.3 | 18 |
| 637 | スギ | 10.0 | 19 | 687 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.1 | 14;8;8;17 |
| 638 | スギ | 9.0 | 16 | 688 | スギ | 11.1 | 22 |
| 639 | スギ | 9.5 | 21 | 689 | サクラ(ソメイヨシノ) | 2.7 | 3 ; 3 ; 3 |
| 640 | スギ | 8.8 | 17 | 690 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.1 | 12 ; 7 ; 9 |
| 641 | スギ | 9.3 | 20 | 691 | スギ | 8.2 | 18 |
| 642 | スギ | 9.8 | 18 | 692 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.4 | 31 ; 22 |
| 643 | スギ | 8.5 | 18 | 693 | スギ | 6.7 | 12 |
| 644 | スギ | 8.5 | 14 | 694 | スギ | 11.5 | 30 |
| 645 | スギ | 10.5 | 22 | 695 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.7 | 13 |
| 646 | スギ | 8.5 | 10 | 696 | スギ | 9.5 | 9 |
| 647 | スギ | 9.0 | 18 | 697 | スギ | 8.0 | 11 |
| 648 | スギ | 8.0 | 21 | 698 | スギ | 9.5 | 11 |
| 649 | スギ | 9.0 | 20 | 699 | スギ | 10.0 | 15 |
| 650 | スギ | 8.7 | 17 | 700 | スギ | 10.5 | 18 |
| 651 | スギ | 8.5 | 16 | 701 | スギ | 8.0 | 10 |
| 652 | スギ | 9.0 | 21 | 702 | スギ | 9.0 | 17 |
| 653 | スギ | 10.5 | 23 | 703 | コウヨウザン | 7.5 | 12;10;14;13 |
| 654 | スギ | 10.0 | 29 | 704 | ヤナギ | 9.5 | 23 |
| 655 | スギ | 9.0 | 20 | 705 | ヤナギ | 9.3 | 22 |

| | | | | | | | |
|-----|-----------|------|--------------|-----|--------------|------|-------------------|
| 706 | エノキ | 12.0 | 43 ; 31 ; 19 | 756 | スギ | 10.5 | 19 |
| 707 | トネリコ | 10.5 | 20 | 757 | ヒノキ | 11.5 | 23 |
| 708 | ヤナギ | 7.0 | 10 ; 21 | 758 | サザンカ | 8.0 | 12 ; 11 |
| 709 | クロマツ | 3.1 | 13 | 759 | イロハカエデ | 7.8 | 25 |
| 710 | クロマツ | 2.8 | 11 | 760 | ヒノキ | 11.0 | 18 |
| 711 | クロマツ | 5.5 | 15 | 761 | クロマツ | 12.0 | 25 |
| 712 | キンモクセイ | 4.8 | 9 ; 12 ; 12 | 762 | ヒノキ | 10.5 | 20 |
| 713 | アラカシ | 5.0 | 10;12;9;11 | 763 | クロマツ | 11.0 | 22 |
| 714 | コノテガシワ | 8.3 | 22 | 764 | スギ | 8.0 | 23 |
| 715 | モミ | 6.5 | 17 | 765 | スギ | 11.5 | 17 |
| 716 | イロハカエデ | 2.0 | 6 | 766 | クスノキ | 7.7 | 12 ; 9 |
| 717 | イロハカエデ | 3.4 | 8 | 767 | エノキ | 8.0 | 9 |
| 718 | アオギリ | 5.6 | 15 | 768 | クスノキ | 9.0 | 19;14;20;10 |
| 719 | イロハカエデ | 5.5 | 32 | 769 | エノキ | 13.0 | 56 |
| 720 | イロハカエデ | 3.6 | 23 | 770 | センダン | 7.3 | 19 |
| 721 | イロハカエデ | 5.2 | 10;15;13;8 | 771 | エノキ | 12.0 | 39 |
| 722 | サクラ | 4.8 | 8 ; 8 | 772 | イヌマキ | 8.0 | 15 ; 12 |
| 723 | イチョウ | 7.4 | 20 | 773 | クロガネモチ | 8.3 | 48 |
| 724 | サクラ | 6.4 | 16;13;16;14 | 774 | イロハカエデ | 5.2 | 11;15;10;11 |
| 725 | イチョウ | 6.0 | 21 | 775 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.3 | 19 ; 12 |
| 726 | サクラ | 4.7 | 6 ; 7 ; 4 | 776 | ボブラ | 18.0 | 63 |
| 727 | コノテガシワ | 6.7 | 20 | 777 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.8 | ²⁾ ※44 |
| 728 | サクラ | 5.6 | 8 ; 11 ; 18 | 778 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.6 | 34 ; 32 |
| 729 | クロマツ | 5.3 | 19 | 779 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.8 | 26 |
| 730 | アメリカキキサザゲ | 5.1 | 16 | 780 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.1 | 16 |
| 731 | サクラ | 6.2 | 19 ; 15 ; 16 | 781 | サクラ (ソメイヨシノ) | 6.5 | 24 ; 16 |
| 732 | アキニレ | 11.0 | 25 ; 44 | 782 | サクラ (ソメイヨシノ) | 7.8 | 17 ; 22 |
| 733 | サクラ | 4.4 | 10;10;10;9 | 783 | サクラ (ソメイヨシノ) | 8.5 | 20 ; 20 ; 17 |
| 734 | サクラ | 5.5 | 15 ; 13 ; 12 | 784 | サクラ (ソメイヨシノ) | 9.5 | 14 ; 29 |
| 735 | サクラ | 6.3 | 11 | 785 | イロハカエデ | 6.0 | 11 ; 17 |
| 736 | イロハカエデ | 4.5 | 15 ; 15 ; 13 | 786 | サクラ (ソメイヨシノ) | 8.5 | 27 |
| 737 | サクラ | 3.7 | 7 ; 5 ; 4 | 787 | サクラ (ソメイヨシノ) | 7.5 | 30 |
| 738 | ボブラ | 6.6 | 12 | 788 | サクラ (ソメイヨシノ) | 7.6 | 19 ; 16 |
| 739 | イロハカエデ | 5.0 | 18 ; 24 | 789 | サクラ (ソメイヨシノ) | 8.0 | 43;23;31;26 |
| 740 | ボブラ | 5.7 | 18 | 790 | スギ | 12.0 | 30 |
| 741 | ボブラ | 4.8 | 22 | 791 | スギ | 11.0 | 29 |
| 742 | クロマツ | 7.9 | 25 ; 21 | 792 | スギ | 12.0 | 42 |
| 743 | イロハカエデ | 8.1 | 17 ; 13 ; 9 | 793 | スギ | 9.0 | ²⁾ ※28 |
| 744 | スギ | 5.2 | 6 | 794 | スギ | 12.0 | 29 |
| 745 | スギ | 6.5 | 7 | 795 | スギ | 7.0 | 22 |
| 746 | スギ | 9.5 | 13 | 796 | スギ | 13.0 | 25 |
| 747 | スギ | 6.5 | 10 | 797 | スギ | 12.0 | 24 |
| 748 | スギ | 5.3 | 7 | | | | |
| 749 | スギ | 8.9 | 13 | | | | |
| 750 | スギ | 10.0 | 13 | F | | | |
| 751 | スギ | 7.0 | 10 | 801 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.0 | 12 ; 8 |
| 752 | スギ | 8.7 | 10 | 802 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.2 | 21 ; 13 ; 10 |
| 753 | スギ | 9.5 | 14 | 803 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.5 | 10 ; 8 |
| 754 | ビャクシン | 8.0 | 35 | 804 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.1 | 10 ; 6 |
| 755 | クロガネモチ | 8.0 | 16 | 805 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.3 | 8 ; 13 |
| | | | | 806 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.5 | 15 ; 11 |

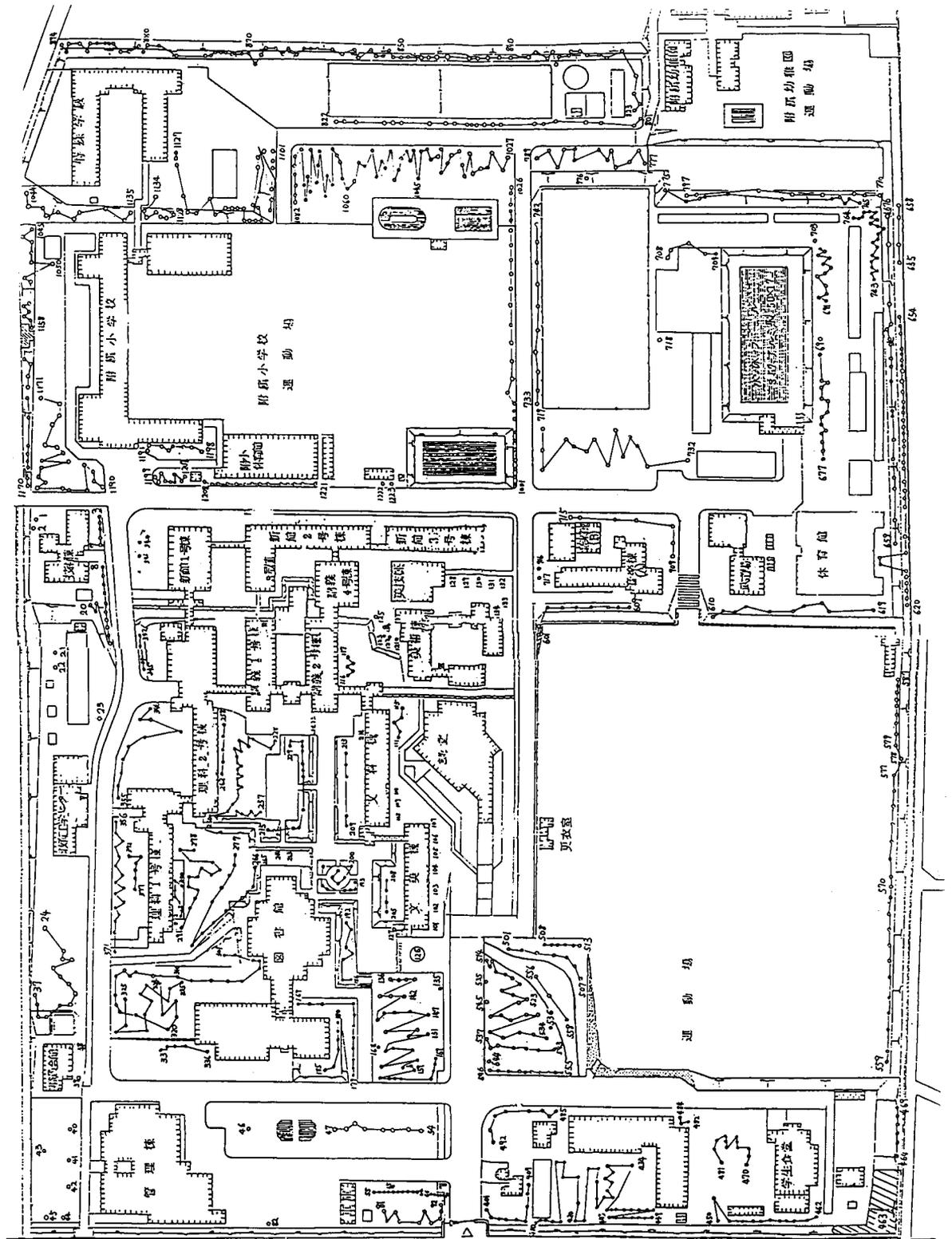
| | | | | | | | |
|-----|-------------|-----|--------------|------|------------|------|--------------|
| 807 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.8 | 12 ; 12 ; 9 | 857 | スギ | 9.7 | 36 |
| 808 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.1 | 13 ; 15 | 858 | ヒノキ | 11.0 | 32 |
| 809 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.0 | 16 ; 14 | 859 | スギ | 8.5 | 32 |
| 810 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.6 | 11 ; 8 | 860 | スギ | 7.1 | 22 |
| 811 | サクラ(ソメイヨシノ) | 3.5 | 12 | 861 | スギ | 7.8 | 27 |
| 812 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.5 | 10 | 862 | ヒノキ | 7.3 | 24 |
| 813 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.9 | 16 ; 7 | 863 | スギ | 8.7 | 33 |
| 814 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.6 | 8 ; 8 ; 5 | 864 | スギ | 7.0 | 22 |
| 815 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.9 | 15 ; 9 ; 5 | 865 | イロハカエデ | 4.0 | 6 ; 5 |
| 816 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.4 | 15 ; 10 ; 4 | 866 | スギ | 7.0 | 21 |
| 817 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.8 | 16 ; 8 ; 7 | 867 | スギ | 8.0 | 30 |
| 818 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.2 | 11;12;8;14 | 868 | クロガネモチ | 4.2 | 7 ; 8 ; 8 |
| 819 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.7 | 10 ; 11 ; 7 | 869 | アメリカスズカケノキ | 10.3 | 49 |
| 820 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.7 | 15 ; 15 | 870 | イロハカエデ | 3.5 | 7 ; 4 |
| 821 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.9 | 15 ; 14 | 871 | ヒノキ | 10.5 | 31 |
| 822 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.2 | 10 ; 10 | 872 | カキ | 5.1 | 7 |
| 823 | モッコク | 5.9 | 15 | 873 | イロハカエデ | 4.1 | 9 |
| 824 | アラカシ | 7.7 | 15;15;14;12 | 874 | クロガネモチ | 5.5 | 14 |
| 825 | イロハカエデ | 4.0 | 10 | 875 | スギ | 8.5 | 25 |
| 826 | カイヅカイブキ | 8.3 | 41 | 876 | イロハカエデ | 3.8 | 7 ; 5 ; 5 |
| 827 | ヒノキ | 7.9 | 31 | 877 | イロハカエデ | 3.4 | 7 |
| 828 | スギ | 7.1 | 14 | 878 | クスノキ | 8.5 | 31 ; 22 ; 21 |
| 829 | スギ | 7.0 | 19 | 879 | ヒノキ | 7.9 | 36 |
| 830 | スギ | 7.0 | 18 | 880 | ヒノキ | 8.5 | 27 |
| 831 | ヒノキ | 7.6 | 31 | 881 | スギ | 8.2 | 23 |
| 832 | ヒノキ | 8.7 | 35 | 882 | クロガネモチ | 4.3 | 9 |
| 833 | スギ | 7.2 | 19 | 883 | ヒノキ | 10.0 | 36 |
| 834 | ヒノキ | 9.5 | 29 | 884 | スギ | 9.8 | 23 |
| 835 | サクラ | 5.2 | 19 | 885 | ヒノキ | 10.2 | 29 |
| 836 | スギ | 7.6 | 28 | 886 | スギ | 9.4 | 25 |
| 837 | スギ | 5.2 | 25 | 887 | スギ | 9.6 | 28 |
| 838 | スギ | 6.9 | 25 | 888 | ヒノキ | 9.4 | 26 |
| 839 | スギ | 8.2 | 21 | 889 | ヒノキ | 9.0 | 27 |
| 840 | サクラ | 7.2 | 18 ; 18 ; 13 | 890 | クスノキ | 3.6 | 15 |
| 841 | サクラ | 8.6 | 20;16;9;9 | 891 | クスノキ | 6.7 | 25 |
| 842 | サクラ | 8.6 | 20 ; 15 ; 9 | 892 | スギ | 7.5 | 23 |
| 843 | サクラ | 8.1 | 25 ; 23 ; 13 | 893 | クスノキ | 6.7 | 26 |
| 844 | サクラ | 7.3 | 20 ; 9 ; 8 | 894 | スギ | 6.2 | 11 |
| 845 | サクラ | 8.5 | 21 ; 21 ; 8 | | | | |
| 846 | サクラ | 7.8 | 20 ; 15 ; 11 | | G | | |
| 847 | サクラ | 8.2 | 19 ; 12 ; 10 | 1001 | サクラ | 3.2 | 2 ; 2 |
| 848 | サクラ | 8.5 | 28 | 1002 | サクラ | 3.3 | 2 |
| 849 | サクラ | 8.7 | 21 ; 20 | 1003 | サクラ | 3.4 | 3 |
| 850 | サクラ | 8.7 | 27 | 1004 | サクラ | 3.8 | 3 |
| 851 | サクラ | 8.8 | 18;13;9;8 | 1005 | サクラ | 3.5 | 3 |
| 852 | ヒノキ | 9.0 | 32 | 1006 | サクラ | 3.1 | 4 |
| 853 | サクラ | 9.1 | 26;12;9;8 | 1007 | サクラ | 4.0 | 2 |
| 854 | サクラ | 7.7 | 26 | 1008 | サクラ | 3.6 | 3 |
| 855 | スギ | 7.3 | 20 | 1009 | サクラ | 3.7 | 3 |
| 856 | ヒノキ | 4.5 | 26 | 1010 | サクラ | 3.9 | 3 |

| | | | | | | | |
|------|-------------|------|---------------|------|-------------|------|--------------|
| 1011 | ニセアカシア | 14.0 | 24 ; 26 | 1061 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.4 | 8 ; 12 |
| 1012 | モミジバズカケノキ | 8.2 | 23 ; 28 | 1062 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.2 | 10 ; 6 ; 4 |
| 1013 | モミジバズカケノキ | 8.5 | 17 ; 19 | 1063 | サクラ(ソメイヨシノ) | 3.6 | 5 ; 3 |
| 1014 | モミジバズカケノキ | 4.3 | 6 ; 7 | 1064 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.3 | 16;14;8;5 |
| 1015 | モミジバズカケノキ | 7.0 | 19 ; 13 | 1065 | サクラ(ソメイヨシノ) | 3.9 | 8 ; 5 |
| 1016 | モミジバズカケノキ | 4.2 | 6 ; 6 | 1066 | サクラ | 4.7 | 10 |
| 1017 | モミジバズカケノキ | 7.5 | 19 ; 13 ; 12 | 1067 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.2 | 16 |
| 1018 | モミジバズカケノキ | 5.2 | 11 ; 15 | 1068 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.3 | 23 ; 19 ; 19 |
| 1019 | ニセアカシア | 11.5 | 26 | 1069 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.6 | 7 ; 4 ; 3 |
| 1020 | モミジバズカケノキ | 8.1 | 16 ; 16 ; 20 | 1070 | サクラ(ソメイヨシノ) | 8.8 | 14;13;13;5 |
| 1021 | モミジバズカケノキ | 7.0 | 16 ; 7 ; 6 | 1071 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.0 | 10 ; 6 ; 5 |
| 1022 | サクラ | 3.3 | 2 ; 1 | 1072 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.1 | 10 ; 10 |
| 1023 | サクラ | 4.6 | 3 | 1073 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.7 | 5 ; 4 ; 3 |
| 1024 | サクラ | 4.5 | 3 | 1074 | カンザクラ | 5.5 | 15 ; 14 |
| 1025 | サクラ | 4.5 | 3 | 1075 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.6 | 6;11;11;12 |
| 1026 | サクラ | 3.9 | 2 | 1076 | サクラ(ソメイヨシノ) | 3.9 | 11 ; 11 ; 8 |
| 1027 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.3 | 16 ; 21 | 1077 | サクラ(ソメイヨシノ) | 3.5 | 5 ; 4 ; 4 |
| 1028 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.1 | 19;18;18;16 | 1078 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.1 | 7 ; 7 ; 13 |
| 1029 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.9 | 41 | 1079 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.5 | 7;7;6;6 |
| 1030 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.8 | 50 | 1080 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.2 | 16 ; 13 ; 6 |
| 1031 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.7 | 18 | 1081 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.7 | 14;11;10;9 |
| 1032 | サクラ | 4.1 | 5 | 1082 | カンザクラ | 4.8 | 12;9;6;4 |
| 1033 | サクラ(ソメイヨシノ) | 8.7 | 35 ; 29 ; 27 | | | | |
| 1034 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.9 | 10 ; 10 | | H | | |
| 1035 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.6 | 18 ; 15 | 1101 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.6 | 15 ; 17 ; 35 |
| 1036 | サクラ(ソメイヨシノ) | 8.6 | 17 ; 16 ; 6 | 1102 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.2 | 7 ; 7 |
| 1037 | カイヅカイブキ | 8.6 | 13 ; 14 ; 17 | 1103 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.2 | 7 ; 8 ; 11 |
| 1038 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.7 | 14;13;11;11 | 1104 | カンザクラ | 6.5 | 7 ; 8 ; 11 |
| 1039 | サクラ | 4.8 | 8 ; 3 | 1105 | カンザクラ | 5.3 | 10 |
| 1040 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.4 | 23 ; 14 | 1106 | イロハカエデ | 4.4 | 8;6;5;4 |
| 1041 | カイヅカイブキ | 10.0 | 9 ; 27 | 1107 | カイヅカイブキ | 5.7 | 14 ; 11 ; 10 |
| 1042 | サクラ(ソメイヨシノ) | 9.1 | 18 ; 25 | 1108 | ケヤキ | 15.0 | 38 |
| 1043 | サクラ(ソメイヨシノ) | 8.6 | 19 ; 8 ; 8 | 1109 | ケヤキ | 15.0 | 53 |
| 1044 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.8 | 31 ; 29 ; ※48 | 1110 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.4 | 14 |
| 1045 | イロハカエデ | 3.1 | 6 ; 5 | 1111 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.5 | 11 ; 10 |
| 1046 | ヤエザクラ | 4.2 | 7 ; 8 | 1112 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.5 | 13 |
| 1047 | サクラ(ソメイヨシノ) | 8.1 | 47 | 1113 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.2 | 12 |
| 1048 | ヤエザクラ | 3.1 | 5 ; 4 | 1114 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.5 | 20 |
| 1049 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.6 | 40 | 1115 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.6 | 20 ; 25 |
| 1050 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.5 | 20 ; 15 ; 14 | 1116 | ケヤキ | 14.0 | 48 ; 18 |
| 1051 | イロハカエデ | 4.2 | 10 | 1117 | イロハカエデ | 7.3 | 29 |
| 1052 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.0 | 9 ; 44 ; 45 | 1118 | ケヤキ | 15.0 | 27 |
| 1053 | サクラ(ソメイヨシノ) | 3.3 | 7 | 1119 | イロハカエデ | 7.7 | 30 ; 22 ; 17 |
| 1054 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.6 | 27 | 1120 | サクラ(ソメイヨシノ) | 5.9 | 11 ; 8 |
| 1055 | イロハカエデ | 6.6 | 20 ; 26 | 1121 | アオギリ | 8.5 | 14 |
| 1056 | ヤエザクラ | 3.8 | 10 ; 8 ; 5 | 1122 | ケヤキ | 9.8 | 19 |
| 1057 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.1 | 17 ; 8 ; ※49 | 1123 | イロハカエデ | 6.6 | 26 ; 16 |
| 1058 | サクラ(ソメイヨシノ) | 7.5 | 16 ; 15 ; 10 | 1124 | キンモクセイ | 6.1 | 13;11;10;9 |
| 1059 | サクラ(ソメイヨシノ) | 4.8 | 8 | 1125 | クスノキ | 7.5 | 16 |
| 1060 | サクラ(ソメイヨシノ) | 3.5 | 5 ; 6 | 1126 | ナンキンハゼ | 10.5 | 25 |

| | | | | | | | |
|------|-------------|------|---|------|--------|------|--------------|
| 1127 | アオギリ | 8.4 | 17 | 1178 | サクラ | 8.5 | 16 ; 17 |
| 1128 | サクラ | 7.0 | 43 | 1179 | イロハカエデ | 5.4 | 6 ; 7 ; 8 |
| 1129 | クワ | 12.0 | 18 ; 19 | 1180 | クロマツ | 4.8 | 12 |
| 1130 | サクラ | 9.0 | 29 | 1181 | イヌマキ | 6.6 | 10 ; 15 ; 18 |
| 1131 | サクラ | 9.0 | 18;22;22;26 | 1182 | クスノキ | 9.5 | 30 ; 30 ; 45 |
| 1132 | サクラ | 6.2 | 10 | 1183 | イロハカエデ | 5.1 | 11;13;18;20 |
| 1133 | サクラ | 5.4 | 22 ; 7 | 1184 | シラカシ | 10.0 | 43 |
| 1134 | クスノキ | 14.0 | 71 | 1185 | サクラ | 3.7 | 7 ; 9 |
| 1135 | サクラ | 7.8 | 40 | 1186 | サクラ | 4.3 | 12 |
| 1136 | サクラ | 7.9 | 19 ; 19 ; 20 | 1187 | クロマツ | 5.4 | 12 |
| 1137 | イロハカエデ | 4.8 | 15;15;16;16 | 1188 | クロマツ | 4.3 | 12 |
| 1138 | イロハカエデ | 4.3 | 16 ; 15 ; 9 | 1189 | クロマツ | 4.1 | 13 |
| 1139 | イロハカエデ | 7.0 | 28 ; 16 | 1190 | クロマツ | 5.9 | 15 |
| 1140 | ヤマザクラ | 9.0 | 37;19;15;14 | 1191 | クロマツ | 4.0 | 17 |
| 1141 | ヤマザクラ | 5.4 | 20 ; ※ ²⁾ 32 | 1192 | ヒマラヤスギ | 8.0 | 22 |
| 1142 | ヒノキ | 8 | 31 | 1193 | ヒマラヤスギ | 8.5 | 16 |
| 1144 | ヤマザクラ | 7.3 | 15 ; 10 | 1194 | クロマツ | 6.8 | 19 |
| 1145 | ヤマザクラ | 5.4 | 37 | 1195 | ヒマラヤスギ | 8.0 | 20 |
| 1146 | ヤマザクラ | 7.5 | 38 ; 12 | 1196 | ヒマラヤスギ | 7.5 | 15 |
| 1147 | エノキ | 9.0 | 21 ; 15 | 1197 | ヒマラヤスギ | 7.0 | 20 |
| 1148 | ナラノヤエザクラ | 6.1 | 14 | 1198 | モミ | 6.0 | 25 |
| 1149 | ナラノヤエザクラ | 5.5 | 10 | 1199 | クロマツ | 4.6 | 20 |
| 1150 | イロハカエデ | 6.2 | 13 ; 11 | 1200 | クロマツ | 4.3 | 16 |
| 1151 | ヤマザクラ | 6.8 | 37;38;28;21 | 1201 | ヒムロ | 5.2 | 13 |
| 1152 | ナラノヤエザクラ | 4.0 | 7 | 1202 | ヒムロ | 5.4 | 15 |
| 1153 | ナラノヤエザクラ | 5.8 | 7 ; 10 | 1203 | クロマテ | 5.2 | 19 |
| 1154 | ナラノヤエザクラ | 5.5 | 10 | 1204 | クロマツ | 3.6 | 13 |
| 1155 | ナラノヤエザクラ | 6.6 | 13 | 1205 | モミ | 3.8 | 12 |
| 1156 | ナラノヤエザクラ | 6.0 | 12 | 1206 | クロマツ | 5.3 | 16 |
| 1157 | ナラノヤエザクラ | 6.7 | 12 | 1207 | ヒムロ | 6.2 | 17 |
| 1158 | カイヅカイブキ | 7.0 | 36 | 1208 | イロハカエデ | 5.6 | 10 ; 11 |
| 1159 | エノキ | 9.0 | ※ ²⁾ 19 ; ※ ²⁾ 18 | 1209 | サルスベリ | 5.7 | 27 ; 8 |
| 1160 | イチョウ | 11.5 | 47 | 1210 | イヌマキ | 8.6 | 16 |
| 1161 | ナラノヤエザクラ | 5.4 | 14 ; 10 ; 9 | 1211 | サルスベリ | 5.7 | 7 ; 7 |
| 1162 | ナラノヤエザクラ | 5.5 | 6 ; 6・6 | 1212 | イロハカエデ | 3.8 | 6 ; 8 |
| 1163 | ナラノヤエザクラ | 6.0 | 17 ; 5 | 1213 | イヌマキ | 5.3 | 7 ; 7 |
| 1164 | ナラノヤエザクラ | 5.6 | 9 ; 7 - 4 | 1214 | サルスベリ | 3.2 | 5 |
| 1165 | ナラノヤエザクラ | 5.8 | 12 ; 14 | 1215 | イヌマキ | 7.8 | 14 |
| 1166 | ナラノヤエザクラ | 6.0 | 9 | 1216 | サルスベリ | 5.9 | 7 ; 9 |
| 1167 | ナラノヤエザクラ | 6.9 | 12;11;6;6 | 1217 | イヌマキ | 7.5 | 17 |
| 1168 | ナラノヤエザクラ | 6.4 | 16 | 1218 | サルスベリ | 4.0 | 13 |
| 1169 | ナラノヤエザクラ | 5.4 | 12 | 1219 | イヌマキ | 8.2 | 17 |
| 1170 | ナラノヤエザクラ | 5.8 | 21 | 1220 | サルスベリ | 5.5 | 6 ; 7 ; 8 |
| 1171 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.1 | 16 ; 9 ; 6 | 1221 | ヒマラヤスギ | 13.5 | 45 |
| 1172 | ヒマラヤスギ | 5.2 | 18 | 1222 | クロマツ | 8.3 | 19 |
| 1173 | ヒマラヤスギ | 5.1 | 15 | 1223 | サクラ | 6.7 | 13;14;17;20 |
| 1174 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.0 | 12 ; 12 | | | | |
| 1175 | サクラ(ソメイヨシノ) | 6.0 | 14 ; 15 | | | | |
| 1176 | イロハカエデ | 2.9 | 10 ; 10 | | | | |
| 1177 | ヒマラヤスギ | 6.3 | 21 | | | | |

※¹⁾ 地上から約1.8mの高さ

※²⁾ 地上から約1mの高さ



あ と が き

昨年7月に「教育研究特別経費」の審査が行われ、さいわいにも本プロジェクト『『大学の自然』ガイドブックの作成』にも予算が配分されることが決定された。さっそく、関係者が集まって、本書の発行を計画し、それぞれの分担を決めた。学内のスタッフだけでは手薄なので、非常勤講師や卒業生にも分担・執筆を依頼した。

当初は刷り上がりで100ページ以内に収める予定であったが、集まった原稿は140ページを越える分量であった。そのすべてを収めることは予算的に到底無理であるため、附属演習林の動植物に関する原稿は、残念ながら、割愛せざるを得なかった。附属演習林関係の原稿を寄せてくださった方々にお詫び申し上げたい。

本書は「解説・ガイド編」と「資料編」から成っている。前者は本学の構成員の誰もが身近な動植物を知る手掛かりになることを願って編集した。記事は読物として楽しめることを目指し、できるだけ平易に書き、写真やイラストを入れて親しみやすい形にまとめた。後者は動植物のリストなどであり、一般の人たちにとっては無味乾燥であるが、資料的価値は大きく、われわれのエネルギーの大半は「資料編」の方に注がれた。

大学構内に生育する数多くの樹木の来歴（いつ、どこから来たか）について、この機会に明らかにしたかったが、依頼した原稿が間に合わなかった。その代わりに、現在の時点で、構内の千本以上の樹木の高さと太さを測定したデータを載せた。そのデータは国有財産（学内の樹木は国有財産である）の管理のために、また各樹木の今後の生育を追跡するために、貴重な資料であると思われる。

今回、割愛した附属演習林の自然に関しても同様な本を出す機会が与えられることを願っ

ている。また、大学の動植物は年ごとに変化しているので、本書も、いずれ改訂する必要があるであろう。

表紙を、本学のシンボルともいふべき、吉備塚のクヌギの樹叢の写真で飾った。今井靖親先生の作品であり、表は夏の、裏は冬の、同じアングルから撮った写真である。

（北川尚史）

執 筆 者

- | | |
|------|------------------------------|
| 浅見 卓 | 昭和63年度本学大学院卒業 |
| 石井登興 | 昭和63年度本学卒業 |
| 今井靖親 | 心理学教室 |
| 井上龍一 | 附属小学校 |
| 北川尚史 | 生物学教室 |
| 公文 勝 | 小理4回生 |
| 菅沼孝之 | 奈良女子大学理学部 （本学非常勤講師） |
| 田中棟一 | 附属農場 |
| 出口博則 | 高知大学理学部 （昭和45年度本学卒業） |
| 東村隆子 | 生物学教室 |
| 人見 功 | 附属中学校 |
| 森源治郎 | 大阪府立大学農学部 （本学非常勤講師） |
| 山口明夫 | 大和郡山市立少年自然の家 （昭和45年度本学卒業） |
| 吉川幸男 | 学生課 |

奈良教育大学の自然

— 動植物編 —

1990年（平成2年）3月31日発行

編集者 平成元年度「教育研究特別経費」
《奈良教育大学の自然》研究班
（代表 北川尚史）

発行者 奈良教育大学
〒630 奈良市高畑町

印刷所 明新印刷株式会社
〒630 奈良市橋本町36

